



0034346-000

EB5-23

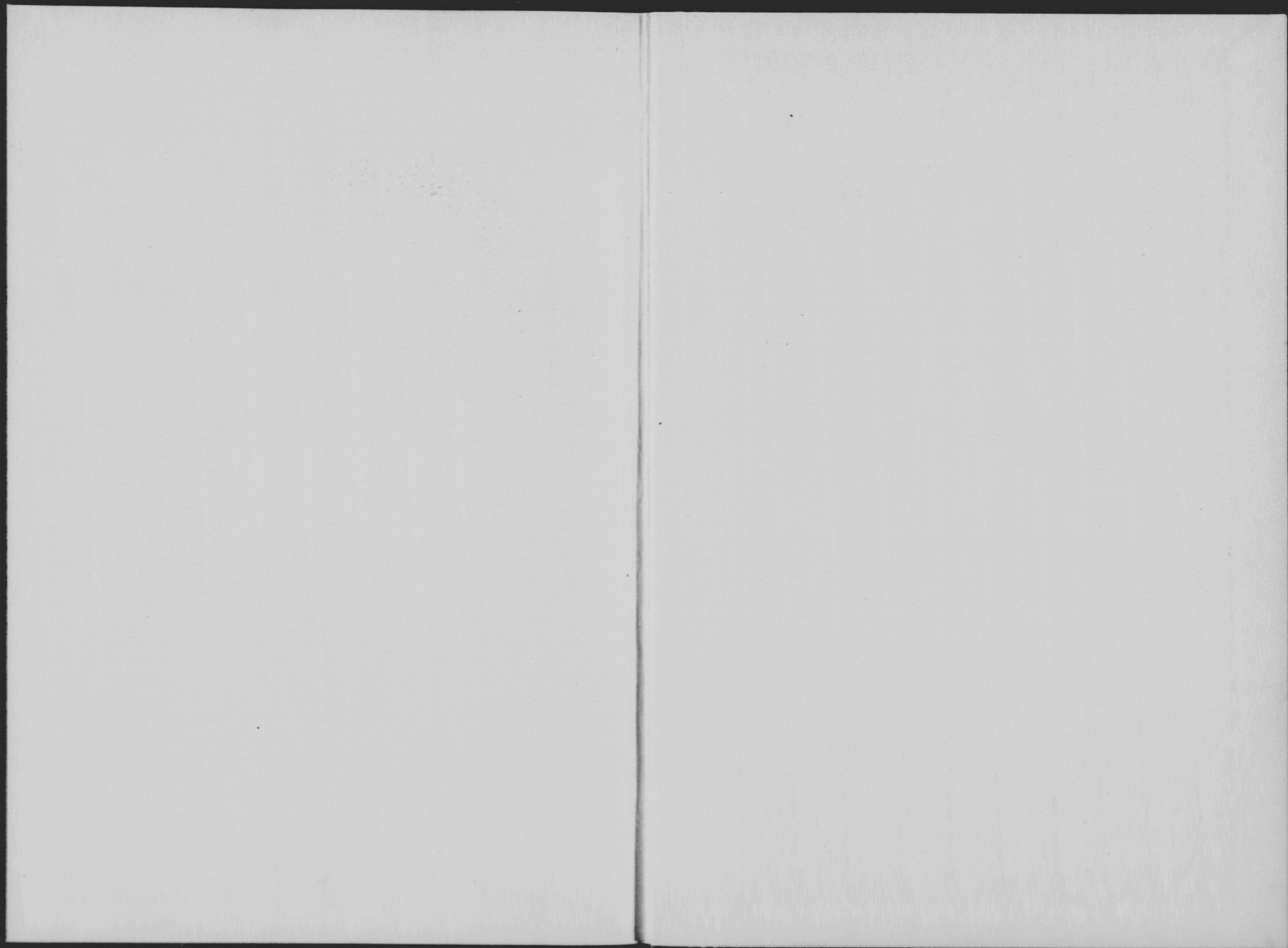
思想研究資料

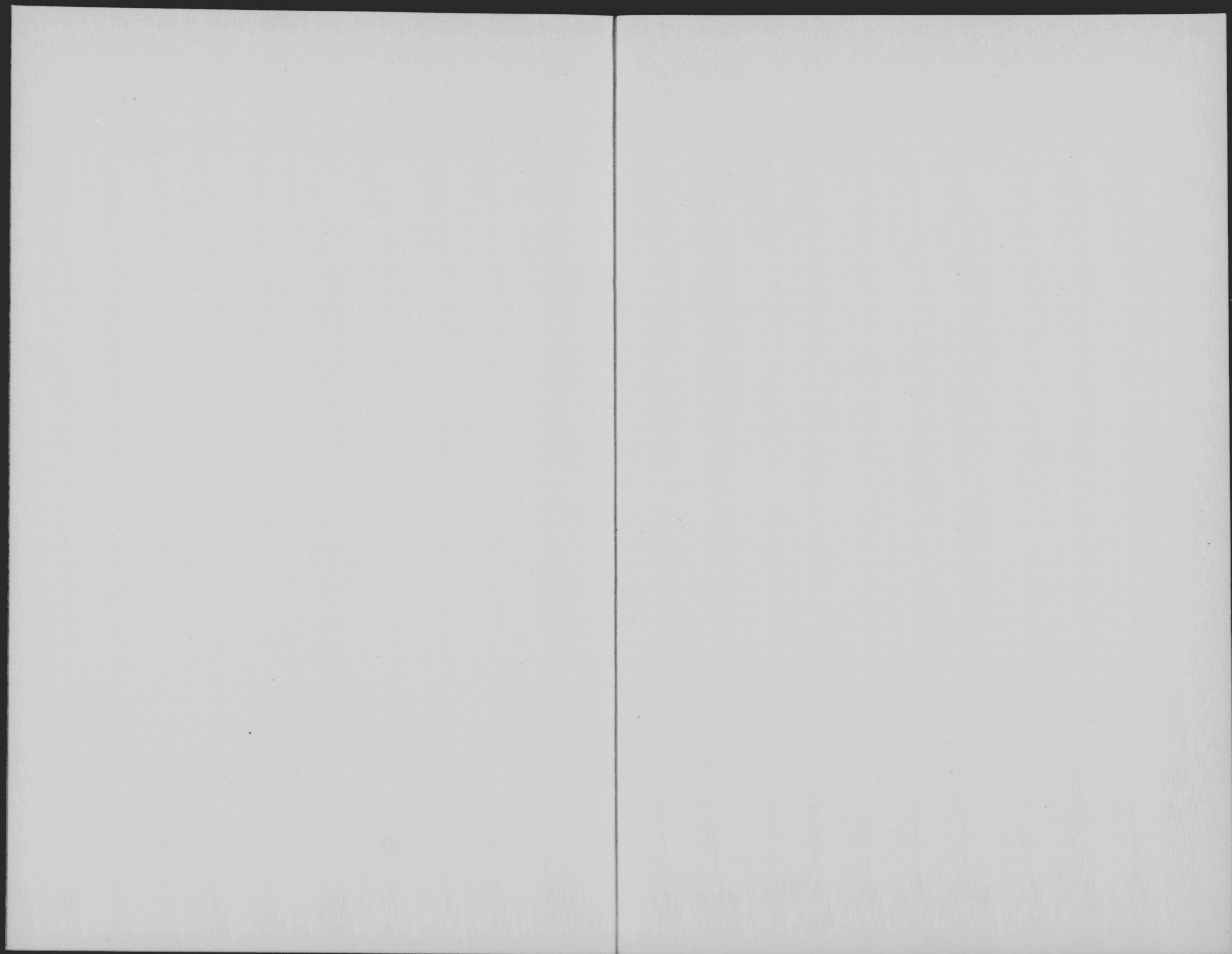
司法省刑事局

第7~9輯

1928. 6~9

AGC





池 A-62

卷 A
228

秘

昭和三年六月

思想研究資料

第七輯

司法省刑事局



卷 A
228

EBS
23

228
寺
國會
56.9.12
圖書

寺
國會
45.8.-5
圖書
消

81W44212

~~835954~~

はしがき

- 一 學生治安維持法違反事件梗概は同事件の内容並經過の摘録に過ぎないのであるから研究資料としての價値に於て甚だ乏しいものであるけれども事件の概略を知るの一助とならぬこともあるまいと考へて舊稿を殆んど其の儘本資料に載せることにした。従て今日になつて見ると其の敘述の内容に重複してゐる個所があり且事後の經過の補足すべきものが存することをもお断りして置き度い。
- 二 身上調査は一件記録の豫審調査、檢事聴取書及本人の手記に基き學生の思想的形成過程を考察するの資料の一たることを目的として編成したものであつて大正十五年十二月印刷に附されたものであるが此頃要求せらるゝ向が相當多いので今回更に増刷の意味に於て印刷することにしたのである。
- 三 尙此の機會に於てお断りして置き度いことは從來の「思想調査」の題號を「思想研究資料」と變更したことである。題號は變つても「思想調査」の繼續たる點に於ては變りがない。本資料に於て從來の進行番號を追つてゐるのは夫れが爲である。

昭和三年六月

思想部

目次

學生治安維持法違反事件梗概.....一

第一部 事件ノ内容.....一

第二部 手續.....六

第三部 被告人ノ身上調査.....三一

學生治安維持法違反事件身上調査.....二三

學生治安維持法違反事件梗概

學生治安維持法違反事件梗概

第一部 事實の内容

一 大正十四年十一月十五日京都市内同志社大學構内に於て義に出版法に依り發賣頒布禁止差押處分に付せられたる朝鮮自由労働團體外四團體名義の「狼煙ハアガル兄弟ヨ此ノ戰ニ参加セヨ」と題する軍事教育反對運動の宣傳びら貼付の事實を警察官に於て發見し調査の末日本學生社會科學聯合會關西地方聯合會所屬會員の一人たる同志社學生の所爲なること判明し同人の所持品中より更に數種の不穩文書を發見したり。而して夫等の不穩文書は前記關西地方聯合會に屬する一部學生の作成に係るものと認められたるを以て同年十二月一日關西地方聯合會に屬する京都帝國大學學生及同志社學生の主腦分子十數名を検束すると共に承諾の上家宅搜索を行ひ多數の證據品を領置して取調べたる結果不圖も學生が日本労働組合評議會所屬の労働者の一部と協同して共產主義運動の實行に干與せる形跡を認め其の旨検事局に報告せり。検事局は爾來多數の證據品を點檢して研究の末大正十五年一月十五日一部の學生を勾引檢擧するに至りしものとす。

二 本件事實の内容に立入るに先ち説明の便宜上日本學生社會科學聯合會に付略述せんに本會は各大學の社會科學研究會を構成單位とする關東、關西、東北の三個の地方聯合會より成立せる聯合體組織の團體にして社會科學の研究と其の普及とを目的とし最高の決議機關として年一回召集せらるる全國大會あり各地方聯合會相互の連絡機關とし

て中央委員を置き各地方聯合會は夫々決議機關、執行機關を備へ關東に於ては東大の新人會、關西に於ては京大社會科學研究會其の中心となり牛耳を執れり。(東北は他に比し組織不完全なるのみならず思想的にも遅れ居り本件に關係薄きを以て言及せず)日本學生社會科學聯合會の前身は單に學生聯合會と稱し當時は組織不完全にして其の活動亦見るべきものなかりしが大正十三年日本學生社會科學聯合會と改稱して第一回全國大會を東京市に開催してより漸次組織備はり會員其の數を増し研究亦其の歩を進めて宛然社會科學は「マルキシズム」「レーニニズム」の別名なるかの觀を呈するに至り次で大正十四年七月十六日京都帝國大學學生集會所に於て第二回全國大會を開催するに至れり。

日本學生社會科學聯合會の組織目的歴史の概略叙上の如くなるが前記第二回全國大會は二個の點に於て重大なる出來事なりき。其の一は學生社會科學聯合會(以下單に學聯と略稱す)が思想的に一時代を劃したる點是なり。詳言すれば一方大會に於て可決せられたる第二回全國大會「テーゼ」は學聯の學生運動が無産階級運動の一翼たること及其の指導原理は「マルキシズム」「レーニニズム」なることを表明すると共に他方所謂共產主義者に直接間接刺戟さるる機會多かりし爲急進的に左傾せる關東地方聯合會(以下單に關東學聯と略稱す)の中心分子は從來主として古典的なる「マルクス」の資本論の如き龐大なる書籍の研究に没頭し居たる關西地方聯合會(以下單に關西學聯と略稱す)の學生に對し時代は既に資本主義社會の没落期たる帝國主義時代に入りたるを力説し現代に即したる「レーニニズム」の研究の必要なるを鼓吹せる結果關西學聯の學生は翕然として「レーニニズム」の研究に走るに至り思想的に一大飛躍を遂ぐるに至れり。他の一は大會の前後に互り協議せられたる事實が本件起訴事實の内容を成せ

る點是なり。即大會に於ては警察官の臨監あり眞意を吐露する論議の不能なりし爲大會の翌日秘密會を開き「テーゼ」主張の趣旨を徹底的ならしむると共に他の無産階級運動への積極的參加、労働者階級の教化(プロレットカルト)の必要「マルキシズム」「レーニニズム」に依る教育の具體的教材等を議して全國的教程を可決せり。(イ)第二回全國大會に於て關東方面の中心分子に由り刺戟せられ「レーニニズム」の研究に進みたる結果京大社會科學研究會員は大正十四年九月第二學期の開始と共に其の組織を改正して班組織を採用すると共に「プロカル」運動(プロレットカルト運動の略語)參加を謀り「プロカル」運動に關する「テーゼ」及「プロカル」教程の作成を審議するに至り同年九月二十日より十月中旬に至る間數次委員會を開催して之を議したるも確定するに至らざりき。(ロ)其の間關西學聯も亦組織を改正して社會部なる活動機關を設置するの議生じたる爲京大研究會に於て目論見たる「プロカル」運動は關西學聯の社會部の事業に移管することとなり更に同志社其の他の學生參加して「プロカル」に關する「テーゼ」、「プロカル」教程は關西學聯の委員會の審議を経て同年十月十八日略其の確定案を得たり。(ハ)然るに當時日本労働組合評議會京都地方聯合會の幹部は學生間に右の審議あることを知り共に相携へて其の實行に當らんことを申出て學生側亦之に賛同して學生労働者各委員を擧げて數次會合の末同年十一月一日京都無産者教育協會なる團體を設立し其の發會式を舉行し労働者其の會長に就き都市「プロカル」、農村「プロカル」、圖書、財政の各部長に學生就任せり。而して右無産者教育協會の設立せられたる爲曩に略確定したる關西學聯の「プロカル」に關する「テーゼ」並「プロカル」教程は實施を見ずして終れり。京都無産者教育協會は其の構成分子の思想系統より觀て其の指導原理は「マルキシズム」「レーニニズム」に在ること推察し得べしと雖も果して如何なる「テーゼ」に

基き如何なる内容の教程に依り「プロカル」運動を爲さんとするものなるかの點に付ては遂に確證を得るに至らざりしも右協會に加入したる學生及勞働者の會員が各部署を定め同年十二月一日を期し京都市内及附近の勞働組合、農民組合に出張して愈其の實行に着手する豫定なりしことは物證により確認することを得たり。然るに偶然にも其の第一日たる十二月一日冒頭第一項記述の如く一部中心分子學生の檢束行はれたる爲遂に之が實行を見るに至らざりき。

關西方面の情勢叙上の如くなりしが其の間關東方面に於ては第二回全國大會後九月二十六日關東學聯秋季總會を開き京都に於て可決せられたる全國的教程の基礎となるべき全國的教育「テーゼ」骨子を作成可決せり。總會は公開にして警察官の臨監ありたるを以て詳細の具體的説明に觸るることなく該「テーゼ」骨子は關東學聯の常任委員會、代表委員會等少數中心分子の會合に於て協議せられ(ニ)事實上確定したる議案を單に形式的に總會の議決に付したるに過ぎず。而して右可決せられたる全國的教育「テーゼ」骨子は關西學聯に送付せられ同年十一月七日神戸市に於て開催せられたる關西學聯秋季大會翌日の祕密會に於て審議せられ無修正可決採用せられたり。(ホ)

第二回全國大會後學聯は叙上の如く飛躍的に急進し彼等の運動は校内運動より街頭運動迄突進せり。而して其の運動は無産階級解放運動の前衛分子換言すれば階級闘争の闘士の養成を目標と爲し居りし爲必然的に少數分子獲得の運動に墮し終れり。翻つて當時校内に於ては一方軍事教育の實施と共に他方高等學校に於ける社會問題研究会の解散を命ぜらるるあり之と同時に學聯に對する官憲の注目亦嚴重となり來れり。斯の如き情勢を看取したる學聯の中心分子は此の儘進まんか學生の大衆を彼等軍國主義者流の反動勢力の下に奪はれ學聯の勢力を彌が上にも孤立的な

らしむるのみならず延ては學聯の存在自體をも危殆ならしむるものと做し學生大衆獲得運動に方向轉換すべしと叫ぶに至れり。其の結果同年十二月二十三日、二十五日の兩日に互り東京市に召集せられたる全國執行委員會の協議となり關東、關西、東北の中心分子十數名相會合して街頭より更に校内に立歸り學生大衆に對する運動の戰術を議し大學専門學校は勿論進んで中學程度の學生に對しても之が連絡を保ち教育を實施すべきことを決議したり。(ヘ)

以上(イ)、(ロ)、(ハ)、(ニ)、(ホ)、(ヘ)の六個の協議は本件犯罪事實中の主要なるものを摘記したるものなるが此等の協議は治安維持法第二條に該當するものとして起訴豫審に付せられたるものとす。以下該協議が治安維持法第二條に該當する所以に付概説する所あらんとす。

而して此の點に付ては先づ以て「レーニニズム」「マルキシズム」は「マルキシズム」のより高度に發展し其の内容に於てより豊富となりたるものにして二者は別個の觀念に非ず(の概念殊に「レーニニズム」に於ける組織と教育の重要性に關しての記述を必要とするも今此の問題の全般に互りて解説を試むることは到底困難なるを以て茲には單に教育なる運動が共產主義運動の最初の段階に屬し且實行運動なる點を明にするに止めんとす。

學聯の中心分子は現代社會を理解する上にも將又之を改造する上にも「レーニニズム」は最も正しき科學的學說なることを確信し居れり。「レーニニズム」に依れば社會の進化發展は歴史的必然なりとす。即原始共產制度時代より奴隸制度時代、封建制度時代、資本主義制度時代と順次社會が推移發展したることは歴史の證明する所にして社會は一定の客觀的條件の具備することにより變革するものなり。而して資本主義社會の次に來るべき社會はより進化發展したる共產主義社會にして此の社會への推移には無産階級獨裁の時代を経由すべきことは不可避的なりと説

く。更に資本主義社會は其の内在的矛盾の爲必然的に崩壊して共產主義社會に推移するも之を自然の趨勢に委せんか其の間人類は多くの罪惡と不幸とを見ざるべからず。次に來るべきより發展しより良き社會に推移するに付ての所謂生みの惱を意識的に短縮せしむるものは即無産階級解放運動なりと主張す。此の運動の戰略としては無産階級大衆に對し先づ以て階級意識を鮮明ならしめて闘争の精神を植付け次で此の未組織大衆を労働組合等の如き組合に組織し多數の組合は無産階級の陣營に於て共同戦線を張り「ストライキ」等經濟闘争を爲すことに由り「ブルジョア」の陣營に肉迫し更に精銳分子は組合より政黨に入り政黨は議會に於て政治闘争を爲すことに由り權力を「ブルジョア」より收奪するを以て其の概要と爲す。而して右運動は大衆の支持なくしては到底其の目的を達するを得ざるべく大衆の支持は大衆を教化して其の階級意識に目醒ましむることに由りて之を得るものなるが故に茲に教育は運動の基礎的第一步にして其の重要性を占むるものとす。無産階級は生産手段と權力とを其の手中に收奪すること

を以て第一義とす。然れども「ブルジョア」は右の兩者を飽く迄固守すべきを以て茲に暴力革命は不可避的として認めざるを得ざるも暴力は第二義的のものたることを力説す。以上は被告等の主張を要約したるものに係る。學生運動は右の主義主張に基き活動すべき分子を教養して社會に送り出すと共に労働者階級に對し階級意識を注入するに付ての具體的方法を協議したるものなるを以て治安維持法第二條に該當するものとす。

第二部 手 續

檢學の端緒

一 大正十四年十一月十五日京都市内同志社大學構内に於て曩に出版法に依り發賣頒布禁止差押處分に付せられたる朝鮮自由労働團體外四團體名義の「狼煙ハアガル兄弟ヨ此戦ニ参加セヨ」と題する軍事教育反對運動の宣傳びらを貼布の事實を發見したる爲め所轄警察に於て其行爲者内偵中日本學生社會科學聯合會關西地方聯合會所屬員なる同志社高等商業部生徒大浦梅夫の所爲なること判明せり。仍て同月十八日同人を該警察署に同行し取調べしに不穩なる各種印刷物所持の嫌疑ありし故同人の承諾を得たる上其宿所に就て搜索を爲したる處二十種餘の謄寫版刷書類を得たり。

二 右書類を京都府警察部特高課に於て査閲したるに不穩のもの多く日本學生社會科學聯合會に屬する一部學生中に容易ならざる出版法違反事實あるべしと認め同年十二月一日を期し同特高課の手に於て京都帝國大學及同志社社會科學研究會中心分子二十餘名に對し其承諾を得たる後各自の居室、合宿、研究會本部等の搜索を實行せり但し該搜索に對し承認の意を表せざりしもの一名ありしを以て此の分に就ては警察部の請により檢事に於て刑事訴訟法第二百五十五條による家宅搜索の強制處分を豫審判事に請求して搜索を實行し尙京都帝國大學寄宿舎内一室の搜索に關しては其着手前花田同大學學生監の諒解を得同學生監立會の下に之が實行を爲し結局前示各搜索に因り合計五百一點の證據物を任意領置若くは押收せり。

三 爾來京都地方裁判所檢事は異常なる努力を以て慎重に多數證據物の整理と精査とを爲し漸く同年十二月二十日に到り證據物上は出版法違反罪あることの確認を得ると共に學生社會運動の連絡系統關係者及實狀等の大體を了知し

且或は治安維持法違反行爲あるべしとの疑念をも懐くに到りしものなり。

搜索及押收

一 前項に示せし如く大正十四年十二月二十日に到りて事件に對し前示所信を得たるを以て直ちに一般活動を開始すべく先づ被疑者等の所在を内査したる處早く既に年末年始の休暇を利用して歸省せるもの尠からず搜索實行上不便甚しきに因り來春學生歸洛の時期を待ち活動を開始することと爲せり。

彼の京都府警察部の爲したる大正十四年十二月上旬の檢束搜索處分に對し世論沸騰せる結果内務當局救済の爲め司法官憲が大正十五年一月十五日に至り突如として學生事件の檢舉を斷行せりとの批難の如きは這般搜索の實狀を知らざる謬論とす。

二 斯の如き次第にて學生の歸洛に付き注意中大正十五年一月十五日をトし京都帝國大學社會科學研究會員等が先年獨逸社會民主黨に反抗したる結果同黨員の手に殺害せられたる獨逸革命共產黨の團將たる「カール、リーブクネヒト」及「ローザ・ルクセンブルグ」男女の爲め追悼記念會を京都に開催する旨の内報に接したるを以て主たる中心分子は必ず當日迄に歸洛するものと見其前日先づ必要上全國の各新聞紙に對し本件記事掲載の差止通告を發し一月十五日午前九時を期し刑事訴訟法第二百五十五條の規定に従ひ一齊に京都管内に於て十五名東京管内に於て十一名大阪管内に於て一名神戸管内に於て十二名福岡管内に於て八名仙臺管内に於て四名の居宅事務所等に對し搜索を行ひ尙其後必要に應じて數ヶ所の搜索を實行し新に一千六十四點の有力なる證據物を押收せしめ之を曩に任意領置若くは押收せる證據物五百一點と通計するときは實に一千五百六十一點の多きに達せり。而して全然證據物を發見せざ

りしは眞に數ヶ所に過ぎず。

三 搜索の場所に就ては慎重なる注意と甚大なる考慮とを費し苟も必要以上に及びしものなく孰れも曩に發見したる證據物就中往復文書日記手帖等の記載に據り出版法違反に該當する出版物頒布の事實又は之に重要關係ある諸事項に互り押收すべき證據物の存在を認知するに足るべき狀況を認め得たるを以て刑事訴訟法の規定を遵守し搜索の實行を爲したるものなり。

勾留釋放及被告人の健康状態

一 前項に示せし一齊搜索の日即大正十五年一月十五日、先づ出版法違反事件被疑者として大田遼一郎外十七名に對し刑事訴訟法第二百五十五條の規定に従ひ強制勾留處分を請求し檢事の取調を進行したる處治安維持法違反事件の嫌疑ありと思料したるを以て之等の者に對し治安維持法違反及出版法違反として豫審を求め爾後六回に互り通計三十七名の學生と日本労働組合評議會京都地方評議會書記(舊學生)一名總計三十八名を該豫審に付し尙内一名に對する不敬罪に付ても豫審を求めたり。

二 勾引狀發付後は枝恭二は約二十日間池田隆、武藤丸補の二名は各約五十日間逃走して其所在を晦し其間勾引狀の執行を不能ならしめたる事實あり。

三 速に勾留すべき被疑者にして病症の爲め勾留を延期せしもの及び遂に勾留狀を執行するに至らざりしもの各一人を存す、而して刑務所收容に就ては嚴重なる健康診斷を行ひ相當永き拘束に堪へざる見込の者は拘束せざる方針を採り注意を拂ひたるも中途疾病の爲め釋放を早むるに到りたるもの九名を生ず釋放當時に於ては醫師の診斷書に明

白なるが如く固より重患に非ず必しも急速の釋放を要せざるもの多かりしも加療上の不便を察し醫師の申報に接すると同時に釋放したり、尙勾留被告人の釋放は同年九月二十日の上村正夫を以て其の殿とす。

取調の進行

一 收容被告人は青年學徒にして概して純眞の性格を有し居たるも其の奉ずる主義主張の結果官憲に對する反感甚だしく殊に大正十四年十二月上旬の行政檢束を解かれたる後各自の行爲が果して出版法乃至治安維持法に問擬せらるるや否やに付臨時調査委員會を設置して辯護士の意見を求め凡有る方面より研究して將來の取調に際し各自の供述に付申合を爲す等證據の湮滅を謀りたる結果、檢事豫審判事の取調に當り、強辯を弄して真相を供述せざりし爲め取調に相當の日時と手數とを要したるも漸次檢事豫審判事に對し諒解する所あり終に各被告人共其事實及抱懷せる思想に關し眞實を告白するに至れり。

二 檢事及豫審判事の取調は理想的に之を行ひ寛嚴其の宜を得其取調時間の如きも午前八時以前午後九時以後に及びしことなし。

三 豫審判事に於て被告人に對し外部との信書の授受面接を禁止したるも被告事件の性質上已むを得ざるに出でたるものとす、然り而して之等の禁止も絶對的に之を實施したるに非ずして多數書籍の授受閱讀を認許し特殊必要の場合に於ては信書の授受面接共之を許容せり。

豫審終結

一 第一回豫審請求は大正十五年一月二十六日にして被告人の員數前示の如く總計三十八名に達し煩雜なる證據物一

千五百餘點被告事件の性状亦廣汎多岐重大にして且被告人の態度前述の如きものありしも係豫審判事の絶大なる努力の結果比較的早く同年九月十五日を以て京都地方裁判所の公判に付する旨の決定を見るに至れり。

二 犯罪事實は治安維持法違反事實出版法違反事實及不敬罪事實の三點に分れ廣汎複雑多岐を極む而して其の中樞を爲すは治安維持法違反事實なるを以て此の點に付ては冒頭第一部に之を概説したり、尙豫審終結決定書記載の犯罪事實を抄記せば次の如し。

治安維持法違反事實

被告人大田遼一郎外三十七名は日本帝國の國體及經濟組織と相容れざる「マルキシズム」「レーニニズム」の社會革命思想を抱懷し學生及無産階級に對し組織的に此等の革命思想を普及し之を指導訓練して所謂無産大衆を抱擁する大團體を創成し組織的大衆の革命運動により一切の權力を無産階級に掌握せしめ日本帝國の根本組織を變革し無産階級の政治的支配階級たる地位を獲得し其の獨裁政治を施行すると共に凡ゆる生産機關を社會の共有に歸せしめて經濟組織の根柢たる私有財産制度を破壊し共產主義社會を建設せむと企て其の實行に關し大正十四年六月二十五日より同年十二月二十五日に至る間東京、京都、大阪、神戸各市内に於て數次會合を開きて學生社會運動の一般方針、會員の教育方針及教程、活動の單位としての班の生活方針、校内運動に關する方針、學生群に對する戰術、都市勞働者農民等の無産階級に對する無産階級的教化（プロレットカルト）の方針並其の教程、學生の一部及日本勞働評議會京都地方評議會幹部との合同による無産者教育機關の創設等に就き協議を爲したり。

出版法違反事實

學生治安維持法違反事件梗概

被告人山崎雄次外七名は大正十四年八月中より同年十一月中に至る間京都市内數ヶ所に於て政體を變革し國憲を紊亂すべき

- 一 「プロレットカルト」に關する「テーゼ」附「プロカル」教程
- 一 「プロレットカルト」運動に關する「テーゼ」
- 一 日本學生社會科學聯合教育「テーゼ」骨子附全國的教程
- 一 スターリン著「レーニン主義の理論と實際」中の一部を抄譯したるもの
- 一 班生活「テーゼ」

等の文書を著作印刷し之を學生社會科學聯合會員其他に配布したり。

不敬罪事實

被告石田英一郎は大正十一年七月十三日及同年十月三十一日の兩度自己の日記に感想として天皇に對する不敬の文詞を記載したり。

公判の準備

事件京都地方裁判所の公判に付せられ大正十五年十月十二日一件記録公判に廻送せられたる以來同裁判所に於ては犯罪の性質、被告人の身分、訴訟の對社會的意義等に鑑み慎重に審議を重ねるの必要を認め同地方裁判所長自ら裁判長として審理の任に當ることとなり同所長指揮の下に公判の準備に着手せられたれども犯罪が革命的社會思想の所産にして之が審理に支障なき程度に理解するに付多大なる努力と準備調査を爲すを要したること事件の内容複雑

多岐に互り之を分析綜合するの必要ありたるは勿論各犯罪事實と對應する各般の證據を分類整理するを必要とし此等の調査の爲相當の日子を費やすの已むを得ざりしこと加之昭和二年三月七日管内丹後地方の大震災に因り區裁判所及登記所の焼失倒壊並廳員及其の家族の死傷生じ其の救済及善後策に忙殺せらるるに至りたること更に被告人等の辯護人側に於ても記録浩漭の爲其の謄寫を終了したるは漸く同年一月初旬なりしと共に其他公判に於ける辯護の準備を要したること等の事情に因り同年四月四日第一回の公判が同裁判所刑事部第一號法廷に於て開廷さるるに至る迄六ヶ月有餘の月日を経過したるものとす。

公判手續

一 公判開廷せらるるや事件の性質上繼續審理を爲すを適當とし日曜日を除くの外は連日公判を開廷して審理を續行したるが審理は先づ被告人石田英一郎に對する不敬罪を分離して治安維持法及出版法違反事件より進行せられ檢事正より豫審終結決定書と同一趣旨の犯罪事實の陳述ありたる後事實審理が開始せられたれども被告人等は開廷當初より反抗的態度を持って興奮の狀あり裁判長の訊問中「オ前」と呼びたる言葉を捉へて差別的待遇の甚しきものとなし爾後平等の處遇を得んことを求むるものあるや一同之に和し「左様ダ」「左様ダ」と連呼し或は一切の答辯を爲さざるべく決議したりと申出づる等一時波瀾を惹起したれども辯護人其の間に立ち訴訟の圓滑なる進行上の見地より被告人側に勸告する所あり裁判所に對して要望する所は爾後辯護人を通じて之を申出づることとし漸くにして事無きを得たるが如き有様なりき。

而して被告人等の辯疏する所は全公判を通じて否認に非ずんば不知を以てし豫審調書を基本とする裁判長の訊問に

對しては該豫審調書の記載を其の根柢より打破せむことを努め該調書は豫審判事より強要せられ無理に自署捺印したるものに係り其の多くは無根の事實にして檢事又は豫審判事の老獪なる術策に陥り單純なる社會科學の研究並普及の行動を實行運動として結合せられたるものなりと供述し其の細目の點に關するや記憶に存せざる旨答へ殊に自己以外の共同被告人に關する事項其の他被告人等が各協議の場所に參加出席したりや否等の點に付ては悉く之を遺忘したる旨辯疏する等純眞なるべき學生生徒としての態度を缺くこと甚しく或は日々謀議を凝らし豫め公判廷に於ける非難攻撃の役割を定め裁判長の言辭の末節を捉へて宣傳の用に供せむとしたるが如き觀を呈したり。

斯の如き訴訟の狀況の下に於ける裁判長の心勞は推察するに餘りあり然れども多年の刑事裁判事務の經驗と穩健なる態度とは終始變はらざる溫情と審理の公正となりて現はれ審理を重ね行くに従ひ被告人等の了解する所となりたると共に裁判長の指揮命令理論に合せりとせば被告人等に於て忽ち首肯し毫も之に反抗することなかりし等の爲訴訟進行に便宜を得被告人等の行動漸次穩健となり險惡なる法廷の狀勢は緩和せられ唯公判第九回目主任檢事の論告中被告人中より發言し「檢事ノ奴」なる言辭を弄したる者公判第十回辯護人の辯論中被告人より「左様ダ」と發言したる者ありたるを以て其の都度裁判長より嚴重なる訓戒を加へたるに過ぎず唯第十三回公判に於て相被告人の陳述に對し一被告人が再度「左様ダ」と發言したるを以て直に退廷を命じたるに辯護人の懇願と同被告人が今後發言せざる旨の誓を爲したるに付退廷命令を取消したる事實ありたれども爾來公判終結に至るまで極て靜肅なる狀態保持せられたり。

二 公判に於て事實審理を終へたるは四月十三日なり。翌十四日には檢事正及主任檢事は

- 一、學生社會科學運動の一般情勢(萌芽時代、發生時代、現實化時代及活躍時代)
 - 二、其の組織及機關(附班及中心分子)
 - 三、學生社會科學運動の内容 (一、一般方針、二、校内運動、三、校外運動)
 - 四、無産者教育協會
 - 五、實行運動の實例並他團體との關係
 - 六、學生社會科學運動の目標
 - 七、擬律
 - 八、犯情
 - 九、刑の量定
- の各事項に互り事實及法律の適用に付詳細なる有罪の論告を爲し被告人等に對し本件運動が未だ甚しく大を成さざりし點竝被告人等の本件運動に於ける地位及實行運動に於ける任務遂行の深淺の別等の犯情を參酌して禁錮一年以上同三年以下の求刑あり。

三 同月十六日より十九日に至る四日間辯護人の各辯論あり翌二十日には被告人中より選ばれたる六名の者より

- 一、總論及結論
- 二、一般學生社會運動
- 三、組織

四、校内及校外運動

五、「プロレットカルト」

六、無産者教育協會

の各分擔事項に付檢事の論告に對する反駁的最終の陳述あり。茲に波瀾重疊を極めたる辯論も全く終結して訴訟の結審を告ぐるに至り同年五月三十日被告人等に對する第一審判決の言渡あり。尙曩に審理を分離せられたる石田英一郎に對する不敬事件に付ても四月二十七日判決の言渡ありたるものとす。

公判ノ裁判

一 治安維持法違反被告事件に對し豫審終結決定書と同じく被告人等が我國體の變革及私有財産制度否認の目的を以て其の目的たる事項の實行に關し協議を爲したる事實を認定し其の行爲を以て孰れも治安維持法第二條に該當するものとし其の法定の刑期範圍内に於て禁錮八月以上同一年以下に各量定處斷せられ病氣闕席者一名を除く被告人三十七名中實刑を科せられたる者二十二名刑法第二十五條に依て刑の執行を猶豫せられたる者十五名なり。唯豫審終結決定書に於て認められたる所と異なるは公訴事實中被告人等が學生社會運動の一般方針、會員活動の單位としての班の生活方針、校内運動に關する方針、學生群に對する戰術及日本勞働組合評議會京都地方評議會幹部との合同による無産者教育機關の創設等に付協議を爲したりとの事實に付孰れも其の協議が國體の變革又は私有財産制度の否認の目的を以て其の目的たる事項の實行に關し爲されたりとの證明十分ならざるものとせられたる點なりとす。

二 辯護人等は何れも被告人等の行爲が法律上犯罪を構成せざる趣旨の下に無罪の辯論を爲したるものにして其の要旨は之を次の三點に歸着することを得べし。

(イ) 治安維持法第二條に所謂私有財産制度の否認の實行に關し協議を爲したるものとは其の實行としては不法なる方法を協議したるものを指し其の實行の違法手段に依ることを必要とするを以て法制上の手續合法の手段に依り之を否認するものを包含せず而して被告人等の行爲は假に其の實行に關し協議を爲したるものとするも孰れも其の手段は合法なるを以て其の行爲は右法條所定の罪に該當せず。

(ロ) 凡そ犯罪構成要件の一たる犯意の成立には法規違反の認識を必要とす、然るに被告人等は本件行爲に關し治安維持法違反の認識無かりしものなるが故に此の點に於て犯意の成立は阻却されたるものと云ふべく同法違反の罪を構成せず。

(ハ) 假に被告人等に於て私有財産制度否認の實行に關し協議を爲したるものとするも被告人等は孰れも其の否認實現の能力無きものなるが故に刑法上所謂不能犯の範疇に屬し犯罪を構成せず。

然れども判決に於ては辯護人の右主張を以て孰れも其の理由なきものとして排斥したり、其の理由は次の如し。

(イ) 治安維持法に所謂私有財産制度の否認の實行とは現在我國の法制上認められたる財産の私有に關する制度の存在を全く無視するが如き方法に依り其の全部又は根幹に互り現實に廢止又は變革することを指稱し必ずしも其の手段の合、不法は之を問はざるものと解すべく例へば現時私有財産即時沒收の目的を以て其の實現を主たる目的とする政黨の組織に關し協議するが如き行爲も亦之に該當するものと云はざるべからず況んや被告人等は共產制社會

への過渡的時代に於て無産階級の獨裁を必然とし其の實行の爲強力の不可避なることを是認するものなるに於てをや。

(ロ) 我刑法上犯罪の構成には法規違反の認識を必要とせず。被告人等が治安維持法第二條所定の犯罪の構成に必要なる事實に對し認識ありたることは證據上明かなるを以て其の犯意の成立を阻却するに足らず從て其の責任なしと云ふを得ず。

(ハ) 現在に於けるが如く無産階級意識の尖鋭化したる我國社會生活の狀勢の下に於て被告人等の如き緊密なる組織統一及多數の會員を有する團體的勢力に依り「マルクス」主義「レーニン」主義の如き革命的理論を指導精神として被告人等の爲したる如き運動は必ずしも其の目的たる私有財産制度否認實現の能力なきものと斷定し難し。

三 出版法違反事件に對しては二月七日勅令第十一號大赦令に依り赦免せられたるを以て刑事訴訟法第三百六十三條第三號恩赦令第三條に則り免訴の言渡あり。

四 不敬事件に對しては右出版法違反事件と同じく右勅令に依り赦免せられたるを以て右同一法條に則り四月二十七日被告人に對し免訴の言渡ありたるものとす。
而して被告人等に對する檢事の求刑及裁判所の科刑を表示すれば次の如し。

檢事	求刑	第一審判決の結果	被告人氏名	判決當時の年齢
禁錮	三年	禁錮一年 未決勾留百三十日通算	是枝 恭二	二四
同	二年	同 未決勾留百三十日通算	清水 平九郎	二四

禁錮	求刑	第一審判決の結果	被告人氏名	判決當時の年齢
禁錮三年	三年	禁錮一年 未決勾留百三十日通算	村尾 薩男	二六
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	山崎 雄次	二七
同	三年	同 未決勾留百三十日通算	後藤 壽夫	二五
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	石田 英一	二五
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	淡田 德三	二七
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	岩田 義道	三〇
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	栗原 佑	二四
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	實川 清之	二五
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	池田 隆	二六
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	橋本 省三	二六
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	藤井 米三	二六
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	野呂 榮太	二八
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	鈴木 安藏	二四
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	上村 正夫	二五
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	松本 篤一	二五
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	秋笹 正之	二五
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	泉 隆	二六
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	内海 洋一	二六
同	二年六月	同 未決勾留百三十日通算	衣谷 賀真	二七

學生治安維持法違反事件梗概

四歳の者全数の三割強を占め其の數十二名なり。次に二十三歳及二十五歳の者各七名を算し其の他は爾餘の各年齢に大差なく配屬せり。

健康

被告人等の健康状態は特に不良にして全数の四割六分即十六名は既往並現在に於ける病者に屬し其の病症は呼吸器系統十名、神経系統六名なり。

家庭

- 一 家族に就て觀るに兩親現在する者二十五名、父を缺く者八名、母を缺く者三名、兩親共に缺く者一名、繼父母なる者一名なり。
- 二 家業に關しては農最も多くして十八名、商五名、官吏並勤人七名、其の他二名、無業六名なり。
- 三 家産は判明を缺くと雖大略資産家と目せらるる者十三名、中位に在る者十四名、恒産なき者十一名なり。

學業

被告人の多數は學業優秀にして小中學校時代より佳良の成績を保ち來りたる者少からず頭腦亦明晰にして廣く内外の書籍を精讀せり。

思想變異ノ原因

複雑多岐に互り簡單なる類別を試むるに適せずと雖試に其の主たるものを示さば師友書籍の感化に因る者十一名、逆境に在りたるに因る者十一名、順境に在りたるに因る者五名、時代の影響に因る者六名、宗教に依り煩悶を解決

し得ざるに因る者二名なり。

被告人の身上、收容、釋放等を表示すれば左の如し。

豫審終結決定

本籍 名古屋市中國區流川町五十三番地

住居 中華民國天津日本租界壽街五十二號

無職

大田 遼一郎

明治三十八年三月生

本籍 豐橋市新錢町六十番ノ三、五十三番ノ三合筆地

住居 靜岡縣濱名郡三方原村六百三十九番地ノ一

無職

白谷 忠三

明治三十六年八月生

本籍 枋木縣上都賀郡北大飼村大字茂呂八十五番地

住居 同上

無職

山崎 雄次

明治三十四年十二月生

本籍 香川縣綾歌郡金山村大字江尻百八十七番戶

住居 神戸市松本通四丁目一番屋敷大浦一二方

學生治安維持法違反事件梗概

本籍	無職	大浦 梅夫	明治三十七年一月生
本籍	愛知縣葉栗郡北方村大字中島十三百四十九番地		
住居	愛媛縣邊泉郡三津濱町稻荷新地宮本廣方	岩田 義道	明治三十一年四月生
	無職		
本籍	大阪市西區北堀江上通四丁目十八番屋敷第二號		
住居	大阪市西成區南神合町六百十五番地淡嘉一方	淡 德三郎	明治三十四年八月生
	無職		
本籍	福島縣相馬郡小高町南小高字町四十五番地		
住居	福島縣石城郡平町新田目善次郎方	鈴木 安藏	明治三十七年三月生
	無職		
本籍	仙臺市北三番町三十四番地		
住居	京都市上京區吉田河原町十九番地		

	無職	栗原 佑	明治三十七年五月生
本籍	石川縣鹿島郡瀧尾村字井田五十八ノ三十三番地ノ甲		
住居	同上		
	無職		
本籍	兵庫縣城崎郡豐岡町滋茂五番地	泉 隆	明治三十五年八月生
住居	同上		
	無職		
本籍	兵庫縣揖保郡龍野町龍野七百五番地	橋本 省三	明治三十五年十一月生
住居	同上		
	無職		
本籍	鳥取縣氣高郡鹿野町大字鹿野千三百二十五番地	黒田 久太	明治三十八年四月生
住居	同上		

無職

熊谷孝雄

明治三十四年九月生

本籍 兵庫縣出石郡資母村字畑山五十八番屋敷
住居 同上

無職

永井哲二

明治三十六年三月生

本籍 山口縣都濃郡徳山町千九百七十番屋敷
住居 同上

無職

内海洋一

明治三十五年二月生

本籍 鹿兒島市平之町百九番地
住居 同上

無職

村尾薩男

明治三十五年八月生

本籍 滋賀縣東淺井郡湯田村大字三田三十九番屋敷
住居 神戸市南本町一丁目十六番地

無職

清水平九郎

明治三十七年二月生

本籍 神戸市葺合小野柄通四丁目七番地
住居 同上

無職

衣谷賀真

明治三十四年九月生

本籍 京都市上京區岡崎北御所町二十五番地
住居 同上

無職

石田英一郎

明治三十六年六月生

本籍 山口縣都濃郡富岡村大字下上千三百十番地
住居 同上

無職

藤井米三

明治三十五年五月生

本籍 札幌市北三條西十五丁目一番地
住居 京都市上京區小山堀池町十番地逸見武雄方

學生治安維持法違反事件概況

無職 逸見重雄 明治三十二年七月生

本籍 秋田縣南秋田郡下井河村北川尻字海老澤村八番地

住居 同上

無職 鷺谷武二 明治三十六年二月生

本籍 山形縣酒田郡酒田町一丁目一番地

住居 同上

本籍 佐賀縣佐賀郡久保田村大字久富六百七十三番地

住居 福岡縣嘉穂郡飯塚町驛南道

無職 古賀二男 明治三十七年七月生

本籍 佐賀縣東松浦郡濱崎町大字横田下千四百六十二番地

住居 同上

無職 宮崎菊次 明治三十五年八月生

本籍 鳥取縣氣高郡美穂村大字下味野六番屋敷

住居 滋賀縣蒲生郡八幡町郊外北之庄近江療院内

無職 澤田政雄 明治三十六年一月生

本籍 大津市上北國町二十七番地屋敷

住居 同上

無職 原田耕 明治三十八年二月生

本籍 大阪市北區會根崎上三丁目二十一番地

住居 同上

無職 黒川健三 明治三十七年一月生

本籍 松山市大字千船町七十一番地

住居 門司市楠町五丁目日本メソヂスト教會内

無職 小崎正潔 明治三十六年六月生

本籍 和歌山縣那賀郡龍門村大字杉原四百二十七番地

住居 同上

無職

蓬

臺 恒 治

三四

明治三十五年四月生

本籍 鹿兒島縣鹿兒島郡谷山町松崎百四十六番戶

住居 熊本市大江町字九品寺

是

枝 恭 二

明治三十七年十月生

無職

本籍 佐賀縣佐賀郡本庄村大字袋三十七番地

住居 東京府豐多摩郡中野町大塚千六百五十三番地山崎浩方

武

藤 丸 楠

明治三十九年二月生

無職

本籍 鹿兒島市西田町五十四番地

住居 鹿兒島縣始良郡加治木町反土九十五番地

池

田 隆

明治三十五年五月生

無職

本籍 大分縣直入郡豐岡村大字會々千九百九十八番地

住居 東京府豐多摩郡杉並町高圓寺六百十一番地佐々木孝丸方

後

藤 夫

明治三十六年五月生

無職

本籍 廣島縣安佐郡三篠町大字楠木九百八十四番地

住居 同上

松

本 篤 一

明治三十六年四月生

無職

本籍 千葉縣山武郡千代田村字山田千六百八十九番地

住居 同上

實

川 清 之

明治三十六年十月生

無職

本籍 埼玉縣北足立郡田間宮村大字宮前百六十番地

住居 同上

秋

笹 正 之 輔

明治三十六年二月生

無職

本籍 廣島縣佐伯郡已斐町千二百四十六番地

住居 廣島縣安藝郡牛田村二葉堤三百七十八番地

學生治安維持法違反事件梗概

三五

無職

大橋 積

明治三十六年一月生

本籍 北海道夕張郡長沼村西七線北三號二千三百二番地

住居 東京市芝區下高輪町三十番地小池正次方

無職

野呂 榮太郎

明治三十三年四月生

本籍 福岡縣京都郡泉村大字崎野二千五百六十番地

住居 京都市下京區八條夷馬場町日本労働組合評議會京都地方評議會事務所内

京都無產者教育協會役員

上村 正夫

明治三十六年七月生

右被告人大田遼一郎、山崎雄次、大浦梅夫、橋本省三、村尾薩男、清水平九郎、衣谷賀真、宮崎菊次、澤田政雄、是枝恭二、後藤壽夫、實川清之ニ對スル各治安維持法違反及出版法違反、被告人白谷忠三、岩田義道、淡徳三郎、鈴木安藏、栗原佑、泉隆、黒田久太、熊谷孝雄、永井哲二、内海洋一、藤井米三、逸見重雄、鷺谷武二、古賀二男、原田耕、黒川健三、小崎正潔、蓬臺恒治、武藤丸楠、池田隆、松本篤一、秋笹正之輔、大橋積、野呂榮太郎、上村正夫ニ對スル各治安維持法違反、被告人石田英一郎ニ對スル不敬及治安維持法違反等各被告事件ニ付豫審ヲ遂ケ決定スルコト左ノ如シ

主 文

被告人大田遼一郎、山崎雄次、大浦梅夫、橋本省三、清水平九郎、宮崎菊次、澤田政雄、實川清之等ニ對スル各治安維持法違反及出版法違反被告事件及被告人白谷忠三、岩田義道、淡徳三郎、鈴木安藏、栗原佑、泉隆、黒田久太、熊谷孝雄、永井哲二、内海洋一、村尾薩男、衣谷賀真、藤井米三、逸見重雄、鷺谷武二、古賀二男、原田耕、黒川健三、小崎正潔、蓬臺恒治、是枝恭二、武藤丸楠、池田隆、後藤壽夫、松本篤一、秋笹正之輔、大橋積、野呂榮太郎、上村正夫等ニ對スル各治安維持法違反被告事件並ニ被告人石田英一郎ニ對スル不敬及治安維持法違反被告事件ハ何レモ之ヲ京都地方裁判所ノ公判ニ付ス

被告人村尾薩男、衣谷賀真、是枝恭二カ政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂スル事項ノ記載アル日本學生社會科學聯合會教育「テーゼ」骨子及全國的教程ヲ著作、印刷頒布シタリトノ公訴事實並ニ被告人後藤壽夫カ同上教育「テーゼ」骨子及全國的教程ヲ著作シタリトノ公訴事實ハ何レモ之ヲ免訴ス

理 由

前記被告人等ハ各左ニ掲クル事實ニ付公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルモノトス

第一

大正六年ノ露西亞大革命後ニ於ケル世界思潮ノ混亂ト無產階級運動ノ擡頭トハ我國思想界ニ鈔カラサル影響ヲ與ヘタルヨリ各大學及専門學校ノ學生及生徒ニシテ之ニ動カサレ社會問題ノ研究ニ志ス者増加シ東京帝國大學、早稻田大學、慶應義塾大學及明治大學等ノ學生ノ一部間ニ社會思想ノ研究團體ヲ生スルニ至リシモ其數約十校ニシテ是等各團

體相互間ニ何等ノ連絡統一等存セザリシヨリ大正十一年露西亞飢饉救濟運動ノ起ルヤ之ヲ機會ニ是等團體ハ相互ニ連絡ヲ執リ同年十一月七日露西亞革命記念日ヲトシ其代表者等ハ東京市内某所ニ集合協議シテ學生聯合會ヲ組織シ學生社會運動ニ一轉機ヲ劃シタルカ其後全國ニ互リ學生社會思想研究團體ノ數激增シタル結果統一の組織ノ必要ヲ生シ大正十三年九月中東京帝國大學第三學生控所ニ全國學生社會思想研究團體ノ第一回全國大會ヲ開催シ東京帝國大學及京都帝國大學其他各大學專門學校ノ社會思想研究團體ノ代表者數十名會合協議ノ上學生社會科學聯合會ヲ創設シ學生社會運動ノ方針ヲ少數團體主義ヨリ大衆團體主義ニ發展セシメ社會科學即チ「マルキシズム」ヲ標榜スル大衆運動ヲ進展セシムヘキコトニ定メ地方聯合會ヲ採リ關東關西及東北ノ三地域ニ從テ各聯合會ヲ確立シ各校學生社會科學研究會ヲ其構成單位トシテ右聯合會ニ屬セシメ各聯合會ニ夫々決議及執行ニ關スル機關ヲ設ケ尙中央委員ヲ置キ連絡事務ヲ掌ラシメ以テ全國的ニ統一の聯合體ヲ組織シ更ニ大正十四年七月中京都帝國大學々々生集會所ニ第二回全國大會ヲ開催スルニ及ヒ同大會ニ於テ日本學生社會科學聯合會ト改稱シ學生社會運動ノ一般方針ヲ確立シ即チ「マルキシズム」ヲ其指導精神ト爲シ無產階級運動ノ一翼トシテ新社會ヲ創造スルコトヲ其運動ノ目標ト爲シ爾來同方針ニ基キ種々活動シ來リシカ大正十四年末頃ニ於テハ加盟校約五十九校會員數約千六百名ヲ算スルノ隆盛ヲ見ルニ至リタルモノナル處被告人是枝恭二、村尾薩男、後藤壽夫、松本篤一ハ共ニ東京帝國大學々々生ニシテ同大學社會科學研究會ナル新人會ニ屬シ被告人衣谷賀眞ハ慶應義塾大學々々生被告人野呂榮太郎ハ同大學卒業生ニシテ共ニ三田社會科學研究會ニ屬シ被告人清水平九郎ハ明治學院生徒ニシテ同學院社會科學研究會ニ屬シ被告人秋笹正之輔ハ早稻田第二高等學院生徒ニシテ同學院文化思潮研究會ニ屬シ被告人實川清之ハ日本大學々々生ニシテ同大學社會科學研究會ニ屬スルモノナルカ以上被告

人ハ孰レモ日本學生社會科學關東聯合會ノ中心分子トナリ併セテ日本學生社會科學聯合會ニ對シ指導的立場ヲ有シ被告人淡徳三郎、藤井米三、大橋積ハ各京都帝國大學卒業生被告人大田遼一郎、白谷忠三、山崎雄次、岩田義道、鈴木安藏、栗原佑、泉隆、橋本省三、黒田久太、熊谷孝雄、永井哲二、石田英一郎、逸見重雄、鷺谷武二、古賀二男、武藤丸楠、池田隆ハ各同大學々々生ニシテ同大學社會科學研究會ニ屬シ被告人内海洋一、宮崎菊次、澤田政雄ハ各同志社大學々々生被告人大浦梅夫ハ同志社專門部高等商業科生徒ニシテ共ニ同志社大學社會科學研究會ニ屬シ被告人原田耕、黒川健三ハ各大阪外國語學校生徒ニシテ共ニ同校社會科學研究會ニ屬シ被告人小崎正潔ハ關西學院生徒ニシテ同學院社會科學研究會ニ屬シ被告人蓬臺恒治ハ神戸高等商業學校生徒ニシテ關西學院社會科學研究會ニ加入セルモノナルカ右淡徳三郎以下ノ各被告人ハ孰レモ日本學生社會科學關西聯合會ノ中心分子ト爲リ日本學生社會科學聯合會ノ爲メニ努力シ被告人上村正夫ハ日本勞働組合評議會京都地方評議會書記ニシテ從來同評議會ニ出入スル京都帝國大學社會科學研究會員ナル學生等ト共ニ無產階級運動ニ從事セルモノナル處以上被告人三十八名ハ孰レモ日本帝國ノ國體及經濟組織ト相容レサル「マルキシズム」「レーニニズム」ノ社會革命思想ヲ抱懷シ學生及無產階級ニ對シ組織的ニ是等ノ革命思想ヲ普及シ之ヲ指導訓練シテ所謂無產大衆ヲ抱擁スル大團體ヲ創成シ組織的大衆ノ革命運動ニヨリ一切ノ權力ヲ無產階級ニ掌握セシメ日本帝國ノ根本組織ヲ變革シテ無產階級ノ政治的支配階級タル地位ヲ獲得シ其獨裁政治ヲ施行スルト共ニ凡ユル生産機關ヲ社會ノ共有ニ歸セシメ以テ經濟組織ノ根柢タル私有財産制度ヲ破壊シ共產主義社會ヲ建設セント企テ其實行ニ關シ種々協議ヲ爲シタルモノニシテ

一 日本學生社會科學關東聯合會ニ於テハ豫テヨリ第二回全國大會ニ際シ全國的ニ學生社會運動ノ過去ノ經驗ヲ批判

シ其本質及職分ヲ明確ニ定メ將來ノ運動ノ一般方針ヲ統一のニ確立シ其根本方針ニ從ヒ學生社會運動ニ從事スル爲メ第二回全國大會「テーゼ」ノ作成ヲ必要トシ居タル處

(一) 大正十四年六月二十五日開催セラレタル關東聯合會代表委員會ニ於テ被告人後藤壽夫、清水平九郎及衣谷賀眞ハ第二回全國大會「テーゼ」草案起草委員ニ擧ケラレタルヨリ同被告人三名ハ同月下旬頃東京市下谷區上野櫻木町ナル新人會本部ニ於テ學生社會運動ノ一般方針ニ關シ學生社會運動カ「マルキシズム」ヲ指導精神トシ無産階級運動ノ一翼トナリ之ト共通ノ戰略ニヨリ無産階級ノ解放ヲ圖ラムカ爲メ日本學生社會科學聯合會ニアリテハ(イ)會員ノ有スル「ブルジョア、イデオロギー」ノ徹底的批判ト其ノ打破(ロ)及資本主義的傾向ヲ有スル學生ノ無産階級の啓蒙(ハ)無産階級運動ニ實質的貢獻ヲ爲シ得ル會員ノ養成訓練等ヲ其職分トシ之カ爲メニハ無産階級運動ヲ組織化シ階級闘争ヲ激化セシムル用具タリ且ツ無産階級運動ノ指導理論タル「プロレタリア」科學ノ收得ト其促進ヲ企圖スルコトヲ要スル旨ノ協議ヲ遂ケ同趣旨其他ノ事項ヲ起載セル第二回全國大會「テーゼ」關東案原稿(證第八七九號ノ一)(證第二號)ヲ作成シ

(二) 大正十四年七月七日頃新人會本部ニ於テ日本學生社會科學關東聯合會代表委員會ヲ開催シ被告人衣谷賀眞、秋笹正之輔、清水平九郎、村尾薩男、後藤壽夫等ハ學生社會運動ノ一般方針ニ關シ前記(一)所掲ノ第二回全國大會「テーゼ」原稿ノ各記載事項ニ互リ協議ヲ遂ケ之ヲ承認可決シ更ニ之ヲ同會ニ屬スル一般會員ニ諮ラムカ爲メ第二回全國大會ニ提案スルコトニ決シ

(三) 被告人山崎雄次ハ被告人村尾薩男ノ慫慂ニ基キ大正十四年七月十四日頃京都市北白川ナル京都帝國大學社會科學研究會本部ニ於テ學生社會運動ノ一般方針確立ニ關シ學生社會運動カ反資本主義運動ニシテ「マルキシズム」ヲ其指導精神トシ無産階級運動ノ一翼トナリ(イ)「マルキシズム」ノ徹底的體得(ロ)會員一般ヘ「マルキシズム」ノ普及竝ニ煽動(ハ)一般學生ノ進歩的運動ノ援助(ニ)一般學生ノ反動化ニ對スル徹底的殲滅(ホ)種々ナル社會的活動及事業ヘノ参加(ヘ)吾等ノ先輩及同僚ノ「マルクス」主義ヨリ逃避背離ヲ防クコト等ニ努メサルヘカラサル趣旨及其他ノ事項ヲ記載セル學生社會科學聯合會第二回全國大會「テーゼ」關西案(證第四號)ヲ作成シタルモ右關東案及關西案ハ其内容過激ニ互リ且措辭穩當ヲ缺クモノアリタル爲メ之ヲ公開ノ大會席上ニ於テ其儘上程審議スルコトヲ憚リタル結果同日頃被告人是枝恭二、村尾薩男、野呂榮太郎、山崎雄次等ハ同所ニ於テ談合ノ上右關東案及關西案竝ニ被告人是枝恭二ノ作成ニ係ル第二回全國大會「テーゼ」補足案等ノ各趣旨ヲ綜合シ全趣旨ニ於テハ右各草案ニ比シ毫モ變更ナキモ措辭稍穩健ナル第二回全國大會「テーゼ」新草案ヲ作成シ之ヲ上程スヘキ旨ノ協議ヲ遂ケタル上被告人是枝恭二ニ於テ之ヲ執筆シ資本主義ニハ幾多ノ矛盾アリ戰爭、恐慌、飢餓、失業等ノ社會的不安ト新舊中間階級ノ没落トハ就學者、卒業生ノ生活ニ大ナル不安ト動搖トヲ與ヘタリ斯カル生活上ノ動搖ト新興階級ノ運動トハ學生ノ思想ニ反映シ種々ナル學生運動ヲ生産シ新社會ノ創造ヲ目的トスル社會運動ト歩調ヲ一ニスル學生運動ヲ生スルコトモ亦歴史の必然ナリ自由主義ノ時代ヲ飛躍シテ帝國主義ノ段階ニ達シタル我國ハ世界大戰ノ勃發ヲ轉機トシテ急激ナル社會的變遷ヲ來シ富ハ急激ニ増大シ社會ハ未タ曾テ見サル程ノ進化ヲ遂ケタルニ拘ラス一方之ト共ニ「ストライキ」ノ頻出勞働運動ノ急激ナル勃興カアリ他方飢餓ト生活ノ不安トハ廣ク中間階級ノ没落ヲ招キ大正九年以後世界の恐慌ノ波動ハ急激ニ我國ヲ襲ヒ而カモ今尙恢復サレズ永久的失業群

ト植民地ノ反動運動等社會的不安ハ益々中間階級ノ思想ニ動搖ヲ與ヘ之ニ應シテ幾多學生運動ヲ生シタルモ其多クハ總テ中間階級ノ思想的動搖ノ表現ナリトハ言ヘ決シテ社會的不安ヲ解決シ得ルモノニアラスシテ寧ロ社會ヲシテ益々崩壞ノ途ヲ辿ラシムルモノニ過キス斯カル場合ニ於テ明確ナル科學的知識ノ獲得ニヨリ新社會創造ノ運動ヲ認識シ無產階級運動ト步調ヲ一ニシ來リシ吾等學生社會運動ハ益々其使命ノ重大ナルヲ覺ユ帝國主義日本ノ漸増的不安ト幾多ノ反動的攻勢ノ組織化ト中間階級ノ没落トハ總テ盲目的ナル「フアシスチ」的運動ノ到來ヲ豫想セシムルモノアリ他ノ學生運動中ニモ斯カル運動ニ包括セシメラルヘキ危懼存スルモノ少カラス斯カル時ニ當リ吾々學生社會運動ハ社會科學ノ研究並ニ普及ト社會科學研究會ノ存立權ノ主張トヲ其目標トセサルヘカラス而シテ之カ目的達成ノ爲メ(イ)科學的社會觀ノ體得自ラスカル社會的使命ヲ果サムニハ明確ナル理論ノ獲得ヲ要シ之カ爲メニハ研究ト同時ニ社會現象ニ留意ヲ怠ラス又可能ナル限りニ於テ社會的事業及調査ニ從ハサルヘカラス蓋シ理論ハ實踐ト共ニ固ク統一サルルコトニ依テノミ力タリ得ル(ロ)徹底的ニ「ブルジョア」的「イデオロギー」ヲ批判シ社會科學研究會ノ擴張ト緊密ナル統一組織ヲ保持シ社會科學ノ普及ニ努メサルヘカラサル趣旨其他ノ事項ヲ記載セル第二回全國大會「テーゼ」新草案(證第五號)ヲ作成シ

(四) 大正十四年七月十六日京都帝國大學々生集會所ニ於テ日本學生社會科學聯合會第二回全國大會ヲ開催シ被告人は枝恭二、村尾薩男、松本篤一、清水平九郎、野呂榮太郎、秋笹正之輔、實川清之、石田英一郎、橋本省三、山崎雄次、鈴木安藏、栗原佑、古賀二男、武藤丸楠、黒田久太、内海洋一、澤田政雄、蓬臺恒治、原田耕、黒川健三等ハ外數十名ノ出席者ト共ニ學生社會運動ノ一般方針ニ關シ前記(三)記載ノ日本學生社會科學聯合會第二回全

國大會「テーゼ」新草案(證第五號)ニ基キ之ヲ學生社會運動ノ一般方針ト爲スヘキ旨ノ協議ヲ遂ケ同案ヲ可決シ

(五) 第二回全國大會ニ於テハ學校當局及警察官ノ臨席アリ徹底的ニ議案ヲ審議シ得サリシト又學校當局ノ注意ニヨリ撤回シタル議案等モ存シタルヲ以テ學生社會運動ノ一般方針ニ關スル件其他ノ事項ヲ更ニ徹底的ニ審議スル要アリタルヨリ大會翌日ナル十七日左記二個所ニ分カレ秘密會ヲ開キタルカ

甲 被告人は枝恭二、清水平九郎、野呂榮太郎、石田英一郎、橋本省三、池田隆、武藤丸楠、古賀二男、内海洋一、黒川健三、栗原佑等ハ前記京都帝國大學社會科學研究會本部ニ會合シ學生社會運動ノ方針ニ關シ被告人は枝恭二ニ於テ前記第二回全國大會「テーゼ」關東案補足案關西案及新草案ノ關聯ニ就キ詳細説明ヲ爲シ

乙 被告人村尾薩男、秋笹正之輔、松本篤一、實川清之、山崎雄次、鈴木安藏、淡徳三郎、黒田久太、澤田政雄原田耕、蓬臺恒治、栗原佑等ハ京都市聖護院中町ナル京都帝國大學社會科學研究會合宿所ニ會合シ學生社會運動ノ方針ニ關シ被告人村尾薩男ニ於テ第二回全國大會「テーゼ」關東案ヲ又被告人山崎雄次ニ於テ同關西案ヲ各説明シ

孰レモ學生社會運動ノ一般方針ニ關シ前記第二回全國大會「テーゼ」關東案、同補足案、同關西案及同新草案ハ何レモ其趣旨ニ於テ同一ナルヲ以テ是等總テヲ綜合シタルモノヲ學生社會運動ノ根本方針ト爲シ之ニ從ヒ運動ニ從事スヘキ旨協議ヲ遂ケ尙全國的教程(證第九號)ヲ定メタル外種々ノ事項ヲ協議シ

二 日本學生社會科學關東聯合會ニ於テハ第二回全國大會以前ヨリ學生社會運動ノ目的達成ノ爲メ同會ニ屬スル會員一般ノ教育方針及教程ヲ統一のニ確立スルノ要ヲ認メ

(一) 被告人是枝恭二、清水平九郎ハ大正十四年九月上旬頃前記新人會本部ニ於テ日本學生社會科學聯合會ノ教育方針及全國的教程ノ確立ニ關シ被告人清水平九郎ノ作成ニ係ル教育「テーゼ」骨子及全國的教程ニ基キ

甲 教育方針ニ關シ

資本主義社會ニ於テ「ブルジョア」カ經濟的政治的ニ支配シコレニ對シテ「プロレタリア」カ經濟的政治的解放ノ爲メ鬭爭ヲ行フ限リ兩者ノ階級利害ハ絕對ニ一致スルコトヲ得ス又「ブルジョア」ニヨル思想の支配カ確立シ之ニ對シテ「プロレタリア」カ自己ノ「イデオロギー」ヲ對立セシメムトスル限リ「ブルジョア」教育ト労働者教育トノ對立鬭爭モ亦不可避的ナリ無産階級ハソレ自體資本主義社會ノ能動的否定要素ニシテ此役割ヲ果サムカ爲メ無産階級ノ階級意識ノ水準ヲ高ムル必要アリ從テ吾々ハ資本主義社會ノ最モ鋭キ批判ノ武器ニシテ大衆ノ解放運動ニ於ケル物質的權力タリ又新社會ヲ建設スル運動ノ用具ナル革命的理論即チ「マルキシズム」「レーニニズム」ヲ修得スル事ヲ要ス教育ノ分野ヨリ「ブルジョア」思想ヲ排撃シ吾々ノ思想の觀念的純潔ヲ維持スルコトハ吾々カ革命的「マルクス」主義的教育ヲ行フコトニヨツテノミ達成シ得ヘキモノナリ而シテ(イ)資本主義的環境及「ブルジョア」教育ヨリ受ケ入ルル非「マルクス」主義的「イデオロギー」克服ノ必要(ロ)無産階級ノ經濟的政治的共同戰線ニヨリテ生スル危險ヨリ指導精神ヲ確守スルコトノ必要(ハ)日和見主義其他ニ對シ鬭爭シ之ニ依テ「マルキシズム」「レーニニズム」ノ徹底的展開ヲ圖ル必要(ニ)大衆獲得ノ爲メ有能ナル組織者養成ノ必要等是等ノ社會的諸事情ニヨリ無産階級運動ニハ「マルクス」主義的一元教育ヲ必要トスルコト學生社會運動ハ無産階級運動ノ一散兵壕ナルヲ以テ無産階級運動ト共通ノ利害ノ上ニ立チ共通ノ目標ヲ有ス從テ學生社會運動ノ教育ハ無産階級運動ノソレ

ノ如ク「ブルジョア」教育ノ一否定要素ナル労働教育ト其軌ヲ一ニシ労働教育ノ眞ノ指導精神カ「マルキシズム」「レーニニズム」ノ理論ノ外ニ求メ得サル以上吾々ノ教育ノ指導原理モ亦之ヲ其基調トセサルヘカラス吾々ハ研究ト實踐トヲ引離ス事ニヨリ又鬭爭ヨリ遊離スル事ニヨツテ生スル理論ノ觀念化鬭爭意識ノ衰減ニ警戒セサルヘカラス鬭爭ト實踐ニ固ク統一セラレタル理論ノミ發展シ飛躍シ得ルモノニシテ學生社會運動ハ無産階級運動ニ貢獻シ得ル少數者獲得運動ナルヲ以テ斯カル少數者ハ最モ尖銳ナル無産階級の理論ニヨツテ武装サルル事ヲ要ス更ニ從來ノ教育上ニ於ケル共同戰線ノ反映ニヨツテ生セシ思想的不統一ヲ克服シ種々ナル「ブルジョア」的思想ヲ學生運動ノ思想的分野ヨリ排除スル爲メハ一元的教育ニヨリ吾々ヲ純化スルコトヲ要ス又労働運動、政治運動或ハ教育運動ニ於テ指導精神ヲ確守スル必要ハ極メテ大ナルニ反シ「マルクス」的理論ノ把握者比較的少數ナルカ故ニ吾々學生社會運動ニ於テ「マルクス」主義的一元教育ヲ必要トスヘキコト

乙 全國的教程ニ關シ

帝國主義時代及世界革命ノ時代ニ於ケル理論ハ當然「レーニニズム」ナラサルヘカラス日本學生社會科學聯合會ニ屬スル各研究会ニ於ケル教育ノ中心點ハ「レーニニズム」ノ基本的諸原則及諸問題ニ置カサルヘカラス不斷ニ變化スル「プロレタリア」階級鬭爭ノ状態ヘノ最深ノ理解ト最大ノ適應性トノ結合ハ「レーニニズム」ノ會得ニヨツテ達成シ得ラルサレハ今後研究会ニ於テハ原則トシテ中心分子ト一般會員トニ劃然區別スヘク各聯合會教育部ハ一般會員教育ノ爲メ其教程ヲ作成スルコト一般會員ノ教育ハ主トシテ中心分子自ラ當ラサルヘカラス中心分子ハ吾々ノ教育カ其本質ニ於テ變革教育ナルコトヲ知り且教育者組織者宣傳者ナルコトニ心掛ケ校內研究会ニ於テ之ヲ義

務的行爲トシテ實行シ無産階級運動ニ貢獻スヘキモノニシテ其二人タルト三人タルトヲ問ハス非常ナル努力ト研
 鑽トヲ以テ緊密ニ結合スル統一體ヲ形成スヘク決シテ孤立的ナルヘカラス加之中心分子ハ一般會員ノ用フル「テ
 キストブツク」ヲ熟讀スルト共ニ其重要點ヲ特ニ把握スルノ要アルカ故ニ其爲メニ中心分子ノミノ研究會ヲ必要
 トス而シテ中心分子間ニハ常ニ仕事ノ集中ト分業ヲ有機的ニ行ヒ各自分擔ノ仕事ハ之ヲ正確ニ果スヘク之ニ依リ
 中心分子ハ相互ニ進歩スルコトヲ要ス中心分子カ一般會員ヲ教育スルニ當リテハ(1)共產黨宣言(2)「ブハリ
 ン」著「エービーシー」(3)「エンゲルス」著「空想ヨリ科學ヘ」(4)「スターリン」著「レーニニズム」ノ理論ト實際(5)「レー
 ニン」著「帝國主義論」(6)「レーニン」著「國家ト革命」(7)「ブハリン」著「轉換期ノ經濟學者等」ノ書籍ヲ熟讀スルコトヲ要ス
 又一般會員ニ對シテハ「レーニニズム」ノ諸問題ヘノ鍵トシテノ辯證法資本主義經濟ノ矛盾、無産階級革命「マル
 キシズム」ノ組織原則ト兵法戰術等ニ關スル事項ニ付教授シ其教材トシテハ(1)「スターリン」著「レーニニズム」ノ
 理論ト實際(2)「バヴロビツチ」著「帝國主義ノ經濟的基礎或ハ「レーニン」著「帝國主義論」(3)山川均著「資本主義ノカラク
 リ或ハ空想ヨリ科學ヘ等ヲ使用スヘキコト

等ニ就キ協議ヲ遂ケ教育方針及全國的教程ヲ確立スル爲メ之ヲ日本學生社會科學聯合會ノ教育「テーゼ」骨子及全
 國的教程草案(證第九八一號)トスヘキコトヲ決シ

(二) 日本學生社會科學關東聯合會ニ於テハ大正十四年九月中旬頃前記新人會本部ニ常任委員會ヲ開キ被告人は枝
 恭二、清水平九郎、後藤壽夫、村尾薩男、野呂榮太郎等會合シ又同月二十日頃東京市芝區榮町マクドナルド教會
 ニ代表委員會ヲ開キ被告人は後藤壽夫、清水平九郎、松本篤一、實川清之、秋笹正之輔及其他ノ者會合シ其都度同

年第二學期中ニ於ケル同聯合會ノ諸計畫及同聯合會秋季總會ニ提出スヘキ提案等ニ付種々協議ヲ爲シタル上同月
 二十六日同市芝區三田四國町日本勞動組合評議會關東地方評議會本部ニ日本學生社會科學關東聯合會總會ヲ開催
 シ約七八十名ノ會員出席シタルカ被告人は枝恭二、村尾薩男、後藤壽夫、松本篤一、清水平九郎、野呂榮太郎、衣
 谷賀眞、實川清之、秋笹正之輔等ハ右出席會員ト共ニ學生社會運動ノ一般方針ニ關シ被告人は枝恭二ノ説明ニ依
 リ前記第一ノ一(五)ト同趣旨ノ協議ヲ爲シ之ヲ承認可決シ尙學生社會科學聯合會ノ教育方針ノ確立及教程ノ確
 定ニ關シ被告人清水平九郎ノ説明ニ依リ學生社會科學聯合會ノ教育ハ「マルクス」主義的一元教育ヲ行ヒ且之ヲ階
 級闘争ニ結ヒ付クルコトヲ要スルヲ以テ之カ方針ヲ確立シ教程ヲ確定スル爲メ前段(一)ニ記載シタルト同趣旨ノ
 教育「テーゼ」及教程ヲ作成スヘキコトヲ協議シ之ヲ可決シタル外種々ノ事項ヲ協議シ

三 京都帝國大學及同志社大學ノ各社會科學研究會ニアリテハ豫テヨリ研究及活動ノ單位トシテ班組織ヲ採用シ居タ
 ルヨリ全會員ノ結束ヲ有機的ニ強固ナラシメ班生活ノ方針ヲ確立スル爲メ班生活「テーゼ」ヲ必要トシ

(一) 大正十四年十月末頃同志社大學社會科學研究會ニ於テ班生活「テーゼ」草案ノ作成方ヲ被告人宮崎菊次外數名
 ニ一任シタルヨリ被告人宮崎菊次、内海洋一、澤田政雄、大浦梅夫ハ同年十一月上旬頃京都市塔之段毘沙門町ナ
 ル同研究會本部ニ於テ班生活ニ關シ帝國主義資本ノ陣營ノ一部タル大學、專門學校内ニ於テ社會科學研究會カ無
 産階級運動ノ一翼トシテノ陣營ヲ張り支配階級ニ對シ脅威ヲ與フルヨリ近時當局ハ吾々社會科學聯合會ニ對シテ
 極度ノ壓迫ヲ敢テ爲シツツアリ斯カル危急ノ秋ニ當ツテ吾々ハ敗慘ノ陣營ヲ奪還シ益々強固ナル陣營ヲ確立シ無
 産階級運動ノ一翼トシテノ任務ヲ完フシ得ル爲メ速ニ無産階級ノ階級戰ニ於ケル組織原則ニ從ヒ會員カ集中の統

一的ニ強固ニ結束サレ上層機關ノ統制ト會員ノ意思ノ反映ヲ有機的ナラシメ且全會員ニ對シテ階級戰ニ於ケル一兵卒トシテノ訓練ヲ徹底的ナラシムル爲メ班組織ヲ採用セサルヘカラスルコト班ヲ研究会ノ組織ニ於ケル基礎單位トシ會員ハ必ス班ニ分屬シ所屬班ノ名ニ於テ上層機關ニ建言シ班員トシテ其統制ニ服シ以テ集中的統一ノ組織ヲ確立シ強壓ニ抗シテ研究会ヲ發展セシメサルヘカラス班組織ハ研究会本來ノ目的ヲ達スル爲メ唯一ノ武器ニシテ且全會員ヲ階級戰ニ於ケル一兵卒トシテ教育訓練スル唯一ノ機關ナリ從テ班員ハ其目的達成ノ爲メ班委員ノ統制ニ從ヒ活動ニ參加シ「レーニニズム」ノ體系的研究ヲ遂ケ階級戰ニ於テ特ニ注意スヘキ事件其他種々ナル運動ニ關スル問題ニ付充分ナル討議ト批判トニヨリ結成サレタル理論ト戰術ヲ把握セサルヘカラスルコト又班員各個ノ生活ノ互助的批判ヲ爲スト同時ニ班ニ於テ結成サレタル理論戰術決議等ハ直チニ之ヲ班員ノ行動ニ移シ又班委員ニヨリ委員會ニ提出シ其執行ニヨリテ速ニ行動ニ移シ又其行動ノ成果ハ再ヒ直チニ班ニ於テ研究批判シ以テ理論ト實踐トヲ統一のニ進展セシメサルヘカラスルコト等ニ付協議ヲ遂ケ右趣旨ノ班生活「テーゼ」(證第一五號)ヲ作成シ之ヲ日本學生社會科學關西聯合會總會ニ提案スヘキコトニ決シ

(二) 日本學生社會科學關西聯合會ニ於テハ大正十四年十一月七日神戸關西學院ニ於テ同聯合會總會ヲ開催シ被告人橋本省三、山崎雄次、池田隆、石田英一郎、栗原佑、岩田義道、鷺谷武二、永井哲二、鈴木安藏、白谷忠三、黒田久太、熊谷孝雄、内海洋一、宮崎菊次、澤田政雄、原田耕、黒川健三、山崎正潔、蓬臺恒治外數十名出席シ校内運動ノ一般方針ニ關スル件其他提案事項ヲ協議シタルモ同總會ハ公開セラレ官憲ノ臨席アリ爲メニ上程ヲ憚ル議案モアリタルヨリ更ニ翌八日神戸市外西灘村原田成宮晋次郎方ニ於テ秘密裡ニ同總會繼續會ヲ開催シ會員約三十名出席シタルカ被告人橋本省三、池田隆、石田英一郎、栗原佑、岩田義道、永井哲二、黒田久太、内海洋一、宮崎菊次、大浦梅夫、原田耕、黒川健三、小崎正潔等ハ外出席者ト共ニ日本學生社會科學聯合會ノ教育方針ノ確立及教程ノ確定ニ關シ前記第一ノ二ノ(一)ニ記載スルトコト同一内容ヲ有スル同聯合會教育「テーゼ」骨子及全國的教程(證第八號)ニ基キ其所掲事項ノ全般ニ互リ又班生活ニ關シ前記班生活「テーゼ」所掲事項ニ付キ何レモ協議ヲ遂ケ各之ヲ關西聯合會ニ採用シ其各々ノ方針ニ基キ活動スヘキコトニ決シ

四 大正十四年十一月七日ノ日本學生社會科學關西聯合會總會ニ於テ校内運動ニ關スル一般方針カ議セラレタルヨリ同年十一月下旬頃京都市寺町通今出川上ル被告人橋本省三方ナル關西聯合會本部ニ於テ被告人橋本省三、山崎雄次大田遼一郎ハ校内運動ノ一般方針ニ關シ學生社會運動ハ無産階級運動ノ一翼ナルヲ以テ無産階級ノ前衛トシテ革命的知識分子ノ養成訓練ト新中間階級ノ反動ヲ防止シ同階級ヲシテ階級戰ニ善意的中立ヲ保タシムルコトヲ其任務トスヘキコトヲ要ス現在ノ如ク反動的壓迫カ組織化サレタル時代ニ於テ學生大衆ヲ輕視スル時ハ學生大衆ヲ反動ノ手ニ委ネ反動勢力ノ結成ヲ助長スルコトトナルカ故ニ吾々ハ校内運動ヲ組織的ナラシメ執拗ニシテ激烈ナル闘争ナクシテ學生大衆ヲ反動ノ手ニ奪ハルヘキモノニアラス此闘争コソ現實カ吾々ニ強要スル最モ大ナル闘争題目ナリ從テ吾々ハ無産階級ノ一翼ナルト共ニ又學生大衆ノ最左翼ノ一團トシテ絶エス學生ヲ封建勢力支配階級ノ反動的政策ニ對スル闘争ニ動員セサルヘカラス是等學生社會運動ノ任務ヲ明確ニ意識シ初メテ校内運運ノ一般方針ヲ確立スルコトヲ得ヘキモノナルコト又社會科學研究会ノ擴張ト其存立ヲ圖ル爲メ校内運動ノ一般方針ニ關シ(1)校友會ニ對スル方針校友會ハ學生一般ト密接ナル關係ヲ保ツ機關ナルカ故ニ其機關ヲ通シテ一般學生ニ社會科學ヲ宣傳シ以テ新

會員獲得ノ爲メニ努ムルコトヲ要ス(2)文藝哲學研究會、基督、佛敎青年會、エスベラント會等ニ對スル方針、此等學生ノ有スル集團ニ穿入シ個人的接觸ニヨリ社會科學ヲ宣傳シ之ヲ利用スルコト(3)教室ニ於ケル方針、各種ノ講義ニ依リ提供サルル無數ノ好材料ヲ捉ヘ其國家教育ノ本質ヲ暴露シ社會科學ヲ學生ニ普及スヘキ地盤ヲ造ルコトヲ要ス(4)研究會組織ニ關スル方針各種ノ宣傳ニヨリ社會科學研究ニ興味ヲ有ツニ至リシ學生ハ之ヲ研究會員トシテ何レカノ班ニ組織スヘク班ニ於テ研究シ訓練ヲ受ケ戰鬥的意思ヲ有シ活動的トナリタル會員ハ直チニ中心分子ノ組織ニ加フヘシ而シテ各研究會ノ中心分子ハ緊密ナル組織ト鐵ノ如キ規律ト統制ノ下ニ結集シ絶エス理論ト實踐トニヨリ自分等自身ヲ理論的ニ進化シツツ常ニ一般會員ヲ指導シ其水準ヲ高ムルコトヲ要ス又中心分子ハ定期ニ集合シ校內校外凡ユル運動ニ關シテ各係ヨリノ報道ヲ聞キ之ニ對シテ忌憚ナキ批判ヲ爲シ討論ノ結果ヲ決議シ直チニ實行ニ移ササルヘカラス(5)解散ノ虞アル研究會ニ關スル方針解散ノ虞アル研究會ニアリテハ解散後公然ノ會ヲ設クルコト困難ナルヲ以テ豫メ科學會、讀書會等ノ名ニ從ヒ自然科學、哲學凡ユル方面ヲ科學的ニ研究スルト云フカ如キ趣旨ノ下ニ公然タル會ヲ設ケ置キ解散ノ場合ニ備フルコトヲ要ス(6)軍事教育ニ關スル方針ニ關シテ西軍對策委員會ニ於ケル詳細ナル方針ニ從フコトヲ要ス(7)連絡ニ關スル方針、研究會ハ常ニ中央ト密接ナル連絡ヲ保チ研究會ノ情勢及運動方針ヲ報告スルト共ニ之カ批判ヲ求ムヘク中央ハ各地ノ諸機關ヲ綜合シテ直チニ之ヲ各研究會ニ反映セシムルコトヲ要ス等ノ事項ニ互リ協議ヲ遂ケ之ヲ日本學生社會科學關西聯合會所屬各研究會ノ校內運動ノ一般方針ト爲スヘキコトニ定メ同趣旨ノ「テーゼ」(證第十一號)ヲ作成シ

五 日本學生社會科學聯合會ニアリテハ第二回全國大會以後其主要勢力ヲ校外運動ニ傾注シ校內運動ヲ忽ニセシ爲メ

一般學生群ヨリ孤立スル虞アリタルヨリ之ニ對スル戰術ヲ考究セムカ爲メ大正十四年十二月二十五日東京帝國大學第二學生控所ニ於テ日本學生社會科學聯合會全國執行委員會ヲ開催シ被告人清水平九郎、松本篤一、秋笹正之輔、池田隆、橋本省三等ハ外數名ノ出席者ト共ニ

甲 學生社會運動ノ戰術ニ關シ

學生社會運動ノ共同戰線ノ意義ヲ明ニシ(イ)自由主義團體ニ對スル對策ニ付テハ適宜鬭爭題目ヲ轉開スルト共ニ絶エス集會ヲ開キ彼等ト常ニ接觸スヘキコト(ロ)反動團體ニ對スル對策ニ付テハ反動團體ノ大衆的トナラサル以前ニ於テ之ヲ學生大衆ヨリ遊離セシムルコト(ハ)學校當局ノ社會科學研究會ニ對スル壓迫ニ對スル對策ニ付テハ校外ニアリテハ自由主義團體、卒業生、新聞等ヲ利用シ校內ニ於テハ「クラス」會其他ヲ利用シテ學校ヲ學生ヨリ孤立セシムルコト(ニ)中等學校ニ對スル對策ニ付テハ學生社會運動ノ發展ヲ期スル爲メ全國ニ最モ包括的ニ「ブルジョア」ノ爲メ組織網ヲ張レル中等學校ヲ學生社會運動ノ組織網トセサルヘカラス之カ爲メニハ會員ハ出身中等學校ニ研究會ヲ組織セシムル様努力スルコト(ホ)壓迫ニ對スル對策ニ付テハ研究會ノ解散ニ備フル爲メ應急部ヲ設ケ危急ノ際臨機ノ處置ヲ取ラシメ又解散ヲ慮リ豫メ專攻科目ニヨル聯盟ヲ組織スルコト等ノ事項ニ互リ

乙 教育ニ關シ

從來ノ教育「テーゼ」及教程ハ學生ノ思想程度ニヨル段階教育方法ニ缺クル處アルヲ以テ之ヲ(イ)未組織學生ヘノ煽動及組織(ロ)新入會員ヘノ煽動及宣傳(ハ)一般會員ヘノ理論ノ注入ト行動ヘノ誘致(ニ)中心分子ノ理論的結成ト運動ヘノ積極的參加ノ四段階ニ分チ之カ教育方法ヲ修正スルコトニ付キ夫々協議ヲ遂ケ教育「テーゼ」ヲ包含スル戰術

「テーゼ」ヲ作成スヘキコトニ決シ

六 京都帝國大學社會科學研究會ニ屬スル一部ノ學生ハ無産階級解放ノ實現ヲ圖ラムカ爲メ學生社會運動ノ方針ニ基キ大正十四年三月頃以來都市勞働者及農民等ノ無産階級ニ對シ所謂「プロレットカルト」又ハ「プロカル」即チ無産階級の教化ヲ施シ居タル處漸次同運動カ組織化サレ或ハ同研究會ニ「プロカル」部ヲ設ケ同部ノ事業トシ或ハ「プロカル」部ヲ廢シ同運動ヲ委員總會ノ統制ノ下ニ置キ委員總會ノ直接事業トナシタルモ同年十月三日大阪市東區生野國分町ナル被告人原田耕方ニ日本學生社會科學關西聯合會代表委員會ヲ開キ被告人橋本省三、鈴木安藏、栗原佑、永井哲二、澤田政雄、黒川健三、原田耕、蓬臺恒治、小崎正潔等會合シ關西聯合會ノ組織ヲ一部改正シ新ニ社會部ヲ設ケ同部ニ於テ「プロカル」運動ニ關スル事務一切ヲ統制スルコトト爲スニ至リタルモノニシテ右「プロカル」運動カ漸次組織化サルニ從ヒ同運動ニ關スル方針及教程ヲ統一スルノ必要ヲ生シタルヨリ

(一) 大正十四年九月二十日京都市北白川ナル京都帝國大學社會科學研究會本部ニ同研究會委員會ヲ開キ被告人山崎雄次、岩田義道、石田英一郎、橋本省三、池田隆、鈴木安藏、淡徳三郎、栗原佑、熊谷孝雄、大田遼一郎、鷺谷武二、武藤丸楠、白谷忠三、藤井米三、黒田久太、泉隆等會合ノ上都市勞働者及農民ニ對シ「マルキシズム」「レーニニズム」ヲ指導精神トシテ「プロカル」運動ヲ爲スニ就テノ「テーゼ」及教程ヲ作成スヘキコトニ關シ協議ヲ遂ケ被告人山崎雄次外數名ヲ其作成委員ニ舉ケ

(二) 大正十四年十月四日前記京都帝國大學社會科學研究會本部ニ於テ同研究會委員會ヲ開キ被告人山崎雄次、石田英一郎、橋本省三、池田隆、栗原佑、淡徳三郎、永井哲二、熊谷孝雄、大田遼一郎、鷺谷武二、武藤丸楠、藤

井米三、黒田久太、古賀二男、大橋積、逸見重雄等會合ノ上被告人山崎雄次ノ作成ニ係ル「プロレットカルト」運動ニ關スル「テーゼ」附「プロカル」教程(證第八〇號第八一號)ニ基キ

甲 「プロレットカルト」運動ニ關スル「テーゼ」ニ關シ

世界帝國主義及其一環タル日本帝國主義ノ没落過程ノ現勢殊ニ世界「プロレタリアート」運動ノ現勢ト日本「プロレタリアート」運動ノ現勢ノ下ニ於ケル吾々「プロカル」運動ノ現狀ハ「テーゼ」ヲ必要トスルコト「ブルジョアカルト」ヘノ反抗、日和見主義ヘノ抗争ヲ必要トスルコト「プロレットカルト」ノ原則ハ「レーニニズム」ノ革命的統一的理論(革命的理論ナクシテ革命的運動ナシ理論ト實踐トノ辯證法的統一、理論カ大衆ヲ把握スレハ物質的權力トナル)ニシテ(1)組織者ノ訓練(2)反帝國主義(3)日和見主義ノ排撃(4)都市勞働者ト農民トノ共同戰線等ヲ必要トスルコト「プロレットカルト」ノ方法ハ同志關係ヲ濃厚ニスルコト、辯證法的方法ヲ用フルコト、無産者ノ日常現實ノ鬭争ト結ヒ付クルコト、全出席者ノ平均的水準ヲ標準トスルコトヲ必要トスルコト等ノ事項ニ互リ

乙 「プロカル」教程ニ關シ

都市勞働者ニ對スル教程ヲ第一章資本主義社會(二回ニテ完了ノ豫定)、第一節資本主義ノ發生、第二節資本主義ノカククリ、第三節勞働組合ノ進化ト職分、第二章帝國主義(七回ニテ完了ノ豫定)、第一節資本ノ集積ト金融資本ノ支配、第二節「ブルジョアジー」ノ陣營、第三節「プロレタリアート」ノ陣營、第三章共產主義革命(二回ニテ完了ノ豫定)、第一節内亂、第二節無産階級獨裁、第三節共產主義建設ノ努力トシ又農民ニ對スル教程ヲ第一章舊「イデオロギー」ノ破壊(二回ニテ完了ノ豫定)、第一節地球ノ進化、第二節生物ノ進化、第三節社會ノ進化、第二

章資本主義社會ノ發生(二回ニテ完了ノ豫定)、第一節資本主義社會ノ概観、第二節農村ニ對スル資本主義ノ影響、第三節組合運動ノ進化ト職分、第三章帝國主義(五回ニテ完了ノ豫定)、第一節帝國主義ノ概観、第二節地主階級ノ陣營、第三節農村「プロレタリアート」ノ陣營、第四章社會革命(二回ニテ完了ノ豫定)、第一節革命期ニ於ケル農民ノ都市勞働者ニ對スル關係、第二節無産階級獨裁ト農民、第三節共產主義社會ト農業トスヘキコト等ノ事項ニ就キ夫々協議ヲ遂ケ「プロレツトカルト」運動ニ關スル「テーゼ」ハ石骨子ニ基キ尙詳細ニ作成シ「プロカル」教程ハ一部修正ヲ加ヘ何レモ更ニ協議スヘキコトニ決シ

(三) 大正十四年十月十七日前記京都帝國大學社會科學研究會本部ニ日本學生社會科學關西聯合會委員會ヲ開キ被告石田英一郎、橋本省三、鈴木安藏、永井哲二、大浦梅夫、原田耕、黒川健三、蓬臺恒治、小崎正潔等會合ノ上被告人山崎雄次ノ作成ニ係ル「プロレツトカルト」ニ關スル「テーゼ」及「プロカル」教程ニ基キ

甲 「プロレツトカルト」ノ「テーゼ」ニ關シ

世界資本主義ハ西曆一千八百九十年以後其最後ノ段階タル帝國主義ニ進展シ世界大戰後其內在の矛盾ヲ鮮明ニ外ニ暴露シ殊ニ西曆一千九百二十年四月ノ恐慌以來後退没落ノ必然的崩壊ノ途ヲ急速度ニ辿リツツアリ此没落ノ諸相ハ世界經濟ノ均衡破壊及大衆生活ノ著シキ惡化ニ明白ニ看取セラル而カモ此等没落ノ諸相ハ資本主義ノ崩壊ノ必然的表現ニシテ到底之カ恢復ノ途ナシ否刻一刻一層ノ急調ヲ以テ行詰リノ袋小路ヲ盲進シツツアリ此ノ如キ世界經濟ノ一環ヲ成セル日本資本主義モ崩壊ノ必至の運命ノ例外タリ得ル能ハス大戰ノ末期及終結直後各國ノ經濟的混亂疲弊及支配階級ノ無能ニ乘シ世界ノ無産階級ハ一齊ニ革命的闘争ニ驅起セリ日本無産階級ノ運動ハ西曆

一千九百二十四年前期以來所謂方向轉換ヲ指導精神ト爲シ出來得ル限り多クノ無産大衆ヲ階級的ニ結成セントシツツアリ世界及日本無産階級運動ノ當面ノ任務ハ又必然ニ革命的理論ノ把握ヲ要求ス即チ帝國主義時代ハ植民地ノ苛烈ナル搾取ノ必然的政策トシテ組合幹部ノ墮落日和見主義者ノ發生ヲ促シ從テ日和見主義ノ理論ヲ生シツツアリ日和見主義ヲ徹底的ニ絶滅シ墮落幹部ヲ痛烈ニ批判スルコトヲシテハ無産階級ノ解放ハ期シ得ラレス革命的統一の理論ニヨル大衆ノ獲得組織是レ即チ現在各國「マルキシスト」ノ任務ナリ日本學生社會科學聯合會ハ第二回全國大會ニ於テ採用セル「テーゼ」ニ於テ學生運動カ無産階級運動ノ一翼ニシテ其指導精神タル「マルキシズム」ハ理論ト實踐ト辯證法的統一ヲ必要トスルコトヲ明確ニシ從テ一般的目標ノ一ニ「プロレツトカルト」運動ニ獻身スヘキコトヲ掲ケタリ而カモ教育者ハ又教育サルヲ以テ「プロレツトカルト」運動ニ携ハルコトニヨツテ學生運動ハヨリ一層徹底シ眞剣トナルコト疑ナシ而シテ現今吾々ハ多數ノ員數ヲ以テ「プロレツトカルト」運動ニ從ハントス從テ其運動ニ付テノ統一の方針タル「テーゼ」ノ作成ヲ必要トスルコト、資本主義ハ無産階級ヲ高等ノ教育ヨリ引離スト同時ニ義務教育ニ於テ無産階級ニ「ブルジョア」的思想、隸屬的道德ヲ注入シ資本主義社會ノ再生産ニ忠實從順ナル勞働者ヲ養成セント努メツツアリ然ルニ「プロレツトカルト」運動ハ抽象的知識ノ供給ニアラスシテ資本家の教化ヨリノ獨立即チ無産階級ノ歴史的任务ノ自覺階級闘争ノ指針トシテノ理論ノ獲得ニアリ而カモ理論カ一度大衆ヲ把握スレハ物質的權力トナリ階級闘争ノ決定的勝利ハ確實トナル現在日本ニ於ケル「プロレツトカルト」運動ヲ其指導精神ヨリ觀ルニ或ハ資本主義的教育ヲ施スモノアリ或ハ日和見主義的協同的教化ヲ施スモノアリ斯カル現状ノ下ニアリテ吾々ノ「プロレツトカルト」運動ノ方針ハ必然的ニ「マルキシズム」「レーニニズ

ム」ナルコトヲ必要トスルコト吾々ノ「プロレツトカルト」ノ原則ハ「マルキシズム」「レーニニズム」ナリ資本主義ノ發展ト労働階級ノ戰術トヲ其全體性ニ於テ發展的ニ「カルト」スルコトヲ目的トシ殊ニ帝國主義ノ本質竝ニ其時代ノ無産階級ノ戰術ヲ主眼トシ(1)闘士ノ訓練(2)反帝國主義(3)日和見主義ノ排撃(4)都市労働者ト農民トノ共同戰線ヲ必要トスルコト及「カルト」ノ方法ハ大衆ノ日常生活ノ中ヨリ彼等ノ切實ナル問題ニ付キ談論シ彼等ノ階級意識ヲ闡明ナラシメ以テ同時ニ實行ニ結ヒ付ケサルヘカラス從テ(1)大衆ノ相談相手トナリ討論ノ相手トナリ其ノ同僚トナルコト(2)辯證法的方法ヲ用ヒ講師カ全時間ヲ演説スルカ如キコトナク大體ノ骨組肝要ナル問題ヲ豫メ述ヘ多クノ時間ヲ質問討論ニ割キ成ルヘク全部ノ人員ヲシテ意見ヲ述ヘシメ其中ヨリ大衆ノ意識ヲ止揚スヘキコト(3)無産者ノ日常現實ノ問題即チ日々起生スル經濟的的政治的問題竝ニ無産階級ノ當面ノ問題ヲ講義討論ニ結ヒ付クルコト(4)全出席者ノ平均的水準ヲ標準トシ出來得ヘクハ出席者ヲ思想程度ニ從テ區別シ「カルト」スルコト等ヲ必要トスルコト等ノ事項ニ互リ

乙 「プロカル」教程ニ關シ

前段(二)ノ(乙)所掲ト同一事項ニ付キ夫々協議ヲ遂ケ「テーゼ」ニ就テハ教育方法ノ前示(4)ニ關シテ全出席者ノ平均的水準ヲ標準トセス對象ノ思想程度ニ應シテ未組織労働者組織労働者及前衛ノ三段階ニ分チ之ニ適應シタル教化ヲ施シ未組織労働者ニ對シテハ「アヂテーシヨン」ニヨリ組織労働者ニ對シテハ「プロバガンダー」、談話會、茶話會等ニヨリ前衛ニ對シテハ討論會研究會ニヨルヘキモノナリトシタル外幾分字句ニ關スル修正意見アリタルモ結局「テーゼ」案ハ之ヲ承認シ「プロカル」教程ニ就テハ更ニ之ヲ協議スヘキコトニ決シ

(四) 大正十四年十月十八日前記京都帝國大學社會科學研究會本部ニ日本學生社會科學京都地方聯合會社會部員總會ヲ開キ被告人岩田義道、橋本省三、池田隆、鈴木安藏、淡德三郎、黒田久太、逸見重雄、古賀二男、藤井米三、熊谷孝雄、白谷忠三、武藤丸楠、鷺谷武二、宮崎菊次、大浦梅夫等出席シ尙日本労働組合評議會京都地方評議會員ナル被告人上村正夫モ出席シ右各被告人等ハ前段(三)ニ記載シタル各事項ニ互リ種々協議ヲ遂ケ「テーゼ」ニ就テハ之ヲ承認シ將來ノ「プロカル」運動ノ一般方針ト爲シ之ニ從フヘキコトニ定メタルモ教程ニ就テハ該教程ヲ全體のニ觀レハ大學ノ講義式ナリ殊ニ都市労働者ノ部農民ニ對スル部ノ各第一章ノ如キハ理論ヨリ實際ニ及ハントスルモノニシテ不適當ナリ労働者ニ對シテハ日常個々ノ生活經驗ヨリ出發シ理論ヘ進ム方法ニ依ルヘク日常ノ實際問題ヲ主トシテ材料トナシ實際問題ニ理論ヲ織リ込マサルヘカラサル旨主張スル者アリシヨリ同趣旨ヲ參酌シ適宜作成ノ上更ニ協議スヘキコトニ決シ

七 從來京都市及其附近ノ無産者教育機關タリシ京都労働學校ハ日本労働組合評議會京都地方評議會ノ經營ナルカ如キ觀アリテ一般無産者ノ爲メ充分利用セラレ難キ状態ニアリタル折柄日本學生社會科學關西聯合會所屬社會科學研究會殊ニ京都帝國大學社會科學研究會員カ「マルキシズム」「レーニニズム」ヲ指導精神トシ無産者教育運動ニ從事スルニ至リタルヲ以テ茲ニ京都帝國大學社會科學研究會員ノ一部ト京都地方評議會幹部ノ間ニ於テ京都市ニ無産者ノ教育機關ヲ創設シ組織的統一アル統制ノ下ニ無産者教育ヲ實施セムトシ

(一) 大正十四年十月二十一日京都市下京區八條夷馬場町ナル京都地方評議會本部ニ京都無産者教育機關創設相談會ヲ開催シ被告人岩田義道、池田隆、淡德三郎、鷺谷武二、泉隆、白谷忠三、内海洋一、宮崎菊次、上村正夫等

會合ノ上外十數名ノ出席者ト共ニ京都市及其附近ノ無産者ニ對シ眞ノ無産階級的教育ヲ普及スルコト即チ「マルキシズム」ヲ指導精神トシテ階級意識ヲ闡明ナラシメ無産階級解放運動ニ資スル教化ヲ施スコトヲ目的トシ京都無産者教育協會ヲ創設スヘキコト及同年十一月一日同教育協會創立總會ヲ開催スヘキコト等ヲ協議シ之カ準備委員トシテ被告人淡徳三郎外數名ヲ擧ケ

(一) 大正十四年十月二十三日京都市聖護院中町ナル被告人淡徳三郎方ニ京都無産者教育協會創立準備委員會ヲ開キ被告人岩田義道、淡徳三郎、泉隆、宮崎菊次、上村正夫等ハ協議ノ上京都無産者教育協會規約草案(證第一三二號)ヲ作成シ且同協會創立總會ニ於テ選定スヘキ委員ヲ詮衡シ

(二) 大正十四年十一月一日前記京都市地方評議會本部ニ京都無産者教育協會創立總會ヲ開キ被告人岩田義道、橋本省三、池田隆、淡徳三郎、古賀二男、武藤丸楠、鷺谷武二、泉隆、内海洋一、宮崎菊次、澤田政雄、大浦梅夫、上村正夫等會合ノ上數名ノ出席者ト共ニ協議ヲ遂ケタル上京都無産者教育協會ノ目的、構成、事業、機關其他ニ關スル規約(證第一四三七號)ヲ定メ茲ニ一般無産者ニ對シ「マルキシズム」ヲ指導精神トシ無産階級の教化ヲ實施スル爲メノ機關タル京都無産者教育協會ヲ創立シ

第二

左記被告人ハ孰レモ政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂スル左記文書ヲ左記ノ如ク著作、印刷又ハ發行シタリ

一 被告人山崎雄次ハ大正十四年九月二十八日頃京都市聖護院中町ナル被告人淡徳三郎方ニ於テ前示第一ノ六ノ(二)ニ協議事項トシテ掲クル所ト同一内容ノ記載アル「プロレットカルト」運動ニ關スル「テーゼ」附「プロカル」教程

(證第八〇號、第八一號)ヲ著作シ尙意思繼續シテ同年十月十日頃同所ニ於テ前示第一ノ六ノ(三)ニ協議事項トシテ掲クル所ト同一内容ノ記載アル「プロレットカルト」ニ關スル「テーゼ」附「プロカル」教程(證第七九號)ヲ著作シ而シテ右ハ何レモ其頃同志ノ手ニヨリテ印刷セラレタル上前者ハ同年十月四日京都市北白川ナル京都帝國大學社會科學研究會本部ニ開催サレタル同研究會委員會ニ於テ二十餘名ノ出席者ニ又後者ハ同月十七日同所ニ開催セラレタル日本學生社會科學關西聯合會委員會ニ於テ九名ノ出席者ニ及同月十八日同所ニ開催セラレタル同聯合會京都地方聯合會社會部員總會ニ於テ約二十名ノ出席者ニ何レモ配付サレ

二 被告人橋本省三ハ大正十四年十月十日頃京都市北白川ナル京都帝國大學社會科學研究會本部ニ於テ外一名ト共ニ被告人山崎雄次ノ著作ニ係ル前記「プロレットカルト」ニ關スル「テーゼ」附「プロカル」教程(證第七九號)ヲ約三、四十部印刷シタル上同月十八日同所ニ開催セラレタル前記京都地方聯合會社會部員總會ニ於テ出席者約二十名ニ對シ之ヲ配付シ尙意思繼續シテ同年十一月四日頃神戸市上筒井町白井明方ニ於テ被告人清水平九郎ノ著作ニ係ル前示第一ノ二所掲ノ日本學生社會科學聯合會教育「テーゼ」骨子附全國的教程(證第九八一號)ヲ約三十部複寫印刷(證第八號)シタル上同月八日前示成宮晋次郎方ニ開催セラレタル日本學生社會科學關西聯合會繼續會ニ於テ約二十名ノ出席者ニ之ヲ配付シ

三 被告人大田遼一郎ハ大正十四年十月中旬頃前記京都市北白川ナル京都帝國大學社會科學研究會本部ニ於テ「スターリン」著「レーニン」主義ノ理論ト實際」中序言及第一章乃至第五章並ニ第七章ヲ抄譯シ(イ)「レーニンニズム」ハ帝國主義「プロレタリア」革命ノ時期ニ於ケル「マルキシズム」ナリ嚴密ニ言ヘハ「プロレタリア」革命ノ一般ノ理論ニシ

テ特ニ「プロレタリア」獨裁ノ理論ナリ從テ必然的ニ「レーニニズム」ハ「プロレタリア」革命、「プロレタリア」獨裁「ソヴェット」組織ノ理論ナルト同時ニ帝國主義ト不可分離ノ日和見主義ニ對スル克服的革命理論ナル旨(ロ)「レーニニズム」ハ帝國主義下ノ革命理論ナリ帝國主義ハ死滅シツツアル資本主義ニハ資本ト労働トノ敵對、金融資本主義國家間ノ相互ノ敵對、植民地ト先進國トノ敵對ノ三大矛盾アリ帝國主義ハ資本ノ牙城攻撃ノ爲メ有利ナル事情ヲ創造セリ斯カル國際的事情ノ下ニ「レーニニズム」ハ生レシモノナル旨(ハ)日和見主義ハ資本主義ノ平和的發展ニヨリ合法的ニ社會主義ニ推移スト主張スルモ日和見主義ノ此思想、經濟的「ストライキ」、労働組合運動、選舉戰、議會内ノ鬭争等ノ鬭争方法ハ現今ノ帝國主義ノ崩壞期ニ於テハ全ク不充分ニシテ「レーニニズム」ハ斯カル日和見主義ノ本質ヲ暴露シ統一的革命理論ヲ主張スル旨(ニ)「レーニニズム」ノ理論ハ各國ノ労働運動ノ經驗ヲ全體トシテ攝取セシモノニシテ理論ハ革命的實踐ト結合セシ時ニ於テ労働者運動ノ偉大ナル力タリ得ルナリ革命的理論ナクシテ革命的運動ハ存在シ得ス帝國主義ハ世界經濟ト呼ハルル單一ナル鎖ノ環ニシテ資本ノ戰線ハ必スシモ産業ノ最モ發達シタル處ニテ破ルルモノト限ラス革命ハ帝國主義戰線ノ鎖ノ最モ薄弱ナル點ニ於テ破ル一國ニ於テ成功セル革命ノ任務ハ他ノ諸國ニ於ケル革命的發展援助喚起ニ努力スル點ニ存スル旨(ホ)「プロレタリア」獨裁ヲ「プロレタリア」革命ノ道具トシテノ獨裁「ブルジョア」ニ對スル「プロレタリア」ノ支配トシテノ獨裁「プロレタリア」獨裁ノ國家形態トシテノ「ソヴェット」權力トノ三段ニ分ツコトヲ得ヘク(1)「プロレタリア」革命ノ道具トシテノ「プロレタリア」獨裁トハ「プロレタリア」獨裁ハ「プロレタリア」革命ニ對シテ基本的意義ヲ有シ其根本的任務ハ(イ)革命ニヨツテ顛覆サレ資本ヲ收奪サレタル資本家及地主ノ反抗ノ粉碎ト資本家階級ノ支配ヲ恢復セムトスル凡ユル企圖ノ掃蕩(ろ)「プロ

レタリアート」ノ周圍ニ全労働者ヲ結合セシムルコトニヨツテノ社會主義的建設組織及階級消滅ヲ導クヘキ方向ニ於テノ此事業ノ實施(ハ)革命ヲ武装シ外部ノ敵即チ帝國主義ニ對スル武装革命軍ノ組織等ニシテ「プロレタリア」獨裁ハ革命期ニ於ケル暫時的ノ期間ニアラス内亂外敵トノ紛亂強韌ナル組織的活動ト經濟的建設及攻勢ト退却トニ充タサレタル全歴史の期間ニアリ此歴史の期間ハ完全ナル社會主義ノ勝利ノ爲メ經濟的文化的條件ノ創造トシテ必要ナル(2)「ブルジョア」ニ對スル「プロレタリアート」ノ支配トシテノ「プロレタリア」獨裁トハ「プロレタリア」獨裁ハ日和見主義ノ言フカ如キ單ナル内閣ノ更迭ニアラス中央ニ於テモ地方ニ於テモ新シキ機關ヲ有ツ「プロレタリア」國家ナリ「プロレタリア」獨裁ハ完全ナル「デモクラシー」ニアラス只「プロレタリアート」及一般無産者ニ對スル「デモクラシー」ナリ「プロレタリア」獨裁ハ「ブルジョア」社會「ブルジョア」デモクラシーノ平和的發展ノ結果ニアラス「ブルジョア」國家機關ノ粉碎ノ結果ナリ(3)「プロレタリア」獨裁ノ國家形態トシテノ「ソヴェット」權力トハ「ソヴェット」ハ「プロレタリアート」ノ新シキ組織形態ニシテ「ソヴェット」共和國ハ其境内ニ於テ「プロレタリアート」ノ經濟的解放社會主義ノ完全ナル勝利カ實現サルヘキ最後ニ見出サルル政治的形態ナル旨(ヘ)資本主義ノ比較的平和ナル發展期即チ日和見主義支配ノ時代ハ無産大衆ノ組織ト教育トノ時代ニシテ議會鬭争カ主要ナル鬭争形式ノ時代ナリキ從テ統一的革命的戰略及戰術カ缺如シ居リシモ「マルクス」「エンゲルス」ノ戰略及戰術ヲ新條件ノ下ニ於テ發展セシムル「レーニニズム」ノ戰略戰術コソ「プロレタリア」階級鬭争ノ指針ノ科學ナリ戰略ノ方針ハ革命ノ豫備軍ノ利用ニアリ此豫備軍ノ利用ノ爲メニ必要ナル條件ハ敵ノ最モ弱キ地點ニ且決定的瞬間ニ於テ革命ノ主要勢

力ヲ集中スルコト其他ニ存スル旨等ノ趣旨ヲ記載セル文書(證第二八號)ヲ著作シ其頃同所ニ於テ外一名ト共ニ之ヲ約二十部印刷シ同年十八日頃ヨリ同年十一月三日頃ニ至ル迄ノ間之ヲ携帶シテ高等學校巡廻旅行ヲ爲シ同期間内第六高等學校、廣島高等學校及姫路高等學校ノ各所在地ニ於テ各其社會科學研究會員ニ對シ夫々三四部宛之ヲ配付シ

四 被告人大浦梅夫ハ大正十四年十一月十日頃京都市上京區塔之段毘沙門町ナル同志社社會科學研究會本部ニ於テ前示「レーニン」主義ノ理論ト實際」中無產階級獨裁ヲ抄譯シ無產階級ノ決定的勝利ハ無產階級獨裁ヲ通シテノミ實現化シ得ル無產階級獨裁ハ無產階級革命ノ機關ニシテ克服サレタル搾取階級ノ反抗ヲ鎮壓シ革命ノ勝利ヲ強固ニシ革命ヲ完成シ社會主義ノ完全ナル勝利ヲ導クヘキ使命ヲ擔ヘルモノナリ無產階級ノ獨裁ヲ俟タスシテ支配階級ノ權力ヲ顛覆シ得ルモ之ナクシテハ「ブルジョア」ノ反抗ヲ潰滅シ革命ノ勝利ヲ維持シ社會主義ニ迄進展セシムルコトハ不可能ナリ革命後ニ於ケル「ブルジョア」ノ殘存勢力ニ對抗スル爲メ無產階級ノ獨裁ヲ(一)革命ニ依テ剝奪セラレタル地主及資本家ノ反抗ヲ破壊シ資本ノ權力ヲ復活セシメントスル凡ユル彼等ノ企圖ヲ鎮壓スルコト(二)「プロレタリア」ノ周圍ニ全勞働者ヲ集メ階級ノ漸次的消滅ヲ圖リ社會主義建設ノコト(三)外敵タル帝國主義ニ對シテ革命ヲ武裝シ赤衛軍ヲ組織スルコト等ニ分ツコトヲ得無產階級ノ獨裁ハ「ブルジョア」社會ノ平和的發展ノ結果ニアラス「ブルジョア」ノ軍隊國家機關、統治機關ノ破壊ノ結果ナリ無產階級獨裁ノ勝利トハ「ブルジョア」ノ破碎「ブルジョア」政治機關ノ破壊「プロレタリア」デモクラシイ「ニヨル」ブルジョアデモクラシイノ抹殺ヲ意味ス此重要事項遂行ノ組織形態トシテ「ソヴェット」ノ必要ト其強味アリ「ソチ」大衆ハ今ヤ國家ノ民主的統治ニ決定的ニ永久ニ參加スルコトヲ得「ソヴェット」權力ノ到來ハ「ブルジョア」民主主義議會ノ斷末魔ニシテ人類ノ新時代黎明ナル趣旨ノ文書ヲ著作シ其頃

各所ニ於テ之ヲ約三十數部印刷シタル上同所ニ開催シタル同志社大學社會科學研究會合同研究會ニ於テ其出席者ニ約二十五六部配付シ

五 被告人清水平九郎ハ大正十四年八月下旬頃神戸市南本町一丁目目ナル同被告人宅ニ於テ前記第一ノ二ノ(一)ニ所掲ノ日本學生社會科學聯合會教育「テーゼ」骨子及全國的教程(證第九八一號)ヲ著作シ同年十月中旬頃被告人實川清之ノ手ニヨリ約四十部之ヲ印刷セシメタル上其頃日本學生社會科學關東聯合會所屬各研究會へ一部宛同東北聯合會ニ對シ約五部同關西聯合會ニ對シ約四部九州協議會本部ニ對シ約三部其他關西學院社會科學研究會、同志社大學社會科學研究會等へ各一部宛配付シ

被告人實川清之ハ被告人清水平九郎ノ依頼ニヨリ大正十四年十月十九日頃東京市麴町區有樂町三丁目日本農民組合關東同盟本部ニ於テ右日本學生社會科學聯合會教育「テーゼ」骨子及全國的教程ヲ約四十部印刷シ

六 被告人宮崎菊次、澤田政雄ハ大正十四年十一月初旬頃前記同志社大學社會科學研究會本部ニ於テ外數名ト共ニ前示第一ノ三ノ(一)所掲ノ班生活「テーゼ」(證第一五號)ヲ著作シタルカ其頃同志ノ手ニ依リ約五十部印刷セラレタル上同月八日前示成宮晋次郎方ニ開催セラレタル日本學生社會科學關西聯合會總會繼續會ニ於テ約二十名ノ出席者ニ配付サレ

第三

被告人石田英一郎ハ大正十一年七月十三日北海道ヲ旅行中 皇太子殿下行啓ニ際シ同地方住民カ赤心奉迎ノ意ヲ表シ又東伏見宮薨去ニ付同地青年團員カ衷心哀悼ノ意ヲ表セルヲ目撃シ同日膽振國蛇田郡庄丹溫泉望洋館ニ於テ同日ノ

學生治安維持法違反事件梗概

日誌ニ其感想トシテ證第三百五十三號中七月十三日ノ日誌ニ所載ノ如ク(文詞省略)皇室ヲ尊崇スルノ要ナキ旨ノ文旨ヲ記載シ尙犯意繼續シテ同年十月三十一日第一高等學校ニ於ケル天長節祝賀式ニ參列シタルカ同日東京市小石川區原町ナル當時被告人ノ居室ニ於テ日誌ニ其感想トシテ證第三百五十三號中十月三十一日ノ日誌ニ所載ノ如ク(文詞省略)御眞影ニ敬禮シ勅語朗讀ヲ謹テ傾聽シ又「君カ代」ヲ合唱スルカ如キ實ニ愚ナル旨ノ文詞ヲ記載シ以テ 天皇ニ對シ不敬ノ所爲アリタルモノナリ

被告人大田遼一郎、山崎雄次、大浦梅夫、橋本省三、清水平九郎、宮崎菊次、澤田政雄、實川清之等ノ所爲中治安維持法違犯ノ點ハ各同法第二條ヲ出版法違犯ノ點ハ各同法第二十六條ヲ被告人白谷忠三、岩田義道、淡徳三郎、鈴木安藏、栗原佑、泉隆、黒田久太、熊谷孝雄、永井哲三、内海洋一、村尾薩男、衣谷賀眞、藤井米三、逸見重雄、鷺谷武二、古賀二男、原田耕、黒川健三、小崎正潔、蓬臺恒治、是枝恭二、武藤丸楠、池田隆、後藤壽夫、松本篤一、秋笹正之輔、大橋積、野呂榮太郎、上村正夫等ノ所爲ハ各治安維持法第二條ヲ被告人石田英一郎ノ所爲中治安維持法犯ノ點ハ同法第二條ヲ不敬ノ點ハ刑法第七十四條第一項ヲ夫々適用スヘキモノト思料ス
被告人村尾薩男、衣谷賀眞、是枝恭二等カ大正十四年七月頃以後同年十月頃迄ノ間東京市内ニ於テ被告人清水平九郎ト共謀ノ上政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂スル事項ノ記載アル日本學生社會科學聯合會教育「テーゼ」骨子附全國的教程ヲ著作、印刷、發行シタリトノ公訴事實及被告人後藤壽夫カ大正十四年九月下旬頃被告人清水平九郎等ト共謀ノ上同上日本學生社會科學聯合會教育「テーゼ」骨子附全國的教程ヲ著作シタリトノ公訴事實ハ何レモ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキヲ以テ各之ヲ免訴スヘキモノトス

仍テ刑事訴訟法第三百十二條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

大正十五年九月十五日

京都地方裁判所

豫審判事 灘 波 良 藏

判決

本籍 名古屋市中區流川町五十三番地

住居 中華民國天津日本租界壽街五十二號(京都帝國大學經濟學部學生)

無職

大田遼一郎

明治三十八年三月生

本籍 豊橋市新錢町六十番ノ三、五十三番地ノ三合筆地

住居 靜岡縣濱名郡三方原村六百三十九番地ノ一(京都帝國大學經濟學部學生)

無職

白谷忠三

明治三十六年八月生

本籍 栃木番上都賀郡北犬飼村大字茂呂八拾五番地

住居 京都市上京區田中上柳町三十四番地永井方(京都帝國大學法學部學生)

學生治安維持法違反事件梗概

無職

山崎 雄次

明治三十四年十二月生

本籍並住居 香川縣綾歌郡金山村大字江尻百八十七番戶

(元同志社專門部高等商業科生徒)

無職

大浦 梅夫

明治三十七年一月生

本籍並住居 愛知縣葉栗郡北方村大字中島千三百四十九番地

(京都帝國大學經濟學部學生)

無職

岩田 義道

明治三十一年四月生

本籍 大阪市西區北堀江上通四丁目十八番屋敷第二號

住居 東京市麻布區笄町七十九番地(京都帝國大學卒業文學士)

無職

淡德 三郎

明治三十四年八月生

本籍 福島縣相馬郡小高町南小高字關場五十六番地

住居 同縣同郡同町四十五番地(京都帝國大學經濟學部學生)

無職

鈴木 安藏

明治三十七年三月生

本籍 仙臺市北三番町三十四番地

住居 京都市上京區吉田河原町十九番地(京都帝國大學經濟學部學生)

無職

栗原 佑

明治三十七年五月生

本籍並住居 石川縣鹿島郡瀧尾村字井田五十八ノ三十三番地ノ甲

(京都帝國大學經濟學部學生)

無職

泉 隆

明治三十五年八月生

本籍 兵庫縣城崎郡豐岡町滋代五番地

住居 京都市上京區田中上柳町三十四番地永井方(京都帝國大學法學部學生)

無職

橋本 省三

明治三十五年十一月生

本籍 兵庫縣揖保郡龍野町龍野七百五番屋敷

住居 大阪市此花區玉川町三丁目十四番地結城強方(京都帝國大學經濟學部學生)

學生治安維持法違反事件梗概

無職

黒田 久太

明治三十八年四月生

六八

本籍 鳥取縣氣高郡鹿野町大字鹿野千三百二十五番地

住居 大阪市東區横堀二丁目二十三番地(京都帝國大學經濟學部學生)

無職

熊谷 孝雄

明治三十四年九月生

本籍 兵庫縣出石郡資母村字畑山五十八番屋敷

住居 京都市上京區田中上柳町三十四番地(京都帝國大學經濟學部學生)

無職

永井 哲二

明治三十六年三月生

本籍並住居 山口縣都濃郡徳山町千九百七十番屋敷

(元同志社大學々生)

無職

内海 洋一

明治三十五年二月生

本籍並住居 鹿兒島市平之町百九番地

(東京帝國大學文學部學生)

無職

村尾 薩男

明治三十五年八月生

本籍 滋賀縣東淺井郡湯田村大字三田三十九番屋敷

住居 神戸市南本町一丁目十六番地(明治學院文科生徒)

無職

清水 平九郎

明治三十七年二月生

本籍並住居 神戸市葺合小野柄通四丁目七番地

(慶應義塾大學々生)

無職

衣谷 賀真

明治三十四年九月生

本籍 京都市上京區岡崎北御所町二十五番地

住居 東京市小石川區丸山町小石川アパートメントハウス一號室(元京都帝國大學經濟學部學生)

無職

石田 英一郎

明治三十六年六月生

本籍 山口縣都濃郡富岡村大字下上千三百十番地

住居 大阪市此花區江成町百十番地近内方(京都帝國大學卒業經濟學士)

學生治安維持法違反事件梗概

六九

無職

藤井米三

明治三十五年五月生

七〇

本籍 札幌市北三條西十五丁目一番地

住居 京都市上京區小山堀池町十番地逸見武雄方(京都帝國大學經濟學部學生)

無職

逸見重雄

明治三十二年七月生

本籍 秋田縣南秋田郡下井川村北川尻字海老澤村八番地

住居 京都市上京區田中上柳町三十四番地永井方(京都帝國大學文學部學生)

無職

鷺谷武二

明治三十六年二月生

本籍 佐賀縣佐賀郡久保田村大字久富六百七十三番地

住居 福岡縣嘉穗郡飯塚町驛南通(京都帝國大學法學部學生)

無職

古賀二男

明治三十七年七月生

本籍 佐賀縣東松浦郡濱崎町大字横田下千四百六十二番地

住居 京都市下京區東山線馬町東入(元同志社大學學生)

無職

宮崎菊次

明治三十五年八月生

本籍並住居 大津市上北國町二十七番屋敷

(大阪外國語學校生徒)

無職

原田耕

明治三十八年二月生

本籍 大阪市北區會根崎上三丁目二十一番地

住居 同市東淀川區三國本町九十五番地(大阪外國語學校生徒)

無職

黒川健三

明治三十七年一月生

本籍 松山市大字千船町七十一番地

住居 兵庫縣武庫郡西灘村上野三百七十三番地久保順兵衛方(關西學院生徒)

無職

小崎正潔

明治三十六年六月生

本籍 和歌山縣那賀郡龍門村大字杉原四百二十七番地

住居 東京市麻布區筭町七十九番地米谷方(神戸高等商業學校生徒)

學生治安維持法違反事件梗概

七一

無職

蓬

臺 恒 治

明治三十五年四月生

七二

本籍 鹿兒島縣鹿兒島郡谷山町松崎百四十六番戶

住居 東京市麻布區筭町七十九番地淡徳三郎方(東京帝國大學文學部學生)

無職

是

枝 恭 二

明治三十七年十月生

本籍竝住居 東京府豊多摩郡中野町大塚千六百六十六番地

(京都帝國大學工學部學生)

無職

武

藤 丸 楠

明治三十九年二月生

本籍 鹿兒島市西田町五十四番地

住居 鹿兒島縣始良郡加治木町反土九十五番地(京都帝國大學醫學部學生)

無職

池

田 隆

明治三十五年五月生

本籍 大分縣直入郡豊岡村大字會々千九百九十八番地

住居 東京市外千駄ヶ谷町三百五十番地佐々木方(東京帝國大學法學部學生)

無職

後

藤 壽 夫

明治三十六年五月生

本籍 廣島縣安佐郡三篠町大字楠木九百八十四番地

住居 東京市芝區下高輪町三十番地小池正次方(東京帝國大學文學部學生)

無職

松

本 篤 一

明治三十六年四月生

本籍 千葉縣山武郡千代田村字山田千六百八十九番地

住居 東京市牛込區平町三丁目二十五番地(日本大學文學部學生)

無職

實

川 清 之

明治三十六年十月生

本籍竝住居 崎玉縣北足立郡田間宮村大字宮前百六十番地

(早稻田第二高等學院生徒)

無職

秋

笹 正 之 輔

明治三十六年二月生

本籍 廣島縣佐伯郡己斐町千二百四十六番地

住居 同縣安藝郡牛田村二葉堤三百七十八番地(京都帝國大學卒業經濟學士)

學生治安維持法違反事件梗概

七三

無職

大橋積

明治三十六年一月生

本籍 北海道夕張郡長沼村西七線北三號二千三百二番地

住居 東京市芝區下高輪町三十番地小池正次方(慶應義塾大學卒業)

無職

野呂榮太郎

明治三十三年四月生

本籍 福岡縣京都郡泉村大字崎野二千五百六十番地

住居 東京市外千駄ヶ谷町九百五十八番地柳ツル方

無職

上村正夫

明治三十六年七月生

右被告人遼一郎、雄次、梅夫、省三、平九郎、菊次、清之ニ對スル各治安維持法違反及出版法違反被告事件竝ニ被告人忠三、義道、德三郎、安藏、佑、泉隆、久太、孝雄、哲二、洋一、薩男、賀眞、英一郎、米三、重雄、武二、二男、耕、健三、正潔、恒治、恭二、丸楠、池田隆、壽夫、篤一、正之輔、積、榮太郎、正夫ニ對スル各治安維持法違反被告事件ニ付當裁判所ハ檢事古賀行倫南部金夫關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人恭二、薩男、平九郎及雄次ヲ各禁錮一年ニ處ス

被告人壽夫、榮次郎、清之、德三郎、米三、義道、安藏、佑、省三、英一郎及池田隆ヲ各禁錮十月ニ處ス

被告人篤一、賀眞、正之輔、遼一郎、忠三、久太、哲二、重雄、二男、丸楠、耕、健三、正潔、恒治、孝雄、武二、積、洋一、菊次、梅夫、泉隆及正夫ヲ各禁錮八月ニ處ス

但シ右各被告人ニ對シ其ノ未決勾留日數中ヨリ被告人恭二、薩男、平九郎、雄次、賀眞、米三、安藏、佑、省三、英一郎、洋一、菊次、梅夫、泉隆、忠三、久太、重雄、耕、健三、正潔、恒治、孝雄、武二ニ對シテハ各百三十日宛被告人德三郎、遼一郎、哲二ニ對シテハ各百日宛被告人篤一、壽夫、清之、正之輔、義道、池田隆、二男ニ對シテハ各八十日宛被告人積、正夫、丸楠ニ對シテハ各六十日宛被告人榮太郎ニ對シテハ三十日ヲ右各本刑中ニ算入ス

被告人篤一、賀眞、正之輔、遼一郎、忠三、久太、哲二、重雄、二男、丸楠、耕、健三、正潔、恒治、孝雄ニ對シ判決確定ノ日ヨリ二年間各其ノ刑ノ執行ヲ猶豫ス

押收物件中プロレツトカルトニ關スルテ一ゼ附プロカル教程證第七九號及プロカル教程證(證第八一號)ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用中證人齋藤卯一ニ支給シタル費用ハ被告人恭二、薩男、平九郎、壽夫、榮太郎、篤一、正之輔、清之、賀眞ノ連帶負擔トシ證人谷口直平ニ支給シタル費用ハ被告人賀眞ノ負擔トス
公訴第二ノ出版法違反ノ罪ニツキ被告人遼一郎、雄次、梅夫、省三、平九郎、菊次、清之ヲ各免訴ス

理由

學生治安維持法違反事件梗概

我國現時ノ社會生活ニ於テ、其ノ經濟上ノ不平等ニ原因スル社會的不安ハ、殊ニ世界大戰期及其ノ後ノ經濟上思想上ノ急激ナル變動ト共ニ著シク増大深化シ無產階級ノ發達ニ依リ無產階級解放運動ノ進展ヲ見ルニ至リタルカ、此ノ社會的不安ハ同時ニ攻學ノ途上ニ在ル學生ニアリテモ、亦其ノ在學中卒業後ノ經濟生活ノ不安及環境ノ動搖ト相俟チ切實ナル關心事タルヲ免レス是等學生ノ内現在經濟組織、社會制度ノ缺陷ニ思テ致シ現時學校教育ニ慊ラス社會現象ノ科學的認識ニ依リ其ノ合理的解決ノ方法ヲ求メントシテ社會科學ノ研究ニ志ス者輩出シ相集リテ研究團體ヲ組織シ、以テ無產階級ノ解放ニ資セムコトヲ圖リ茲ニ所謂學生社會科學運動ノ發生進展ヲ見ルニ至リタリ

日本學生社會科學聯合會ハ是等同志ノ者相集リ一般社會科學ノ研究、促進及其ノ普及ヲ圖ル目的ヲ以テ組織セル各大學及專門學校ニ於ケル研究會ノ全國的聯合ニシテ便宜上全國ヲ分チテ關東關西東北ノ三地方聯合會及本部直屬ノ研究會トシ各研究會ノ選出ニ係ル代議員ヲ以テ最高ノ決議機關タル總會ヲ構成シ各地方聯合總會ノ選出スル中央委員ヨリ成ル中央委員會ヲ以テ各聯合會ノ連絡ヲ司リ以テ全國的ニ統制アル組織團體ナルトコロ大正十三年九月東京帝國大學第三學生控所ニ於テ第一回全國大會(總會)ヲ大正十四年七月十六日京都帝國學生集會所ニ於テ第二回全國大會ヲ各開催シ、殊ニ右第二回大會ニ於テハ其ノ大會テーゼ(論綱)ニ依リ過去ノ運動ノ經驗ヲ批判スルト共ニ將來ノ運動ノ一般方針ニ關シ我國社會生活ノ現勢ヲ所謂資本主義最後ノ段階タル帝國主義時代ニ在リト爲シ學生社會科學運動ノ目標ハ當然社會科學ノ研究普及並ニ社會科學研究會ノ存立權ノ主張ニ在ルコトヲ聲明シ其ノ任務トシテ會員ハマルクス主義ヲ指導精神トシ科學的社會觀(即チマルクス主義)ノ明確ナル修得及其ノ普及並ニ無產階級運動ニ貢獻シ得ル者ノ養成訓練ニ努メ一般學生ノ資本家の觀念ヲ徹底的ニ批判シ以テ其ノ反動化ヲ防止シ更ニ研究會ノ擴張ト緊密ナル組織ノ

統一ヲ圖リ進ンテ無產階級的教育ニ從事シ因テ無產階級運動ノ一翼トシテ之レカ解放ノ促進ヲ期スヘキ旨ヲ明カニシ爾來其ノ方針ニ基キテ活動シ大正十四年下半年期當時ニアリテハ其ノ加盟校約五十九校會員數約千六百名ヲ算スルノ勢力ヲ有スル團體タリシモノナリ

而シテ被告人等ハ(被告人正夫ヲ除ク)前示各局書學校ノ學生(生徒ヲ含ム)又ハ學生タリシ者ニシテ大正十四年六月以降同年十二月ニ至ル當時各當該學校研究會(東京帝國大學ニ於テハ新人會ト稱ス、尙被告人恒治ハ關西學院研究會ニ屬ス)ノ會員又ハ會友タリ孰レモ各地方聯合會ニ於ケル中心分子トシテ全國又ハ地方的ニ指導的ノ地位ニアリタルモノナルトコロ右第二回全國大會當時以降專ラマルクス主義、レーニン主義(共ニ共產主義ニシテレーニン主義ハ獨占的資本主義タル帝國主義ノ條件ノ下ニ於テ發展完成サレタルマルクス主義)ヲ研究ノ對象トシ其ノ所說ニ從ヒ、資本主義社會ハ一面其ノ制度ノ下ニ發展シタル物の生産力ト資本家的生産關係(所有制度)トノ抵觸他面其ノ生産方法ノ下ニ發達シタル無產階級ト資本家階級ノ利害ノ衝突等ノ矛盾ニ因リ没落シ更ニ必然的ニ共產主義社會ニ變革發展スヘク之カ革命ノ歷史的任務ヲ遂行シ得ルモノハ獨リ其ノ矛盾ヲ意識シ自己ノ階級ノ徹底的解放ヲ期スル無產階級アルノミニシテ無產階級ハ其ノ革命ニ際シ一時強力ニ依リ資本家階級ノ支配權ヲ顛覆シ一切ノ權力ヲ掌握シ所謂無產階級ノ獨裁ヲ斷行スルヲ必然トスヘク其ノ國家ノ下ニ階級對抗ヲ撤廢シタル後其ノ國家ノ凋落ト共ニ階級ナク搾取ナク私有ナキ共產制社會ニ移行スヘキコト即チ右革命ニ依リ在來ノ國家機關ハ總テ破壞セラレ更ニ無產階級國家モ亦凋落シ之ト共ニ傳來ノ財產關係ハ根本的ニ分離セラレ生産手段ハ一時無產階級國家ヲ經テ更ニ共產制社會ノ共有ニ屬シ私有財產制度(資本家的)ハ總テ廢絶セラレヘキコトヲ確信シ各自マルクス主義者レーニン主義者ヲ以テ任シ同主義ヲ指導

精神トシ帝國主義時代ニ於ケル我國無產階級運動ノ一翼トシテ其ノ解放運動ニ從事シ左記行動ニ及ヒタルモノニシテ

第一

一 被告人恭二、平九郎、薩男、壽夫、篤一、清之、榮太郎、正之輔、賀真等ハ大正十四年九月二十六日東京市芝區三田四國町日本勞働組合評議會關東地方評議會本部ニ開催セラレタル日本學生社會科學關東地方聯合會總會（當時ハ關東地方聯合會最高ノ決議機關）ニ他ノ約七、八十名ノ會員ト共ニ出席シ右會合ニ於テ曩ニ第二回全國大會テ一ゼ中學生社會科學運動ノ任務トシテ掲ケラレタル無產階級運動ニ貢獻シ得ル者ノ養成、訓練等ノ事項ニ關シ會員ニ對スル其ノ教育方針及方法ヲ統一確立セムカ爲、其ノ教育テ一ゼ及教程ヲ作成セムコトヲ議リ、被告人平九郎ノ說明ニ依リ同人作成ノ

（甲）教育テ一ゼ骨子ニ關シテハ、勞資階級間ニ於ケル經濟的利害ノ絶體ニ一致スルトコロナク從テ其ノ思想的對立教育上ノ對立モ亦不可避ナル資本主義社會ニ於テハ獨リ革命的マルクス主義的教育即其ノ社會ニ對スル最モ銳利ナル批判ノ武器ニシテ同時ニ階級闘争ニ於ケル物質的權力タリ新社會建設ノ用具タル革命的理論即マルクス主義レーニン主義ノ把握ノミ資本主義教育ニ對スル否定要素トシテ唯一ノ眞ノ勞働教育タリ得ヘク殊ニ現在ノ社會的事情ハ資本主義的環境及資本主義教育ヨリ受入ルル非マルクス主義的イデオロギーノ克服、無產階級ノ經濟的的政治的統一戰線ニ依リ生スル危險ニ對スル左傾的指導精神ノ確守、日和見主義、反動主義等ニ對スル闘争マルクス主義レーニン主義ノ徹底的展開、大衆獲得ノ爲ニスル有能ナル組織者ノ養成等ヲ最モ緊切トスルヲ以テ

之カ爲マルクス主義的一元教育ヲ絶對ニ必要トスルモノト云ハサルヘカラス而シテ學生運動ハ無產階級運動ノ一翼ニシテ之ト共通ノ目標戰略ヲ有スルモノナルヲ以テ其ノ教育モ亦勞働教育ト同シク資本主義教育ノ一否定要素トシテ當然マルクス主義レーニン主義ヲ其ノ指導原理ト爲ササルヘカラス故ニ吾々學生ハ其ノ精神ニ從ヒ終始内外ニ對スル批判協力ヲ怠ラス殊ニ理論ノ觀念化ト闘争精神ノ衰退ヲ警戒シ闘争ト不可分のニ結合セラレタル理論ノ把握ニツトメ以テ我カ學生運動ノ重要ナル任務ニ屬シ而モ我國現在ノ無產階級運動ニ於テ其ノ必要ト人員ノ不足ヲ最モ痛感シ其ノ養成ヲ焦眉ノ急トスル無產階級教育運動上ニ於ケル理論的把握者ノ獲得ヲ圖ラサルヘカラス是我學生運動ニ於テマルクス主義的一元教育ノ必要ヲ不可避ナラシムル所以ナリサレハ吾人ハ其ノ教育統一ノ爲メノ事業トシテ明確ナル指導原理ノ徹底的修得（マルクス主義トレーニン主義ノ歷史的關係其ノ辯證法的統一）ニ努メ全國的教程ヲ作成シ各研究会ニ對シ巡回的宣傳部ヲ派遣シテ其ノ速成的教育ヲ圖リ尙關東關西東北各聯合會ノ教育部員ノ定期交替ヲ行ヒ更ニ勞働組合、勞働學校、農民組合、農民學校、政治研究会、無產青年同盟等トノ連絡ヲ保ツコトヲ必要トスル旨及

（乙）全國的教程ニ關シテハ帝國主義時代及世界革命ノ時代ニ於ケル理論ハ當然レーニン主義ナラサルヘカラス從ツテ吾等日本學生社會科學聯合會所屬各研究会ノ今後ノ中心點モ亦レーニン主義ノ基本的諸原則及其ノ諸問題ニ置カレサルヘカラス蓋不斷ニ變化スル無產階級闘争ノ狀態ヘノ最深ノ理解ト最大ノ適應性トノ結合ハレーニン主義ノ會得ニヨリテ達成シ得ラルヘケレハナリ（註青年共產インターナショナルノ研究サークルノ指針（イ）帝國主義、民族、植民地問題（ロ）勞働階級ト農民（ハ）國家ソビエツト權力（ニ）ボルシエビズムノ組織上ノ諸原則（ホ）戰

術問題)サレハ今後研究会ニ於テハ原則トシテ中心分子ト一般會員トニ劃然區別シテ教育ヲ施シ一般會員(毎年毎ニ新入會生及新期ニ入り來ル凡テノ會員)ヲ教育ノ基礎トナシ其ノ正課教程ヲ一ヶ年トシ便宜上三學期ニ分チ第一學期ニ於テハ一、レーニズムノ諸問題ヘノ鍵トシテノ辯證法(機械的進化論、觀念的辯證法ノ批判)二、資本主義ノ特徵(階級「學生群」ノ社會的地位ヲ含ム)三、資本主義經濟ノ矛盾(生産ノ無政府狀態、失業、恐慌、階級闘争)ヲ講シ其ノ教材トシテ山川均氏著資本主義ノカラクリ或ハエンゲルス著空想ヨリ科學ヘノ内、科學的社會主義ノ章ヲ用ヒ、第二學期ニハ一、帝國主義ノ特徵(資本集中金融寡頭政治)二、資本主義矛盾ノ擴大の再生産(民族運動戰爭財團對立プロ戰線擴大)三、無産階級革命(ブルジョア國家ノ獨裁)ヲ説キ教材トシテバヴロウイツチ著帝國主義ノ經濟的基礎或ハレーニン著「帝國主義論」及スターリン著レーニン主義ノ理論ト實際(第四、第五章)ヲ用ヒ、第三學期ニハ一、政黨論(政黨ノ役割ト本質)二、マルクス主義ノ組織原則ト兵法戰術、赤色勞働インターナショナル、第三インターナショナル三、辯證法(第一學期ノ方法論ノ發展)ヲ講シ教材トシテ右レーニン主義ノ理論ト實際(第八、九章)ヲ使用シ其ノ教育方法ニ關シテハ一般會員ノ教育ハ主トシテ中心分子自ラ之ニ當ルヘク中心分子ハ吾々ノ教育カ其ノ本質ニ於テ變革教育ナルコトヲ知り且自ラ其ノ教育者タルノミナラス組織者タリ宣傳者タルコトニ留意シ校內研究会ニ於テハ之ヲ義務的行爲トシテ實行シ以テ無産階級運動ニ貢獻スヘキコトヲ期シ尙其ノ二人タルト三人タルト問ハス不斷ノ努力ト研鑽ヲ積ミ緊密ニ結合シタル統一體ヲ形成シ思想的ニ前衛隊ヲ構成シ一般會員トノ密接ナル結合ヲ保チ孤立的ナルヘカラス加之中心分子ハ一般會員ニ對シ用フヘキ教科書ヲ熟讀スルト共ニ其ノ重要點ヲ特ニ把握スルノ要アルヲ以テ中心分子ノミノ研究会ヲ開キ一般會

員ニ對スル教育ニ關シ討議ト熟慮ヲ重ネ相互間ニ常ニ仕事ノ集中ト分業ヲ有機的ニ行ヒ各自分擔ノ仕事ハ之ヲ正確ニ果シ以テ中心分子相互ノ進歩ヲハカルコトヲ要ス而シテ中心分子カ一般會員ヲ教育スルニアタリ讀ムヘキ書物ハ第一學期一、共產黨宣言二、資本主義ノカラクリ三、共產主義ノエービーシー(第一、二章)四、賃勞働ト資本五、空想ヨリ科學ヘ第二學期一、エービーシーオブコムニズム二、帝國主義ノ經濟的基礎三、帝國主義論四、ヴァルカ著資本主義經濟ノ没落五、レーニニズムノ理論ト實際六、ブハーリン著轉換期ノ經濟學七、レーニン著國家ト革命(第一、第五章)第三學期ハ一、レーニン主義ノ理論ト實際二、共產主義ノエービーシー(第五、六、七章)三、ブハーリン著史的唯物論(第二章)四、エンゲルス著ランドマーク(アンチヂューリング)五、轉換期ノ經濟學六、資本論第二版序文七、經濟學ノ批判ノ序文八、雜誌マルクス主義誌上ノ福本氏論文九、エンゲルス著、フオイエルバツハ論等ガル旨ノ日本學生社會科學聯合會教育テーゼ骨子附全國的教程ノ草案原稿(證第九八一號)ニ基キ單ニ字句修正ノ上之ヲ其ノ正案トナスヘキコトヲ承認可決(形式上委員附託トナス)シ以テ其ノ記載ノ方針方法ニ依リ會員ノ教育ニ從事スヘキコトヲ承認シ

ニ 被告人省三、池田隆、英一郎、佑、義道、哲二、久太、洋一、菊次、梅夫、耕、健三、正潔等ハ大正十四年十一月八日外十數名ノ會員ト共ニ神戸市外西灘村原田成宮晋次郎方(關西學院研究会合宿所)ニ會合シ其ノ前日神戸市關西學院ニ開催ノ日本學生社會科學關西地方聯合會總會ニ於テ議決セラレタル同聯合會教育テーゼ作成ノ件ニ關シ當時同關東地方聯合會ヨリ送付シ來リタル被告人平九郎起草ノ前示一ト同一内容ノ教育テーゼ骨子及全國的教程ヲ其ノ儘同關西地方聯合會ニ援用シ被告人英一郎ノ説明ニ依リ當日各會員ニ配布セラレタル右同一内容ノ印刷物(證

第八號)ニ基キ討議シ其ノ記載ノ方針及方法ニ依リ會員ノ教育ニ從事スヘキコトヲ承認シ

第二

一 京都帝國大學社會科學研究會員中大正十四年三月頃以降京都市内外ノ勞働組合又ハ農民組合等ニ於テ無産階級教育(プロレットカルト)ニ從事スルモノアリテ漸次其ノ數ノ増加スルト共ニ同年五月頃同研究會内ニプロカル部ヲ設ケ主トシ三回生ニ於テ之ニ從事スルコトトナシ、更ニ其ノ機運ノ増進ト運動ノ重要ナルニ顧ミ同年九月頃之ヲ同研究會委員總會ノ直接ノ事業トナシ至委員ニ於テ之ニ從事スルコトトナリタルカ其ノ教育ノ方針及方法ヲ統一のニ確立スル必要アリタル爲大正十四年九月二十日京都市北白川京都帝國大學社會科學研究會本部ニ開カレタル同研究會第二委員會當日同所ニ集合シタル被告人雄次、義道、英一郎、省三、池田隆、安藏、德三郎、佑、孝雄、遼一郎、武二、丸楠、忠三、米三、久太、泉隆等ハ右無産階級の教育(プロレットカルト)ニ關スル教育テーゼ及教程ヲ作成スヘキコトヲ議リ、其ノ根本方針ヲマルクス主義レーニン主義ニ置キ、其ノ教育運動ニ從事スヘキコトヲ承認シ右テーゼ及教程ノ起草者トシテ、被告人義道、安藏、武二、雄次等ヲ舉ケ

二 更ニ同年十月四日同研究會第一委員會當日右同所ニ集合シタル被告人雄次、英一郎、省三、池田隆、佑、德三郎、哲二、孝雄、遼一郎、武二、丸楠、米三、久太、二男、積、重雄等ハ右一記載ノ事情ニヨリ更ニ前日大阪市東區生野國分町被告人耕方ニ於ケル日本學生社會科學關西地方聯合會代表委員會ニ於テ無産階級教育(プロレットカルト)運動ニ關スル事務統制ノ爲關西地方聯合會ニ社會部ヲ新設スルト共ニ其ノ教育ノ方針確立ノ爲京都帝國大學社會科學研究會ノ提案ニヨリプロレットカルト運動ニ關スルテーゼヲ作成スヘキコトヲ議決シ、京都地方聯合會委員會ニ

於テ其ノ草案作成ノ上之ヲ同月十七日ノ關西地方聯合會代表委員會ニ上程附議スヘキ豫定ナリシ爲等ノ事情ニヨリ被告人雄次ノ作成ニ係リ當日印刷物トシテ配布セラレタル

(甲) プロレットカルト運動ニ關スルテーゼニ就テハ世界及日本ノ帝國主義ノ没落過程ノ現勢竝ニ其ノ國際的團結國內的統一及日和見主義ノ排撃ヲ絕對ニ必要トシ爲ニ革命的統一理論ノ把持ヲ要求シツアル世界及日本ノ無産階級運動ノ現勢ニ徴シ將ニプロレットカルト運動ニ從ハムトスル我カ關西プロカル部モ亦其ノ運動ニ就テノ統一方針ヲ定ムルテーゼヲ必要トスルコト明カナリトス蓋ブルヂョア階級文化ノ帝國主義化ニ依リ軍國主義的教化及麻醉的欺瞞的教化ノ注入ノ行ハルルニ對シ其ノブルヂョアカルトヘノ反抗、日和見主義ヘノ抗爭ノ爲所謂革命的理論ナクシテ革命的行動ナキノ理ニヨリプロレタリアート獨自ノ階級の教育ノ發生スルハ必然ナリトイハサル可カラス然ルニ日本ニ於ケル現在ノプロレットカルト運動ハ之ヲ其ノ指導精神ヨリ見ルニ多ク有産者のナルノミナラス其ノ無産者の(革命的)ノ者ト雖未タ試ミノ段階ニアリテ其ノ研究方法ノ不統一、教材、課目ノ不統一等ノ缺陷アルヲ免レス故ニ右諸點ニ顧ミ我々ノ方針ハ必然的ニ其ノカルトノ原則ヲレーニン主義、革命的統一理論(革命的理論ナクシテ革命的運動ナシ、理論ト實際トノ辯證法的統一、理論カ大衆ヲ把握スレハソレハ物質的權力ト成ル)ニ置キ(イ)組織者ノ訓練(ロ)帝國主義、日和見主義ノ排撃ニ努メ(ハ)都市勞働者ト農民トノ共同戰線ヲ保チ其ノカルトノ方法ニ關シテハ(イ)同志關係ノ密接(ロ)辯證法的方法(ハ)無産者ノ日常現實ノ鬭爭トノ結合(ニ)全出席者ノ平均的水準ヲ標準トスルコト等ノ諸點ニ留意スルコトヲ要スル旨

(乙) プロカル教程ニ關シ都市勞働者ノ部ニツキテハ之ヲ十一回完了ノ豫定トシ第一章資本主義社會(二回ニテ完

了)第一節資本主義社會ノ發生(共產黨宣言第一章參照)ブルジョア革命—資本家階級ト労働者階級第二節資本主義社會ノカラクリ(共產主義ノエー、ビー、シー、空想ヨリ科學へ、資本主義ノカラクリ)—生産機關ノ獨占—剩餘價值ノ搾取、商品生産—競争—生産ノ無政府—階級對立、第三節労働組合ノ進化ト職分(レーニン著國家ト革命、山川氏労働組合ノ進化ト職分、ジノヴィエフ著労働組合)第二章帝國主義—資本主義ノ發展(七回完了)第一節資本ノ集積ト金融資本ノ支配(共產主義ノエー、ビー、シー第二、四章)レーニン著帝國主義論、バヴロウイツチレーニンノ章ヴアルガ著資本主義ノ没落、リブクネヒト著反軍國主義)—大資本ト小資本—自由競争ノ止揚—獨占、帝國主義(銀行ノ新役割、金融寡頭政治、資本ノ輸出世界分割)軍國主義—帝國主義戰爭第二節ブルジョアチイノ陣營—アラユル國家機關ノ武裝(ブルジョア階級ト官僚軍閥學閥ノ抱合)第三節プロレタリアートノ陣營(共產主義ノエー、ビー、シー第三インターナショナル議定書、レーニン著帝國主義ト社會主義ノ分裂ロゾブスキ、ワールドトレードユニオン、ムーブメント、日本労働組合評議會宣言、スターリン著レーニン主義ノ理論ト實際第九、七、六章)ミルチン社會主義ト農業問題)第二、第三インターナショナル、兩インターナショナル統一運動、日和見主義、全國總聯合ノ問題—無產政黨、農民ノ運動、植民地反抗運動、第三章共產主義革命(二回)第一節内亂(政權ノ獲得)第二節無產階級ノ獨裁、第三節共產主義建設ノ努力(共產主義ノエー、ビー、シー、スターリン著レーニン主義ノ理論ト實際第五章)レーニン著國家ト革命レーニン著ソヴェットノ事業共產主義ノエー、ビー、シー、プロトコール(第二節)トシ次ニ農民ノ部ニツキテモ亦十一回完了ノ豫定トシ第一章舊イデオロギ—ノ破壊(二回)第一節地球ノ進化(地球ノ進化及其ノ消滅)第二節生物ノ進化(進化論)第三節(無產階級ノ世界

史)第二章資本主義社會ノ發生(二回)第一節資本主義社會ノ概觀(資本主義ノカラクリ、共產黨宣言、共產主義ノエー、ビー、シー)第二節農村ニ對スル資本主義ノ影響(佐野學農村問題)レーニン農村問題、ミルチン社會主義ト農村問題)—農村ノ二重搾取、土地ノ集中—農村ノ資本主義化、農村ニ於ケル階級分裂、農産物ノ商品化第三節組合運動ノ進化ト職分(ミルチン、労働年鑑)第三章帝國主義(五回)第一節帝國主義ノ概觀(バヴロウイツチ帝國主義—經濟的基礎)第二節地主階級ノ陣營—地主資本家ノ抱合—地主ノ金融資本家化—軍國主義、第三節農村プロレタリアートノ陣營(労働年鑑、スターリン、及共產主義ノエー、ビー、シー、八章)—農民組合運動ノ全國的統一、都市労働者トノ結合、國際的プロレタリア運動、無產政黨問題、第四章社會革命(二回)第一節革命期ニ於ケル農村ノ都市労働者ニ對スル關係(ミルチン)第二節無產階級ト農民(スターリン、エー、ビー、シー)第三節共產主義社會ト農業(ロシアノ農業制度、労働ロシア研究)等ニ分チ其ノ教育ヲ爲スヘキ旨ノ内容ノプロレットカルト運動ニ關スルテーゼ(證八〇號)及プロカル教程(都市労働者及農民ノ部)(證第八一號)ニ基キ討議シプロレットカルト運動ニ關スルテーゼハ右骨子ニ依リ其ノ方針ニ基キ尙詳細ニ作成シプロカル教程ハ被告人米三ノ意見ニ基キ一部修正ヲ加ヘ更ニ協議スルコトトナシ

三 大正十四年十月十七日右京都帝國大學社會科學研究會本部ニ開カレタル日本學生社會科學關西地方聯合會委員會ニ於テ被告人英一郎、省三、安藏、哲二、梅夫、耕、健三、恒治、正潔等ハ右ニ記載ノ同月三日ノ代表委員會ニ於ケル豫定ニ基キ當日印刷物トシテ配布セラレタル被告人雄次作成ノ

(甲) プロレットカルトテーゼニ關シテハ現在我々カプロレットカルト運動ニ關スルテーゼヲ必要トスル第一ノ理

由ハ世界帝國主義及其ノ一環ヲナセル日本帝國主義ノ没落過程ヨリ來ルモノニシテ即西曆一八九〇年代以降其ノ最後ノ段階タル帝國主義ニ進展シタル世界資本主義ハ殊ニ世界大戰以後其ノ內在的矛盾ヲ鮮明ニ暴露シ更ニ一九二〇年四月ノ恐慌以來後退没落ノ必然的崩壞ノ途ヲ急進シツツアルニヨル而シテ此ノ没落ノ諸相ハ(イ)世界ノ經濟ノ均衡破壞(ロシヤ社會主義聯邦ソヴィエツト共和國ノ出現、北米ニ於ケル生産過剩中東歐ニ於ケル生産力減退等)(ロ)大衆ノ生活ノ著シキ惡化(永久的失業群ノ増加、賃金ノ低下、中産階級ノ没落、資本家階級政府ノ無能等)ニヨリ明白ニ看取セラル可ク而モ是等没落ノ諸相ハ資本主義崩壞ノ必然的表現ニシテ到底之カ恢復ノ途ナク却テ刻一刻ノ急調ヲ以テ行詰リノ袋小路ヲ盲進セルモノト云ハサルヘカラス而シテ右世界資本主義ノ發展ニ伴ヒ自由主義時代ヲ飛躍シテ獨占的帝國主義時代ニ推移シタル日本資本主義(銀行業ノ集中、主要産業ノ官營又ハ民營ニヨル獨占ノ擴大、朝鮮、支那、滿蒙ニ於ケル植民地搾取)モ亦崩壞ノ必至的運命ノ例外タルヲ得サルニヨルモノニシテ其ノ第二ノ理由ハ世界及日本プロレタリアートノ現勢ニ由來ス即大戰ノ末期及終結直後各國ノ經濟的混亂疲弊及支配階級ノ無能ニ乘シ世界ノ無産階級ハ一齊ニ革命的鬭争ニ颯起シ一九一七年ロシヤノ無産階級ハ決定的勝利ヲ獲得シ無産階級獨裁ヲ確立スルニ至リ其ノ後一起一伏アリタリト雖、各國ニ於ケル革命運動ノ勢力ハ益々眞剣牢固トナリ其ノ統一運動モ亦現實化シテ進展シツツアリ而シテ我國無産階級ノ運動モ亦一九二四年前期以來所謂方向轉換ヲ指導精神トシ極力大數ノ無産大衆ヲ階級的ニ結成セムトシツツアリ如上世界及日本無産階級運動ノ任務ハ又必然ニ革命的理論ノ把持ヲ要求スルモノニシテ即帝國主義時代ハ植民地ノ苛烈ナル搾取ノ必然的政策トシテ組合幹部ノ墮落、日和見主義者ノ發生ヲ促シ從テ日和見主義理論ノ發生ヲ見ルモノナルヲ以テ

此ノ日和見主義ヲ徹底的ニ絶滅シ墮落幹部ヲ痛烈ニ批判スルコトナクシテ無産階級ノ解放ヲ期シ得ヘカラス革命的統一の理論ニヨル大衆ノ獲得組織是現在各國マルクス主義者ノ任務ニ外ナラス我日本學生社會科學聯合會ハ其ノ第二回全國大會テゼニヨリ學生運動カ無産階級運動ノ一翼ニシテ其ノ指導精神タルマルクス主義ハ理論ト實踐ノ辯證法的統一ヲ必要トスルコトヲ明確ニシ從テ一般目標ノ一ニプロレツトカルト運動ニ獻身スヘキコトヲ掲ケタリ、シカモ教育者ハ又教育サルルヲ以テ其ノ運動ニ從事スルコトニヨリ學生運動カ一層其ノ徹底味ト眞剣味ヲ増スコト又疑ヲ容レズ、而シテ吾人ハ如上日本無産階級運動ノ現勢ノ下ニ多數ノ員數ヲ以テ、プロレツトカルト運動ニ從事セムトスル者其ノ革命的統一の理論ノカルト運動ニ關スル統一の方針ノ確立ヲ必要トスル蓋シ言フヲ俟タサルトコロナルヘシ、惟フニ帝國主義末期資本主義没落期ノ支配階級ハ其ノ經濟的關係ノ必然ヨリシテ現存ノ凡ユル教育機關ヲ通シテ軍國主義的並ニ麻醉的欺瞞的教化ヲ無産大衆ニ注入シ自己ノ階級的支配ヲ維持シ無産大衆ヲ永遠ノ鐵鎖ニ緊縛セムトシツツアリ、然レトモ資本家階級ノ支配的イデオロギヲ以テ一元的ニ構成セラレタル資本主義社會ノ教育ハ資本主義ノ內在的矛盾(殊ニ階級對立)ノ發展ニ從ツテ其ノ分裂ヲ免レス即勞動者ノ團結ト共ニ一ツノ反抗ノ共通的思想ヲ生ミ資本主義的教育ニ反抗シ更ニ資本主義ノ進展、獨占資本主義—資本主義没落—階級鬭争ノ決定時期ニ及ンテ無産階級ハ彼等ノ教育ノスローガンニ「革命的統一の理論—マルクシズム、レーニニズム」ノ旗幟ヲ掲クルニ至リタリ、プロレツトカルト運動ハ抽象的知識ノ供給ニアラス、資本家的教化ヨリノ獨立—無産階級ノ歴史の任務ノ自覺—階級鬭争ノ指針トシテノ理論ノ獲得ナリ、シカモ理論ニシテ一度大衆ヲ把握セムオソハ物質的權力ト成リ階級鬭争ノ決定的勝利ハ確實トナル可シ、上叙ノ如ク現在ハブルヂョ

アカルトヘノ反抗、日和見主義的理論ヘノ抗爭ヲ緊急事トスル時代ナルヲ以テ此等ノアカルトヲ批判殲滅スルコトナクシテ革命ノ成就スルコトナシ、翻テ現在我國ノプロレツトカルト運動ヲ點檢批判スルニ其ノ指導精神上多ク資本主義的教育(最モ露骨ナル代表的ノモノハ、工場、學校、修養會、在郷軍人團、青年團)又ハ日和見的協調教育(各種勞働學校)ニシテ當面必須ノ任務タル無産階級的教育—マルクス主義レーニン主義ノアカルト—ハ未タ充分ニ發展セス、試ミノ段階ニアリテ其ノアカルトノ方法ノ非組織的ナルノミナラス教材科目モ亦不統一ニシテ未タブルヂョア的教育方法ノ舊套ヲ脱セサルモノアリ、以上諸點ニ顧ミ吾等ノアカルトノ原則ハ必然ニマルクス主義レーニン主義ニシテ資本主義ノ發展ト勞働階級ノ戰術トヲ其ノ全體性ニ於テ、發展的ニアカルトスルコトヲ目的トスヘク殊ニ帝國主義ノ本質竝ニ其ノ時代ノ無産階級ノ戰術ヲ主眼トシ闘士ノ訓練帝國主義及日和見主義ノ排撃ニ努メ都市勞働者ト農民トノ共同戰線ヲ保チ其ノアカルトノ方法ニ就キテハ大衆ノ階級意識ヲ鮮明ナラシメ以テ同時ニ之ヲ實行ニ結合セシムルコトヲ主眼トシテ大衆ノ眞ノ同僚トナルコト、質問討論ニヨリ大衆ノ意識ヲ止揚セシムルコト、講義ハ之ヲ無産者ノ日常現實ノ問題ト結ヒ付クルコト及全出席者ノ平均的水準ヲ標準トスルコト等ニ注意スヘキ旨

(乙) プロカルの教程ニ關シテハ、都市勞働者ノ部ニツキ第二章資本主義ノカラクリ中商品生産ノ項ヲ第一位ニ置キ競争ノ項ヲ省キ階級闘争ヲ生産ノ無政府ノ前ニ置キタルコト及農民ノ部ニツキ第二章資本主義社會ノ發生第二節農村ニ於ケル資本主義ノ影響中農産物ノ商品化ノ項ヲ第一位ニ置キタル外右ニ記載ノプロカルの教程(證第八一號)—同一内容ノプロレツトカルトニ關スルレーゼ附プロカルの教程(證第七九號)ニ基キ討議シ右レーゼ案ニ關シテハ

大體ニ於テ其ノ記載方針ニ從フ可キコトヲ承認シプロカルの教程ニ就キテハ更ニ協議ヲ重ヌルコトトナシ

四

上記プロレツトカルト運動ノ進展ニ伴ヒ同月中京都帝國大學社會科學研究會委員會ノプロレツトカルト運動ヲ更ニ同志社研究會ノ有志ト共同シテ實行スルコトトナシ其ノ統制上、日本學生社會科學關西地方聯合會京都地方聯合會ニ社會部ヲ設ケ其ノ部ノ事業トナシタル爲、同月十八日前京都帝國大學社會科學研究會本部ニ同社會部員總會ヲ開キ被告人義道、省三、池田隆、安藏、徳三郎、久太、重雄、二男、米三、孝雄、忠三、武二、菊次、梅夫及正夫(日本勞働評議會京都地方評議會書記)等會合ノ上右三記載ノレーゼ及教程(證第七九號)ノ内容タル事項ニ互リ協議ヲ重ネレーゼニツキテハ之ヲ承認シ其ノ記載方針ニ基キプロレツト、カルト運動ニ從事スルコトトナシ、教程ニ關シテハ尙勞働者ノ實際生活ニ顧ミ其ノ日常ノ實際問題ヲ主タル材料トシテ之ニ理論ヲ結合セシム可キ旨等ノ意見ヲ參酌シテ更ニ適宜作成ノ上協議スヘキコトトナシ

以上孰レモ被告人等ハ我國現時ノ社會生活カ資本主義崩壊ノ必至的運命ノ裡ニアリテ資本案對無産階級ノ階級闘争ノ決定期ニ在リト爲シマルクス主義レーニン主義ヲ指導精神トシテ無産階級ノ解放ヲ圖リ以テ共産制社會ノ實現ヲ期シ革命的理論ナクシテ革命的行動ナク、大衆ニ把握セラレタル革命的理論ハ革命運動ニ於ケル物質的權力ニシテ階級闘争ノ決定的勝利ヲ確實ニスル新社會建設ノ要具ナルコトノ信條ノ下ニ専ラ共産制社會建設者トシテ無産大衆獲得ノ爲ニスル有能ナル組織者理論的把握者ノ養成訓練ト無産大衆ニ對シ階級闘争ノ指針トシテノ革命的統一の理論—マルクス主義レーニン主義—ヲ獲得セシムル爲其ノ教育教化ノ方針及具體的方法ニ關シ協議シタルモノニシテ即我カ國體ノ變革及私有財産制度否認ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタルモノナリ

冒頭掲記ノ學生社會科學運動カ我國現在ノ社會的不安ニ對スル學生ノ關心ニ其ノ端ヲ發シ其ノ解決ノ途ヲ求メテ社會科學ノ研究ニ志ス者ノ研究團體ノ間ニ發生進展シタルコトハ左記被告人等ニ對スル豫審訊問調書(被告人恭二第三回一問答、平九郎第三回、一、「以下問答略」薩男第二回、一三、壽夫第一回、一三、篤一第一回、一四、榮太郎第二回、一、正之輔第二回、一、雄次第二回、一二、重雄第一回、一四、米三第一回、一五、義道第三回、一、積第二回、二泉隆第二回、一一、二男第一回、一二等)中同一趣旨ノ記載アルト押收ニ係ル學生社會科學聯合會第二回全國大會テ一七(證第五號)中之ニ照應スル記載アルニヨリ之ヲ認メ日本學生社會科學聯合會カ右同志ノ者ヨリ成リ判示ノ如キ目的組織ヲ有スルコトハ被告人等ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述及押收ニ係ル日本學生社會科學聯合會規約(第二回全國大會決議)「證第七號」中同一趣旨ノ記載アルニ依リ尙第一回全國大會開催ノ事實ニツキテハ被告人恭二、平九郎、雄次等ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニヨリ各之ヲ認ム、次ニ第二回全國大會開催ノ事實ハ被告人等ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニヨリ明カニシテ右大會ニ於テ其ノ大會テ一七ニヨリ學生社會科學運動ノ目標任務トシテ判示記載ノ事項ヲ聲明シタルコトハ右大會テ一七ハ大會ニ於テ之ヲ承認可決シタル旨ノ被告人等ノ當公廷ニ於ケル供述及被告人恭二ノ當公廷ニ於ケル右大會テ一七(證第五號)大會テ一七關東草案(證第二號)關西草案(證第四號)及補足案(證第一八號)ハ其ノ趣旨ニ於テ同一ナル旨ノ供述ト右大會テ一七及右各草案中判示同趣旨ノ記載アルヲ綜合シテ之ヲ認定シ更ニ大正十四年下半年當時ノ日本學生社會科學聯合會ノ加盟校並ニ會員數カ判示ノ如クナルコトハ被告人平九郎ニ對スル豫審第四回訊問調書(二問答)中之ニ照應スル記載アルニヨリ之ヲ認ム

次ニ被告人正夫ヲ除ク被告人等カ各其ノ肩書學校ノ學生又ハ學生タリシ者ニシテ大正十四年七月以降十二月ニ至ル當時日本學生社會科學聯合會所屬研究會ノ各會員又ハ會友タリシコトハ被告人等ノ當公廷ニ於ケル各其ノ旨ノ供述ニ依リ尙被告人等カ各地方聯合會又ハ研究會ノ中心分子トシテ指導的ノ地位ニアリタルコトハ下記被告人等ニ對スル豫審訊問調書(被告人壽夫第五回、三、恭二第八回、三、英一郎第九回、三、省三第十二回、三)其旨ノ供述記載アルニヨリ之ヲ認ム而シテ被告人等カ第二回大會當時以降マルクス主義、レーニン主義ヲ研究ノ對象トシ其ノ理論ヲ信奉シ居リタルコト、右兩主義ハ共ニ共產主義ニシテレーニン主義ハ獨占的資本主義タル帝國主義ノ條件ノ下ニ發展完成セラレタルマルクス主義ナルコト及同主義ノ理論中社會變革ノ過程ニ關シ判示同趣旨ノ主張ノ存在スルコトハ被告人等ニ對スル豫審訊問調書中日本學生社會科學聯合會及各研究會ノ目的ニ關スル問答ニ關聯シテ記載セラレタルマルクス主義、レーニン主義ノ説明(被告人恭二第二回、一一、平九郎第二回、一一、薩男第二回、一一、壽夫第一回、一二、榮太郎第一回、一四及第六回、一四、正之輔第一回、一二、篤一第一回、一三、雄次第二回、一〇、德三郎第二回、九、池田隆第一回、一二、重雄第一回、一二、米三第一回、一四、省三第五回、七、八第十一回、一、義道第二回、一〇、英一郎第二回、八、清之第一回、一二、孝雄第二回、一〇、丸楠第一回、一二、哲二第二回、一一、佑第二回、一一、久太第二回、一一、洋一第七回、一六、梅夫第二回、一一、健三第一回、一三、正潔第一回、一四、忠三第二回、一二、耕第一回、一三、二男第一回、一二、正男第一回等)中判示同趣旨ノ供述記載アルト前示教程中中心分子ノ讀ムヘキモノトシテ掲ケラレタル書目カ殆トマルクス主義、レーニン主義ニ關スルモノナル等ノ事實ニ依リ之ヲ認メ尙被告人等カ孰レモマルクス主義者レーニン主義者ニシテ同主義ヲ指導精神トシ無産階級解放ノ爲其ノ運動

ノ一翼タル學生社會科學運動ニ從事シタル事實ハ被告人等ノ當公廷ニ於テ自認スルトコロナリトス
 次ニ判示第一ノ一ノ事實中大正十四年九月二十六日被告人恭二、平九郎、薩男、篤一、正之輔、榮太郎、清之、賀
 眞、壽夫等カ判示場所ニ開催セラレタル日本學生社會科學關東地方聯合會總會ニ出席シタルコトハ被告人等ノ當公廷
 ニ於ケル其ノ旨ノ供述(被告人賀眞ハ遅刻シテ出席)ニヨリ尙被告人等カ右會合ニ於テ教育テーゼ及教程ノ作成ニ關シ
 被告人平九郎ノ説明ニ依リ同人作成ノ草案原稿ニ基キ之ヲ委員附託字句修正ノ上承認可決シタルコトハ被告人賀眞ヲ
 除ク他ノ被告人等ノ當公廷ニ於テ認ムルトコロナルノミナラス右原稿ノ記載内容カ判示ノ如クナルコトハ押收ニ係ル
 日本學生社會科學聯合會教育テーゼ骨子及全國的教程(證第九八一號)中同一趣旨ノ記載アルト被告人平九郎及恭二ノ
 當公廷ニ於ケル右被告人平九郎ノ説明シタル原稿ノ内容ハ證第九八一號ト同一ナル旨ノ供述及同被告人等ニ對スル豫
 審訊問調書(被告人恭二第六回、一一、平九郎第七回、一二)中右教育テーゼ及教程ノ内容トシテ判示同旨ノ供述記載
 アルニヨリ之ヲ認ム可ク尙被告人賀眞ヲ除ク被告人等カ同年九月中右總會準備ノ爲ニ開カレタル關東地方聯合會常任
 委員會又ハ代表委員會及其ノ他ノ機會ニ於テ右テーゼ及原稿ノ内容ヲ了知シ總會ニ提案ヲ承認シタルコト即チ被告人
 等カ總會提案當時既ニ右テーゼ及教程草案ノ内容ヲ了知シ之ヲ承認シタルコトハ被告人等ニ對スル各豫審訊問調書
 (被告人恭二第六回、二、平九郎第七回、二、薩男第五回、七及一〇、壽夫第三回、九、一〇、一一、篤一第三回
 一〇、榮太郎第五回、一、清之第三回、一二、正之輔第五回、三及九)中同一趣旨ノ記載アルニヨリ明カニシテ、其
 ノ審議ノ目的カ判示ノ如クナルコトハ被告人恭二ニ對スル豫審第六回訊問調書(一、二問答)中其ノ目的ハ我々學生運
 動ニ於ケル會員ニ對スル教育方針及教程ヲ統一のニ確立シ其ノ根本方針ニ從ヒテ教育ニ從事スル爲ナル旨ノ供述記載

及平九郎ニ對スル同第七回訊問調書(一三問答)中其ノ趣旨ヲ確定的ノモノタラシメ之ニ從ヒ教育ヲ實行シ階級意識ヲ
 闡明ナラシメ以テ無産階級運動ニ貢獻セントシタル旨ノ供述記載並ニ被告人壽夫ニ對スル豫審第三回訊問調書(二一
 問答)中關東地方聯合會ニ於テ第二回全國大會ニ上程ノ爲大會テーゼ關東案ヲ作成シ之ニ學聯ノ方針トシテ無産階級
 解放運動ニ貢獻シ得ル者ノ養成訓練ヲナスヘキコトヲ掲ケタルカカ教育ノ方針及方法ヲ確立スル爲全國的教育テー
 ゼ骨子及教程ヲ作成スルコトトナリタル旨ノ供述記載等ニヨリ之ヲ認ム尙被告人賀眞モ亦右協議ニ參加シタル事實ハ
 同被告人ニ對スル豫審第八回訊問調書中清水カ全國的教育テーゼ及教程作成ノ件ニ付學生運動ノ教育方針ハマルクス
 主義的一元教育ナラサルヘカラサル旨ヲ熱心ニ説明シ異論ナク其ノ作成ノ件ヲ可決シ同被告人モ亦マルクス主義的一
 元教育ノ必要ヲ信シ賛成シタル旨及右教育テーゼ及教程ノ内容ハ證第九八一號ノ書面ト同一ナル旨ノ供述記載ニヨリ
 之ヲ認ムルニ十分ナリトス

次ニ判示第一ノ二事實中當該被告人等カ判示ノ日時判示ノ場所ニ會合シ其ノ席上配布セラレタル判示同趣旨ノ日本
 學生社會科學聯合教育テーゼ骨子及全國的教程ノ印刷物(證第八號)ニ基キ被告人英一郎ノ朗讀的説明ニヨリ談議ノア
 リタルコトハ被告人佑ヲ除ク其他ノ被告人ノ全部認ムルトコロニシテ被告人等ニ於テ右テーゼ骨子及教程ノ内容ヲ承
 認シ其ノ記載ノ方針方法ニ基キ教育ニ從事スヘキコトヲ承認シタルコトハ被告人英一郎(第五回、六)(第六回、一
 五)哲二(第五回、一二)久太(第三回、一六及一七)菊次(第四回、三)耕(第二回、二四)健三(第二回、一八)等ニ對スル
 各豫審訊問調書中同一趣旨ノ記載アルト被告人英一郎ニ對スル豫審第五回訊問調書(二四問答)中右教育テーゼ及教程
 審議ノ目的ハ學生運動ノ教育方針ヲ確定シ之ニ從ヒ行動センカ爲右テーゼ及教程ヲ定メンコトヲ協議シタルモノニシ

テ何レモ之ヲ確立セシメ實行セントシタルニ外ナラサル旨ノ供述記載トヲ綜合シテ之ヲ認定シ尙右教育テーゼ骨子及教程ハ當時關東地方聯合會ヨリ送付シ來リタルモノヲ其ノ儘關西地方聯合會ニ採用シタルモノニシテ前日ノ大會ニ於テ關西地方聯合會教育テーゼノ作成ヲ提案可決シタル事情ニ基クモノナルコトハ被告人省三ニ對スル豫審第四回(三)第九回(十一)佑ニ對スル同第六回(一五)哲ニ對スル同第五回(一及二)久太ニ對スル同第三回(一六及一七)菊次ニ對スル同第四回(三)各訊問調書中同趣旨ノ供述記載アルニヨリ其ノ證據十分ナリトス

次ニ判示第二ノ一ノ事實中ニ記載ノ京都帝國大學社會科學研究會ニ於ケルプロレットカルト運動ノ經過カ判示ノ如クナルコトハ被告人英一郎ニ對スル豫審第六回(一乃至三)徳三郎ニ對スル同第四回(一乃至三)義道ニ對スル同第五回(一及二)各訊問調書中同趣旨ノ供述記載アルニヨリ之ヲ認メ當該被告人等カ判示ノ日時判示ノ場所ニ集合シタルコト及ビ同席上ニ於テプロレットカルトニ關シ談議アリタルコトハ被告人等ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニヨリ尙右談議ニ際シプロレットカルトノ方針及ビ方法ヲ統一セシムカ爲其ノテーゼ及教程ヲ作成セムコトヲ謀リ各自之ニ關スル意見ヲ述ヘ其ノ根本方針ヲレーニン主義ニ置キ同主義ニ基キプロレットカルト運動ニ從事スヘキコトヲ承認シタルコト及ビ右テーゼ竝ニ教程ノ起草者トシテ被告人義道、安藏、武二、雄次等ノ擧ケラレタルコトハ左記被告人等ニ對スル豫審訊問調書(雄次第五回、一及一七、義道第五回、四及五、英一郎第六回、四及五、省三第六回、二五及二八、第九回、五、安藏第五回、一八、徳三郎第四回、四乃至八、佑第六回、一及二、孝雄第五回、六、武二第三回、八、米三第三回、四、久太第四回、一、泉隆第三回、一七及第四回、一二)中同趣旨ノ供述記載アルト押收ニ係ル手帖(證第三六二號)中之ニ照應スル記載更ニ被告人英一郎ニ對スル豫審第八回(一〇問答)訊問調書中被告人等ノ内

本事件檢舉後寄り寄りプロレットカルトテーゼハ未タ決定ヲ見タルモノニアラサルヲ以テ研究討論シタルモノト答辯スルヲ可トスル旨ノ申合セアリタリ而シテ大正十四年十二月二十日過頃善後策ノ爲市内寺町今出川上ル關西學聯合宿所ニ集合シタル時モ實際ニ於テ我々ハテーゼ及教程ヲ確定シ之ヲ實行スル爲種々テーゼ教程ノ制定ニ關シ協議ナシタルモノナルモ其ノ席上誰言フトナク右テーゼ及教程ハ未タ決定シ居ラサルヲ以テ其ノ事ヲ明カニシ且協議ト言ハスシテ討論シタル旨答辯ヲナスヘシトノ意見ニ一致シタル旨ノ供述記載竝ニ被告人義道、省三、久太、雄次等ニ對スル各豫審訊問調書中執レモ同席上ニ於テテーゼ教程ハ未タ決定サレサルヲ以テ協議トセスシテ討論シタルモノト答辯スヘキ旨ノ意見アリタル旨ノ供述記載アルトヲ綜合シテ之ヲ認定ス

次ニ第二ノ二ノ事實中判示日時、判示場所ニ於テ當該被告人等カ其ノ席上ニ配布セラレタル判示ノ如キ内容ノプロレット、カルト、テーゼ(證第八〇號)及プロカル教程(證第八一號)ニ基キ討論シタルコトハ被告人等ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニヨリ尙十月三日ノ大阪ニ於ケル關西地方聯合會代表委員會ニ於テプロレットカルト事務統制ノ爲社會部ヲ新設スルト共ニ其ノ運動ノ組織方針確立ノ爲京都帝國大學社會科學研究會ノ提案ニヨリプロレットカルトテーゼヲ作成スヘキコトヲ議決シ右テーゼハ京都地方聯合會委員會ニ於テ其ノ草案ヲ作成シ之レヲ十月十七日ノ關西地方聯合會代表委員會ニ於テ討論スルコトト定メタル事實ハ被告人省三ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述及被告人哲二(第四回、一)耕(第二回、一六)正潔(第二回、七)等ニ對スル豫審訊問調書中各同趣旨ノ供述記載アルト押收ニ係ル議事録(證第四七三號)中之ニ照應スル記載アルトニヨリ之ヲ認メ右テーゼニツキテハ右骨子ニ基キ其ノ方針ニヨリ更ニ詳細ナルモノヲ作成シプロカル教程ハ被告人米三ノ意見ニヨリ一部修正ヲ加ヘ、更ニ協議スヘキコトト爲シタル事實

ハ被告人徳三郎(第四回、九)雄次(第五回、一)英一郎(第六回、八)佑(第六回、二)孝雄(第五回、一)遼一郎(第三回、二〇)丸楠(第四回、三)米三(第三回、四)久太(第四回、一)積(第四回、六)重雄(第四回、七)等ニ對スル豫審訊問調書中各其ノ旨ノ供述記載アルト前示被告人英一郎、義道、久太、省三等ノ協議トセスシテ討議シタルモノト答辯スヘシトノ申合セニ關スル豫審調書中ノ供述記載トヲ綜合シテ之ヲ認定シ右プロカルテーゼ及プロカル教程(證第八〇號

第八一號)カ被告人雄次ノ起草ニ係ルコトハ同被告人ノ當公廷ニ於ケル自供ニヨリ明カナリトス
同第二ノ三事實中當該被告人等カ判示日時判示場所ニ集合シ右席上ニ配布セラレタル判示ノ如キ内容ノプロレツトカルト、テーゼ及プロカル教程(證第七九號)ノ印刷物ニ基キ討論シタルコトハ被告人等ノ認ムルトコロニシテ右討論カ被告人等ノ當公廷ニ於テ主張スル如キ單ニ研究ノ爲ノ討論ニアラスシテ其ノ討議ノ結果テーゼニ就テハ大體ニ於テ其ノ記載方針ニ基キテ運動ニ從フ可キコトヲ承認シプロカル教程ニ就テハ更ニ協議ヲ重ヌルコトトナシタル事實ハ被告人省三(第八回四問答)耕(第二回、一八)恒治(第二回、二二)ニ對スル豫審訊問調書中同趣旨ノ供述記載アルト前示英一郎等ノ協議トセスシテ討議トナスヘシトノ申合セノ供述記載ヲ綜合シテ之ヲ認定ス

次ニ第二ノ四ノ事實ハ當該被告人等ノ當公廷ニ於ケル判示日時、判示場所ニ於テ判示プロレツトカルトテーゼ及プロカル教程ニ關シ研究討論シタル旨ノ供述ト被告人徳三郎(第四回、一四)孝雄(第五回、一)米三(第四回、四)久太(第四回、一及四)二男(第三回、五)重雄(第三回、九)梅夫(第三回、一八)正夫(第二回、八)ニ對スル豫審訊問調書中別ニ決テ採リタル譯ニアラサルモテーゼニ就テハ一同異論ナク其ノ方針ニ基キ運動ニ從事スヘキ旨ヲ承認シタル旨ノ供述記載及前示被告人英一郎等ノ協議ヲ討議トナスヘシトノ申合ニ關スル供述記載ニヨリ之ヲ認ム而シテ被告人等ノ右

協議カ孰レモ帝國主義時代ニ於ケル我國無産階級運動ノ一翼トシテ共產制社會ノ實現ヲ期シ專ラ共產制社會建設者トシテノ無産大衆獲得ノ爲メニスル有能ナル組織者ノ養成訓練ト無産大衆ニ對シ階級闘争ノ指針トシテノ革命的理論—マルクス主義、レーニン主義—ヲ獲得セシムル爲ノ教育、教化ニ關シナサレタルモノナルコトハ被告人等ニ對スル豫審訊問調書中(被告人恭二第三回四、第六回一二及第七回五、平九郎第三回一及三、第四回六及第七回一三、壽夫第三回三五、薩男第二回一五、第五回一四及一五、篤一第四回一一、正之輔第二回四及第五回一五、榮太郎第六回一四及第五回一〇、賀眞第六回五、第七回一及第八回六、清之第一回一七及第四回七及一三、雄次第二回一五、第五回一及一七、第七回一五、英一郎第二回一〇及一二、第六回三及四、義道第三回三、第五回一五及第七回二二、省三第五回九及一〇、第六回一七、第九回四及五、徳三郎第二回一四、第四回四及六、安藏第四回二七、同第五回二七、菊次第二回一五、第六回一、恒治第一回一七、第二回二五及三三、孝雄第二回一一及第四回一六、第五回一及一八、丸楠第二回四及第四回二二、哲二第五回二二、佑第六回二四、久太第二回一四、第四回一及一二、泉隆第二回一三、第四回一二、洋一第三回三、第七回一六、梅夫第二回一六及一八、第四回三〇、重雄第一回一六、第三回四、健三第二回二六、正潔第一回一五及一七、一八、第二回二九、忠三第二回一六、第四回一二、米三第一回一七、第三回八及一二、積第二回四、第五回一四、武二第三回一四、遼一郎第五回六、耕第一回一八、第二回二三、第三回四、二男第一回一五及第三回二三、池田隆第一回一六、第五回一四、正夫第二回五、第四回一〇)同一趣旨ノ供述記載アルト前示日本學生社會科學聯合教育テーゼ骨子及全國的教程(證第九八—一號第八號)並ニプロレツト、カルト、テーゼ及プロカル教程(證第七九號)ノ内容ノ趣旨ヲ綜合シテ之ヲ認定スルニ十分ナリトス即チ被告人等ノ判示行爲ハ其ノ犯罪ノ證明十

分ナルモノトス

辯護人今村力三郎、片山哲、三輪壽壯、水谷長三郎、近内金光、小田美奇穂ハ治安維持法第二條ニ所謂私有財産制度ノ否認ノ實行ニ關シ協議ナシタルモノトハ其ノ實行トシテ不法ナル方法ヲ協議シタルモノヲ指シ其ノ實行ノ違法手段ニ依ルコトヲ必要トスルヲ以テ法制上ノ手續等合法ノ手段ニ依リ之ヲ否認スルモノヲ包含セス而シテ被告人等ノ行爲ハ假ニ其ノ實行ニ關シ協議ナシタルモノトスルモ孰レモ其ノ手段ハ合法ナルヲ以テ其ノ行爲ハ右法條所定ノ罪ニ該當セサル旨主張スルヲ以テ按スルニ治安維持法ニ所謂私有財産制度ノ否認ノ實行トハ現在我國ノ法制上認めラレタル財産ノ私有ニ關スル制度ノ存在ヲ全ク無視スルカ如キ方法ニ依リ其ノ全部又ハ根幹ニ互リ現實ニ廢止又ハ變革スルコトヲ指稱シ必スシモ其ノ手段ノ合法ハ之ヲ問ハサルモノト解スヘク例ハ現時私有財産即時沒收ノ目的ヲ以テ其ノ實現ヲ主目的トスル政黨ノ組織ニ關シ協議スルカ如キモ亦之ニ該當スルモノト云ハサルヘカラス況ンヤ被告人等ハ共產制社會ヘノ過渡的時代ニ於テ無産階級ノ獨裁ヲ必然トシ其ノ實行ノ爲強力ノ不可避ナルコトヲ是認スルモノナルニ於テオヤ

次ニ辯護人小田美奇穂、三輪壽壯ハ被告人等ハ本件行爲ニ關シ治安維持法違反ノ認識ナカリシモノナルヲ以テ其ノ責任ナキ旨主張スルモ被告人等カ右治安維持法第二條所定ノ犯罪ノ構成ニ必要ナル事實ニ對シ認識アリタルコトハ上來説示スルトコロニヨリ明カナルヲ以テ其ノ犯意ノ成立ヲ阻却スルニ足ラス從テ其ノ責任ナシト言フヲ得ス

更ニ辯護人水谷長三郎、近内金光ハ假ニ被告人等ニ於テ私有財産制度否認ノ實行ニ關シ協議ナシタルモノトスルモ被告人等ハ孰レモ其ノ否認實現ノ能力ナキモノナルヲ以テ刑法上ノ所謂不能犯ニ屬シ犯罪ヲ構成セサル旨主張スルヲ

以テ更ニ此ノ點ニツキ審案スルニ無産階級ノ階級意識ノ尖鋭化シタル我國社會生活ノ現勢ニ於テ判示ノ如キ緊密ナル組織統一及多數ノ會員ヲ有スル團體の勢力ニ依リ判示ノ如キ革命的理論ヲ指導精神トシ被告人等ノ爲シタル判示ノ如キ運動ハ必シモ其ノ目的タル私有財産制度否認實現ノ能力ナキモノト斷定シ難シ依テ以上辯護人ノ主張ハ孰レモ其ノ理ナシ

法律ニ照スニ被告人等ノ行爲ハ各治安維持法第二條ニ該當スルヲ以テ其ノ法定ノ刑期範圍内ニ於テ主文ノ如ク量刑處斷シ刑法第二十一條ヲ適用シ夫々未決勾留日數中主文掲記ノ日數ヲ各本刑ニ算入スヘク尙被告人遼一郎、忠三、重雄、哲二、丸楠、二男、正潔、恒治、耕、健三、久太、孝雄、篤一、賀眞、正之輔ニ對シテハ各其ノ犯情ニ顧ミ刑法第二十五條ニ則リ主文ノ期間内各其ノ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトシ押收物件中主文掲記ノ物件ハ本件犯罪ノ用ニ供シタルモノニシテ犯人以外ノ所有ニ屬セサルヲ以テ刑法第十九條ノ規程ニ依リテ之ヲ沒收シ、訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ノ規定ニヨリ其ノ負擔ヲ定ムヘキモノトス

次ニ

一 被告人壽夫、平九郎、賀眞ハ大正十四年六月下旬東京市下谷區上野櫻木町新人會本部ニ於テ第二回全國大會テ一七關東案(證第八七九號ノ一、證第二號)ノ作成ニ關シ學生運動カマルクス主義ヲ指導精神トシ無産階級運動ノ一翼トナリ之ト共通ノ戰略ニヨリ無産階級ノ解放ヲ圖ラム爲日本學生社會科學聯合會ニ於テハ(イ)會員ノ有スルブルチヨアイデオロギーノ徹底的批判ト其ノ打破(ロ)反資本主義的傾向ヲ有スル學生ノ無産階級的啓蒙(ハ)無産階級運動ニ實質的貢獻ヲ爲シ得ル者ノ養成訓練等ヲ其ノ職分トシ之カ爲無産階級ノ指導理論タル「プロレタリア」科學ノ收得

ト其ノ促進ヲ企圖スルコトヲ要スル等學生運動ノ一般の方針ニ關シ協議シ右同趣旨ノ内容ノ大會テーゼ關東案原稿(證第二號)ヲ作成シタリトノ公訴第一ノ一ノ(一)ノ事實

二 被告人賀眞、正之輔、平九郎、薩男、壽夫等ハ同年七月七日頃右新人會本部ニ於テ日本學生社會科學關東地方聯合會代表委員會ヲ開催シ學生社會科學運動ノ一般方針ニ關シ右(一)記載ノテーゼ原稿ノ内容タル事項ニ互リ協議ヲ遂ケ之ヲ承認可決シ更ニ之ヲ第二回全國大會ニ提案スルコトニ決シタリトノ公訴第一ノ一ノ(二)ノ事實

三 被告人恭二、薩男、榮太郎、雄次等ハ同年七月十四日頃京都市北白川京都帝國大學社會科學研究會本部ニ於テ、被告人雄次ノ作成ニ係ル學生社會運動ハ反資本主義運動ニシテマルクス主義ヲ其ノ指導精神トナシ無産階級運動ノ一翼トナリ(イ)マルクス主義ノ徹底的體得(ロ)會員一般ヘノ「マルクス主義」ノ普及並ニ煽動(ハ)一般學生ノ進歩的運動ノ援助(ニ)一般學生ノ反動化ニ對スル徹底的殲滅(ホ)種々ナル社會的活動及事業ヘノ參加(ヘ)我等ノ先輩及同僚ノ「マルクス主義」ヨリ逃避背離ヲ防クコトニ努メサルヘカラサル旨等ノ第二回全國大會テトセ關西案(證第四號)及前記關東案ハ共ニ其ノ内容過激ニ互リ措辭穩當ヲ缺キ公開ノ大會ニ上程審議ヲ憚ルノ理由ニヨリ更ニ右兩案及被告人恭二作成ノ第二回全國大會、テーゼ補足案等ヲ折衷シタル措辭穩健ナル同趣旨ノ新草案ヲ作成上程スヘキコトヲ協議シ被告人恭二ニ於テ冒頭掲記ノ如キ内容ノ第二回全國大會テーゼ新草案(證第五號)ヲ作成シタリトノ公訴第一ノ一ノ(三)ノ事實

四 被告人恭二、薩男、篤一、平九郎、榮太郎、正之輔、清之、英一郎、省三、雄次、安藏、佑、二男、丸楠、久太、洋一、恒治、耕、健三ハ外數十名ノ會員ト共ニ同年七月十六日京都帝國大學々生集會所ニ開催ノ日本學生社會科學

聯合會第二回全國大會ニ出席シ前示大會テーゼ新草案(證第五號)ニ基キ之ヲ學生社會運動ノ一般方針ト爲スヘキ旨ノ協議ヲ遂ケ同案ヲ可決シタリトノ公訴第一ノ一ノ(四)ノ事實

五 右大會ノ翌日ナル同月十七日被告人恭二、平九郎、榮太郎、英一郎、省三、池田隆、丸楠、二男、洋一、健三、佑等ハ前記京都帝國大學社會科學研究會本部ニ被告人薩男、正之輔、篤一、清之、雄次、安藏、德三郎、久太、耕、恒治、佑等ハ京都市聖護院中町京都帝國大學社會科學研究會合宿所ニ各會合シ孰レモ學生社會科學運動ノ一般方針ニ關シ前記第二回全國大會テーゼ關東案同補足案同關西案及同新草案ハ何レモ其ノ趣旨ニ於テ同一ナルヲ以テ是等總テヲ綜合シタルモノヲ其ノ根本方針ト爲シ之ニ從ヒ運動ニ從事スヘキ旨協議ヲ遂ケ尙全國的教程(證第九號)ヲ定メタリトノ公訴第一ノ一ノ(五)ノ事實

六 被告人平九郎、恭二ハ同年九月上旬頃前記新人會本部ニ於テ日本學生社會科學聯合會ノ教育方針及全國的教程ノ確立ニ關シ被告人平九郎ノ作成ニ係ル判示第一ノ一記載ノ教育テーゼ骨子及全國的教程(證第九八號)ノ内容タル事項ニ關シ協議ヲ遂ケ之ヲ日本學生社會科學聯合會ノ教育テーゼ骨子及全國的教程草案トナスヘキコトニ決シタリトノ公訴第一ノ二ノ(一)ノ事實

七 被告人恭二、薩男、壽夫、篤一、平九郎、榮太郎、賀眞、清之、正之輔等ハ同年九月二十六日東京市芝區三田四國町日本勞働組合評議會關東地方評議會本部ニ開催ノ日本學生社會科學關東地方聯合會總會ニ出席シ前記五、(公訴第一ノ一ノ(五))ト同一趣旨ノ協議ヲナシタリトノ公訴第二ノ二中ノ一部ノ事實

八 被告人菊次、洋一、梅夫ハ同年十一月上旬頃京都市塔ノ段毘沙門町ナル同志社々會科學研究會本部ニ於テ會員ノ

結束ヲ有機的ニ強固ナラシムル爲班生治ノ方針確立ニ關シ帝國主義資本ノ陣營ノ一部タル大學、専門學校内ニ於テ社會科學研究會カ無産階級運動ノ一翼トシテノ陣營ヲ張り支配階級ニ對シ脅威ヲ與フルニヨリ近時當局ハ吾々社會科學聯合會ニ對シ極度ノ壓迫ヲ敢テ爲シツツアリ此ノ危急ノ秋ニ際シ吾々ハ敗殘ノ陣營ヲ奪還シ益強固ナル陣營ヲ確立シ無産階級運動ノ一翼トシテノ任務ヲ完ウシ得ル爲、速ニ無産階級ノ階級戰ニ於ケル組織原則ニ從ヒ會員カ集的統一のニ強固ニ結束セラレ上層機關ノ統制ト會員ノ意思ノ反映ヲ有機的ナラシメ且全會員ニ對シテ階級戰ニ於ケル一兵卒トシテノ訓練ヲ徹底的ナラシムル爲班組織ヲ採用セサルヘカラサルコト及班ヲ研究會ノ組織ニ於ケル基礎單位トシ會員ハ必ス班ニ分屬シ所屬班ノ名ニ於テ上層機關ニ建言シ班員トシテ其ノ統制ニ服シ以テ集中的統一ノ組織ヲ確立シ強壓ニ抗シテ研究會ヲ發展セシメサルヘカラス班組織ハ研究會本來ノ目的ヲ達スル爲唯一ノ武器ニシテ且全會員ヲ階級戰ニ於ケル一兵卒トシテ教育訓練スル唯一ノ機關ナリ從テ班員ハ其ノ目的達成ノ爲班委員ノ統制ニ從ヒ活動ニ參加シレーニン主義ノ體系的研究ヲ遂ケ階級戰ニ於テ特ニ注意スヘキ事件其ノ他運動ニ關スル問題ニ付充分ナル討議ト批判ニヨリ結成セラレタル理論ト戰術ヲ把握セサルヘカラサルコト又班員各個ノ生活ノ互助的批判ヲ爲スト共ニ班ニ於テ結成サレタル理論戰術決議等ハ直チニ之ヲ班員ノ行動ニ移シ又班委員ニ依リ委員會ニ提出シ其ノ執行ニヨリテ速ニ行動ニ移シ又其ノ行動ノ成果ハ再ヒ直ニ班ニ於テ研究批判シ以テ理論ト實踐トヲ統一のニ進展セシメサルヘカラサルコト等ニ付協議ヲ遂ケ右趣旨ノ班生活テーゼ(證第一五號)ヲ作成シ之ヲ日本學生社會科學關西地方聯合會總會ニ提案スヘキコトニ決シタリトノ公訴第一ノ三ノ(一)ノ事實

九 判示第一ノ二ノ關西地方聯合會總會翌日ノ會合ニ於テ同判示被告人等カ班生活ニ關シ右班生活テーゼ記載事項ニ

互リ協議ヲ遂ケ之ヲ關西地方聯合會ニ採用シ其ノ方針ニ基キ活動スヘキコトニ決シタリトノ公訴第一ノ三ノ(二)ノ事實中ノ一部ノ事實

十 被告人省三、遼一郎、雄次ハ同年十一月下旬頃京都市寺町今出川上ル被告人省三方ナル關西地方聯合會本部ニ於テ學生社會科學運動ノ校内運動ノ一般方針ニ關シ現在ノ如ク支配階級ノ反動的壓迫ノ組織化サレタル時ニ當リ吾々ハ無産階級ノ一翼ナルト共ニ又學生大衆ノ最左翼ノ一團トシテ絶エス學生ヲ封建勢力、支配階級ノ反動的政策ニ對スル闘争ニ動員セサルヘカラサルヲ以テ其ノ任務ヲ明確ニ意識シ研究會ノ擴張ト其ノ存立ヲ圖ル爲校友會文藝哲學其ノ他ノ各研究會及教室等ヲ利用シ一般學生ニ對スル社會科學ノ宣傳ト新會員ノ獲得ニ努メ尙解散ノ虞アル研究會ニ對シテハ表面自然科學哲學ノ研究等ヲ標榜スル會ヲ組織シテ其ノ解散ニ備フヘキ旨等ノ事項ニ互リ協議ヲ遂ケ之ヲ關西地方聯合會所屬各研究會ノ校内運動ノ一般方針トナスヘキコトニ定メ同趣旨ノテーゼ(證第十一號)ヲ作成シタリトノ公訴第一ノ四ノ事實

十一 被告人平九郎、篤一、正之輔、池田隆、省三等ハ同年十二月二十五日東京帝國大學第二學生控所ニ開カレタル日本學生社會科學聯合會全國執行委員會ニ於テ學生運動ハ第二回全國大會以後其ノ主要勢力ヲ校外運動ニ傾注シ校内運動ヲ忽ニシタル爲一般學生群ヨリ孤立スル虞アリタルニヨリ之ニ對スル戰術ヲ考究セムカ爲(甲)學生社會運動ノ戰術ニ關シ(イ)自由主義團體(ロ)反動團體(ハ)學校當局ノ社會科學研究會ニ對スル壓迫(ニ)中等學校(ホ)社會科學研究會ノ解散等ニ對スル各對策ノ事項ニ互リ(乙)教育ニ關シ從來ノ教育テーゼ教程ヲ多少修正シ(イ)未組織學生ヘノ煽動及組織(ロ)新入會員ヘノ煽動及宣傳(ハ)一般會員ヘノ理論ノ注入ト行動ヘノ誘致(ニ)中心分子ノ理論的

結成ト運動ヘノ積極的參加ノ四段階教育ヲ施スヘキ旨等ノ事項ニ互リ協議シ教育テ一ゼヲ包含スル戰術テ一ゼヲ作成スヘキコトニ決シタリトノ公訴第一ノ五ノ事實

十二 (一) 被告人義道、池田隆、徳三郎、武二、泉隆、忠三、洋一、菊次、正夫ハ同年十一月二十一日京都市下京區八條夷馬場町日本勞働組合京都地方評議會本部ニ開カレタル京都無産者教育機關相談會ニ

(二) 被告人義道、徳三郎、泉隆、菊次、正夫等ハ同月二十三日同市聖護院中町被告人徳三郎方ニ開カレタル京都無産者教育協會準備委員會ニ

(三) 被告人義道、省三、池田隆、徳三郎、二男、丸楠、武二、泉隆、洋一、菊次、梅夫、正夫等ハ同年十一月一日前記京都地方評議會本部ニ開カレタル京都無産者教育協會創立總會ニ各出席シ

孰レモ一般無産者ニ對シマルクス主義ヲ指導精神トシ無産階級の教化ヲ組織的統一的ニ實施セムコトヲ協議シタリトノ公訴第一ノ七ノ(一)(二)(三)ノ事實等

ニ付テハ孰レモ其ノ協議カ未タ國體ノ變革又ハ私有財産制度ノ否認ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シナ

サレタルモノナルコトノ證明十分ナラス、尙且被告人正之輔カ右二(公訴第一ノ一ノ(二))榮太郎カ右三(公訴第一ノ一ノ(三))被告人洋一カ五(公訴第一ノ一ノ(五))八(公訴第一ノ三ノ(一))恭二カ六(公訴第一ノ二ノ(一))丸楠カ判示

第二ノ四ノ各協議ニ參加シタル事實ニツキテモ亦其ノ證明十分ナラス然レトモ以上何レモ判示認定ノ罪ト共ニ包括シタル一罪ノ一部トシテ起訴セラレタルモノト認ムヘキヲ以テ特ニ此ノ點ニ關シ無罪ノ言渡ヲ爲サス

更ニ進ンテ被告人雄次、省三、遼一郎、梅夫、平九郎、菊次、清之等ニ對スル出版法違反被告事件ニ付按スルニ右

公訴事實ハ

一 被告人雄次ハ大正十四年九月二十八、九日頃京都市聖護院中町被告人徳三郎方ニ於テ判示第二ノ二所掲ト同一内容ノプロレット、カルト運動ニ關スルテーゼ附プロカル教程(證第八〇號第八一號)ヲ著作シ尙意思繼續シテ同年十月十日頃右同所ニ於テ判示第二ノ三所掲ト同一内容ノプロレット、カルトニ關スルテーゼ附プロカル教程(證第七九號)ヲ著作シ孰レモ其ノ頃同志ノ手ニ依リ印刷セラレタル上判示第三ノ二、三記載ノ如ク配布セラレ

二 被告人省三八同年十月十日頃京都市北白川京都帝國大學社會科學研究會本部ニ於テ外一名ト共ニ被告人雄次ノ著作ニ係ル前記プロレット、カルトニ關スルテーゼ附プロカル教程(證第七九號)ヲ約三、四十部印刷シタル上、同月十八日同所ニ開催ノ前記京都地方聯合會社會部員總會ニ於テ出席者約二十名ニ配布シ尙意思繼續シテ同年十一月四五日頃神戸市上筒井町白井明方ニ於テ被告人平九郎ノ著作ニ係ル判示第一ノ一所掲ト同一内容ノ日本學生社會科學聯合會教育ヲ一ゼ附全國的教程ヲ約三十部複寫印刷(證第八號)シタル上、同月八日判示第一ノ二ノ會合ニ於テ約二十名ノ出席者ニ配布シ

三 被告人遼一郎ハ同年十月中旬頃前示京都帝國大學社會科學研究會本部ニ於テスターリン著「レーニン主義ノ理論ト實際」中序言及第一章乃至第五章並ニ第七章ヲ抄譯シ

(イ) レーニニズムハ帝國主義トプロレタリア革命ノ時期ニ於ケル、マルクシズムナリ嚴密ニ言ヘハプロレタリア革命ノ一般ノ理論ニシテ特ニプロレタリア獨裁ノ理論ナリ從テ必然的ニレーニニズムハプロレタリア革命プロレタリア獨裁、ソヴェエツト組織ノ理論ナルト同時ニ帝國主義ト不可分離ノ日和見主義ニ對スル克服的的革命理論ナ

(ロ) レーニニズムハ帝國主義下ノ革命理論ナリ帝國主義ハ死滅シツツアル資本主義ナリ帝國主義ニハ資本ト労働トノ敵對金融資本主義國家間ノ相互ノ敵對植民地ト先進國トノ敵對ノ三大矛盾アリ帝國主義ハ資本ノ牙城攻撃ノ爲有利ナル事情ヲ創造セリ而シテレーニニズムハスル國際的事情ノ下ニ生レタルモノナル旨

(ハ) 日和見主義ハ資本主義ノ平和的發展ニヨリ合法的ニ社會主義ニ推移スト主張スルモ日和見主義ノ此ノ思想經濟的ストライキ労働組合運動選舉戰議會内ノ闘争等ノ闘争方法ハ現今ノ帝國主義ノ崩壞期ニ於テハ全ク不十分ニシテ、レーニニズムハスル日和見主義ノ本質ヲ暴露シ統一の革命理論ヲ主張スル旨

(ニ) レーニニズムノ理論ハ各國ノ労働運動ノ經驗ヲ全體トシテ攝取セシモノニシテ理論ハ革命的實踐ト結合セシ時ニ於テ労働者運動ノ偉大ナル力タリ得ルナリ革命的理論ナクシテ革命的運動ハ存在シ得ス帝國主義ハ世界經濟ト呼ハルル單一ナル鎖ノ環ニシテ資本ノ戰線ハ必スシモ産業ノ最モ發達シタル處ニテ破ルルモノト限ラス革命ハ帝國主義戰線ノ鎖ノ最モ薄弱ナル點ニ於テ破ル一國ニ於テ成功セル革命ノ任務ハ他ノ諸國ニ於ケル革命ノ發展援助喚起ニ努力スル點ニ存スル旨

(ホ) プロレタリア獨裁ヲプロレタリア革命ノ道具トシテノ獨裁ブルジョアジーニ對スルプロレタリアートノ支配トシテノ獨裁プロレタリア獨裁ノ國家形態トシテノソヴェット權力トノ三段ニ分ツコトヲ得ヘク(一)プロレタリア革命ノ道具トシテノプロレタリア獨裁ハプロレタリア革命ニ對シテ基本的意義ヲ有シ其ノ根本的任務ハ(イ)革命ニヨリテ顛覆サレ資本ヲ收奪サレタル資本家及地主ノ反抗ノ粉碎ト資本家階級ノ支配ヲ恢復セントスル凡ユル

企圖ノ掃蕩(ロ)プロレタリアートノ周圍ニ全労働者ヲ結合セシムルコトニヨリテノ會社主義的建設組織及階級消滅ヲ導クヘキ方向ニ於テノ此ノ事業ノ實施(ハ)革命ヲ武装シ外部ノ敵即チ帝國主義ニ對スル武装革命軍ノ組織等ニシテプロレタリア獨裁ハ革命期ニ於ケル暫時的ノ期間ニアラス内亂外敵トノ紛亂強靱ナル組織的活動ト經濟的建設及攻勢ト退却トニ充タサレタル全歴史の期間ニシテ此ノ歴史の期間ハ完全ナル社會主義ノ勝利ノ爲、經濟的文化的條件ノ創造トシテ必要ナルノミナラスプロレタリアートニ管理的能力ヲ與ヘ小ブルジョア層ニ對シテ教育スヘキ可能性ヲ教フル爲必要ナリ次ニ(ニ)ブルジョアジーニ對スルプロレタリアートノ支配トシテノプロレタリア獨裁ハ日和見主義ノ言フカ如キ單ナル内閣ノ更迭ニ非ス中央ニ於テモ地方ニ於テモ新シキ機關ヲ有ツプロレタリア國家ナリプロレタリア獨裁ハ完全ナルデモクラシイニ非ス只プロレタリアート及一般無産者ニ對スルデモクラシイナリ、プロレタリア獨裁ハブルジョアデモクラシイノ平和的發展ノ結果ニ非スブルジョア國家機關ノ粉碎ノ結果ナリ、次ニ(三)プロレタリア獨裁ノ國家形態トシテノソヴェット權力トハ、ソヴェットハプロレタリアートノ新シキ組織形態ニシテソヴェット共和國ハ其ノ境内ニ於テプロレタリアートノ經濟的解放社會主義ノ完全ナル勝利カ實現サルヘキ最後ニ見出サルル政治的形態ナル旨(ハ)資本主義ノ比較的平和ナル發展期即日和見主義支配ノ時代ハ無産大衆ノ組織ト教育トノ時代ニシテ議會闘争カ主要ナル闘争形式ノ時代ナリキ從テ統一の革命的戰略及戰術カ缺如シ居リシモマルクスエンゲルスノ戰略戰術ヲ新條件ノ下ニ於テ發展セシムルレーニニズムノ戰略戰術コソプロレタリア階級闘争ノ指針ノ科學ナリ戰略ノ方針ハ革命ノ豫備軍ノ利用ニアリ此ノ豫備軍ノ利用ノ爲ニ必要ナル條件ハ敵ノ最モ弱キ地點ニ且決定的瞬間ニ於テ革命ノ主要勢力ヲ集中スルコト其ノ他ニ存スル旨等

ヲ記載セル文書(證第一八號)ヲ著作シ其ノ頃同所ニ於テ外一名ト共ニ之ヲ約二十部印刷シ同月十八日より同年十一月三日頃ニ至ル間ニ於テ第六高等學校、姫路高等學校及廣島高等學校ノ各社會科學研究會員ニ對シ夫々三、四部宛各右高等學校所在地ニ於テ配布シ

四 被告人梅夫ハ同年十一月十日頃京都市上京區塔ノ段毘沙門町ナル同志社々會科學研究會本部ニ於テ前示「レーニシ主義ノ理論ト實際」中無産階級獨裁ヲ抄譯シ

無産階級ノ決定的勝利ハ無産階級獨裁ヲ通シテノミ實現化シ得ルモノナリ無産階級獨裁ハ無産階級革命ノ機關ニシテ克服サレタル搾取階級ノ反抗ヲ鎮壓シ革命ノ勝利ヲ強固ニシ革命ヲ完成シ社會主義ノ完全ナル勝利ヲ導クヘキ使命ヲ擔ヘルモノナリ無産階級ノ獨裁ヲ俟タスシテ支配階級ノ權力ヲ顛覆シ得ルモ之ナクシテハブルジョアノ反抗ヲ潰滅シ革命ノ勝利ヲ維持シ社會主義ニ迄進展セシムルコトハ不可能ナリ革命後ニ於ケルブルジョアノ殘存勢力ニ對抗スル爲無産階級ノ獨裁ヲ(イ)革命ニ依リテ剝奪セラレタル地主及資本家ノ反抗ヲ破壊シ資本ノ權力ヲ復活セシメントスル凡ユル彼等ノ企圖ヲ鎮壓スルコト(ロ)プロレタリアノ周圍ニ全勞働者ヲ集メ階級ノ漸次的消滅ヲ圖リ社會主義建設ノコト(ハ)外敵タル帝國主義ニ對シテ革命ヲ武装シ赤衛軍ヲ組織スルコト等ニ分ツコトヲ得、無産階級ノ獨裁ハブルジョア社會ノ平和的發展ノ結果ニ非スブルジョアノ軍隊、國家機關、統治機關ノ破壊ノ結果ナリ無産階級獨裁ノ勝利トハブルジョアノ破碎、ブルジョア政治機關ノ破壊プロレタリアデモクラシーノ抹殺ヲ意味ス此ノ重要事項遂行ノ組織形態トシテソヴェットノ必要ト其ノ強味アリ即大衆ハ今ヤ國家ノ民主的統治ニ決定的ニ永久ニ參加スルコトヲ得、ソヴェット權力ノ到來ハブルジョア民主主義的議會主義ノ斷末魔ニシテ人類ノ新時代黎明ナル趣

旨ノ文書ヲ著作シ其ノ頃同所ニ於テ之ヲ約三十部印刷シタル上同所ニ開催シタル同志社大學社會科學研究會合同研究會ニ於テ其ノ出席者ニ合計約二十五六部配布シ

五 被告人平九郎ハ同年八月下旬頃神戸市南本町一丁目ナル同被告人宅ニ於テ判示第一ノ一所掲ト同一内容ノ日本學生社會科學聯合會教育テーゼ骨子及全國的教程ヲ著作シ

被告人清之ハ被告人平九郎ノ依頼ニヨリ同年十月十九日頃東京市麴町區有樂町三丁目日本農民組合關東同盟本部ニ於テ之ヲ約四十部印刷シ、右文書ハ其ノ頃被告人平九郎ノ手ニ依リ日本學生社會科學聯合會各地方聯合會又ハ九州協議會同志社關西學院研究會等ニ配付セラレ

六 被告人菊次ハ同年十一月初旬頃前記同志社社會科學研究會本部ニ於テ右數名ト共ニ前示八(公訴第一ノ三ノ一)ノ事實)所掲ト同一内容ノ班生活テーゼ(證第一五號)ヲ著作シ右文書ハ其ノ頃同志ノ手ニヨリ約五十部印刷セラレタル上同月八日ノ判示第一ノ二ノ會合ニ於テ約二十名ノ出席者ニ配付セラレ

以上孰レモ被告人等ハ政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂スル前記當該文書ヲ各著作印刷又ハ發行シタルモノナリト謂フニア

然レトモ右公訴ニ該ル出版法違反ノ罪ハ昭和二年二月七日勅令第十一號大赦令ニ依リ赦免セラレタルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十三條第三號恩赦令第三條ニ則リ右被告人等ニ對シ各免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和二年五月三十日

學生治安維持法違反事件梗概

京都地方裁判所刑事部

裁判長判事 荒

井

操

判事 安

倍

恕

判事 山

口

友

吉

學生治安維持法違反事件身上調査

目次

岩田義道	一三
泉隆	一五
池田隆	一六
石田英一郎	一七
原田耕	一八
橋本省三	一九
蓬臺恒治	二〇
逸見重雄	二三
大橋積	二三
大田遼一郎	二三
大浦梅夫	二三
小崎正潔	二四
鷺谷武二	二五
上村正夫	二六

淡徳三郎	二七
永井哲二	二八
武藤丸楠	二九
村尾薩男	三〇
内海洋一	三一
野呂榮太郎	三一
栗原佑	三一
黒川健三	三一
黒田久太	三四
熊谷孝雄	三四
山崎雄次	三六
松本篤一	三七
藤井米三	三六
是枝恭二	三九

目次

古賀 二男	一四五
後藤 壽夫	一四六
秋笹 正之輔	一四八
澤田 政雄	一四九
衣谷 賀眞	一五〇
宮崎 菊次	一五一
白谷 忠三	一五二
清水 平九郎	一五三
實川 清之	一五五
鈴木 安藏	一五九

學生治安維持法違反事件身上調査

愛知縣栗原郡北方村大字中島一三四九

京都帝國大學經濟學部

岩 田 義 道

當二十九歲

【健康状態】 慢性中耳炎、肺結核

【家庭状況】 祖母、兩親及び妻と二子、姉一人は他に嫁す。財産として家屋及び僅少の田畑あり。父は和船を有し荷物運搬に従事す。

【思慕過程】 郷里の小學校高等科二年を卒業するに際し學校より賞與として「實業立身傳」なる書物を與へられたり。當時小學校の教員を志したるが、父は實業家を希望したると又右の書物を読み大實業家たらんと欲し、父の勧めによりて十五歳の春東京市に赴き某洋紙店の小僧に入りたり。同所に於て或は主人が妾を蓄へ或は主人の子供と小僧との境遇の懸隔ある等の社會的現象に接したるも、當時夫等は寧ろ當然の事と思ひ居たりき。當時其の店に雇はれ居りたる岐阜の人にして肺病に罹り歸國したるものあり。父が之を訪問したる處其の者より其の洋紙店に雇はれ居らば皆肺病になるべしとの話を聞き、兩親は非常に憂慮し僅か二ヶ月間程にて呼戻されたり。次で父より名古屋市にて奉公すべしとの話ありしも種々話合の結果自己の希望を容れられ居村に於て小學校の代用教員を勤むる事となり、同年十月には愛知縣第一師範學校に入學したるが同校卒業に先ち貧民窟又は貧民小學校を參觀し貧民生活

學生治安維持法違反事件身上調査

の悲惨なる事及其子弟の生活の悲惨なる事を見て愛の力に依り貧民の子弟を救ひ且貧困より生ずる不道德、犯罪、不衛生等を根絶せんとの考を起したり。又其頃、教生として附屬小學校に行きて生徒に接し貧民窟の兒童と比較して甚しき懸隔あることを認めたり。

斯くて師範學校を卒業したるが他の者は相當立派なる洋服を新調せるも兒童に親しく接觸するには寧ろ粗末なる洋服が好都合なりと思ひ小倉服を新調して隣村の小學校に奉職し尋常三年女子部を受持ちたり。當時は愛の力、教育の力によりて社會の改善を圖らんと大なる抱負を持ちたり。其の受持の學級に貧民の子弟約十人あり、其等は汚れたる着物を纏ひ屢々缺席或は遅刻したり、又夫等は家庭に於て仕事を強ひらるゝ爲勿論豫習復習等を爲す能はざる故課外にて授業を爲さんと思ひたるも家庭に於ける時間が之を許さず且榮養不良にして課外授業に堪へざる狀況なりしを以て如何に努力するも夫等の兒童を普通の標準迄引上げる事不可能なりき。然れども宗教家の如き氣持となりて貧民の子弟を愛せんと努め又一方金持の子弟に對しては特に努めざるも自然不知不識の中に之を愛するに至りたり。學業の成績に於ても貧民の子弟にはマイナスのハンデーキャップあり。金持、學務委員、町會議員等の子弟にはプラスのハンデーキャップあり。教育の力、愛の力に失望し甚だ矛盾を感じたるにより更に教育に關する研究を爲し是が解決を爲さんとも考へたり。其翌年頃神經衰弱に罹りたる爲休職し大正八年頃京都帝國大學文學部選科(教育科)に入學せんと欲し受験準備の爲東京に赴きたり。而して或時は西洋人方の掃除夫として雇はれ或時は新聞配達夫として苦學したる事あり。神田區の某新聞店の配達夫たりし時其店内十數人の配達夫全部が苦學の目的にて働き居たるが學校に通ひ得たるは自己外二三にして他は給料の僅かなる爲自分等通學者を妬みつゝ通學もせず遂に

は墮落して仲間の時計を竊み或は金錢を私して逃走せるものもありたり。斯くして正則英語學校の受験科に入り約六ヶ月間勉強したるも足部に負傷せる爲止むなく歸國したり。當時先輩なる山田盛太郎(目下東大經濟學部助教授)が第八高等學校在學中なりしにより同人に思想の行詰れる事實を打明けたる處同人は社會科學の見地より問題を解決し呉れ同時に河上博士の「社會問題研究」數冊を貸與せられたり。同人の説明せるところは自己の經驗せる事實を實證せるものなりしを以て非常なる刺戟を與へられ教育の力以上に働きつゝある力を改善せんと希望を抱くに至り、同人より借受けたる「社會問題研究」に掲載されありし「道德の變遷」「腦力と富との關係」と題する論文を讀み社會關係を改善することが先決問題なりと感じ、山田の如く高等學校へ入學せんと欲し、大正九年四月ごろ京都市に赴き平安高等豫備校に入り同年九月松山高等學校に入學したり。高等學校時代は自然科學哲學を研究すると同時にマルクス學說の解説書を研究したりしが、尙其當時は果して宗教により社會を救済し得られざるやと考へたる爲二週間程寺に籠りて念佛を稱へたることもあり。然れ共靈の力に依りて根本的に社會を濟度することは不可能なりと感じ、其後京大に入學してマルキシズムを研究し社會を改善進展せしめんと思ひ社會科學を研究するに至りたり。

石川縣鹿島郡瀧尾村字井田五十八ノ三十三番地甲

京都帝國大學經濟學部

泉

隆

當二十五歲

【健康状態】 健

【家庭状況】 兩親及兄妹一人ありて財産は田畑二町歩位内半ばは自作し他は小作せしむ。

【思想過程】 家計裕福ならざる爲中學時代は三里以上の道を歩みて通學し、高等學校第一學年中は自炊生活を爲したる爲世上の贅澤なる生活を爲す者又は遊食する者の如きは國家の盜賊に等しきものなりとし極端なる愛國的思想を有し居たり。然るに中學卒業後某家の養子となりしが高等學校に入學するに及び養家にては就學を喜ばざりし爲遂に離縁となり、同校一學年の第二三學期頃は一身上の煩悶より人生に對する疑問を抱くに至り遂に哲學及宗教的方面に向ひたり。第二學年及三學年時代には新聞配達により學資を補ひたり、其の間配達夫として勞働者にも接觸し彼等の生活の不安なること憐れむべき状態なることに同情するに至りしが之は單なる同情に過ぎずして其の心を改善せば却つて幸福となり得べしとの見解を有し居たり。然るに社會學經濟學を研究し且勞働者と接觸し居たる事により社會に對し疑問を抱くに至り、無産者が心を改善するも決して經濟上救はるるものにあらず社會の經濟的基礎を改善するにあらずんば多くの無産者は到底救済し得るものに非ずとの結論を生じ其後研究の結果マルキシズムが正當なる事を信するに至れり。

鹿兒島縣鹿兒島市西田町五十四番地

京都帝國大學醫學部

池田 隆

當二十五歲

【健康状態】 肺炎加答兒

【家庭状況】 父母のみ父は元熊本の電話局長にして財産は別になし。

【思想過程】 高等學校二學年の時父が自分の爲め島津獎勵學資金財團より學資の補助を受くる事としたるが僅かに月額九圓なるに手續き頗る面倒なりしを以て教育に關する保護が無産者に平等なる機會を與へ居らざるを感じたり。尙親族に不遇者ありて其悲惨なる生活状態を直接目撃し現在の社會制度に貧富の差別存するは正當ならずと感じ社會を改造せざるべからずとの考を懷き、其後種々研究の結果マルキシズムの正當なることを信するに至れり。而して高等學校二年の三學期に於て校内社會思想研究會に入り、京大に移りては同大學々生社會科學研究會に屬し研究を続け今日に及べり。

京都市下京區岡崎北御所町二十五番地

京都帝國大學經濟學部

石田 英一郎

當二十四歲

【健康状態】 健

【家庭状況】 祖父は明治維新の勳功により男爵を授けられ先年父の死亡により襲爵仰付けられ従五位男爵なりし。家庭には母姉一人弟一人あり。

【思想過程】 高等學校在學中讀書によりて現代社會に矛盾あるを痛感し、殊に自身は生活上顧慮なくして高等の教育

學生治安維持法違反事件身上調査

を受けつゝあるも之が爲には一方、幼少より工場或は農業に酷使せられつゝある無産階級者の健康と生命とが犠牲に供されつゝあることを知りたり。其の後この點に想到する毎に自己の生活、勉學、享樂等の一切に於て堪へ難き矛盾を感じるに至り、結局奴隷の血と涙との上に建設せられたる現代文化に執著してはこの矛盾の消失する時は來らず宜しくこの矛盾に充滿せる現代社會を變革し人類によりて搾取せられざる新社會建設に努力することのみが自己唯一の進路なりとの結論に到達したり。大正十一年九月頃より一高社會思想研究会に入會し、マルキシズムを組織的に研究し始め爾來今日に至れるが其間の思想發展の特徴としては無産階級の解放運動に従事する爲には無産階級自身の意識を以て之に當らざるべからず、小ブルジョア的な人道主義的平和主義的思想は斷然之を捨つべきものなることを悟り其方面に發展し來りたるなり。

滋賀縣大津市上北國町二十七番屋敷

大阪外國語學校佛語部三年

原 田 耕

當二十二歳

【健康保態】 健

【家庭狀況】 兩親及祖母弟二人妹一人あり薪炭商を營み家屋敷と約二三萬の資産あり。

【思想過程】 中學卒業當時より懷疑心ありたり。當時は倫理的基準を何れに求むべきかとの哲學的意味のものなりしが更に發展して漸次政治問題に興味を抱き好んで維新當時に於ける討幕運動の歴史を讀みたり。大正十二年四月

大阪市に赴きたるが一方同市に於ける貧富の懸隔の甚しき事、即富豪の邸宅と貧民窟とを眼前に見、他方勞働運動の甚しき事、即「メーデー」演說會等の運動を目撃し同時に平素有せし哲學上の懷疑も殆んど行詰りたるの感を起したる結果、雜誌改造及びプロレタリア文獻を讀みたるより政治的興味より更にすすんで社會問題に興味を感じるに至り、社會科學の研究を始めた。而して大正十二年九月頃より社會主義の書物を讀み研究の結果現在資本主義社會の解剖批判はマルキシズムに依り初めて全面的に考察され他の理論は一面的にしてブルジョア的なりとの見解に到達しマルキシズムを措き他に眞の社會科學は存在せずと信するに至れり。

兵庫縣城崎郡豐岡町滋茂五番地

京都帝國大學法學部

橋 本 省 三

當二十五歳

【健康狀態】 健

【家庭狀況】 母あるも父は死亡し兄二人姉三人妹二人ありしが二兄一姉死亡同人は其の本家を相続し單身戸主なり、財産として不動産若干あり。

【思想過程】 實家は地方に於ける資産家と目せられ中學時代裕福に育てられ人生に對し何等の疑問も有せざりき。第五高等學校に入學するに及び家を離るるや四圍の狀況より憂鬱となり其の結果思索に耽るに至り、「トルストイ」「ドストイエフスキー」等の小説を看讀人生に對する煩悶を抱き宗教により安心立命を得んとし或は教會に通ひ聖書を

學生治安維持法違反事件身上調査

研究し時には眞宗の教書を繙きしが其結果は却て宗教的理想と自己の現實生活との矛盾を發見し懊惱の末一時休學して京都市なる西田天香市經營一燈園に入り其の生活は自己に此迄救はるるものなりと云ふ絶望的の安心を與へ其後暫く之に満足しるたるなり。高等學校に復歸後周圍は依然前と同一の状態にあり社會全體を救済するに非ざれば自己も亦永久に救はれざるべしとの感想を抱き從て自己の爲すべきことは自己の頭の改造にあらずして現實の社會の改造にありと思ひ大正十一年九月頃より社會問題の研究に志すに至り社會問題を研究するには經濟問題より入るべしとなし河上肇氏著書社會問題研究經濟思想唯物史觀唯物史觀研究等を涉獵し引續きマルクス及ロシア現代のマルキシストの著書等を耽讀しマルキシズムの研究を始む。斯くして以前の絶望的の人生觀は誤謬にして社會は必然より良き社會に進みつゝあり現代の苦惱は其時に至り始めて解放せらるゝならんと前途に大なる光明を見出し益々マルキシズムの研究に従ひ同主義の眞理にして且社會は其示すが如く必然的に進展すべきものなりとの確信を抱くに至りしものなり。

和歌山縣那賀郡龍門村字杉原四二七

神戸高等商業學校本科三年

蓬 臺 恒 治

當二十五歲

【健康状態】 肺炎加答兒、神經衰弱症

【家庭状況】 兩親及兄一人あり資産とし蜜柑畑二三町歩あり。

【思想過程】 大正十一年四月神戸高等商業學校に入學したるが學校の授業が一面的なると家庭の事情及プロレタリアの實情等を見て社會科學研究の必要を感じたる結果其の翌年末頃より好んでクロボトキンの書物及サンジカリズム、ギルドンシリアズム並其の他の社會主義の書籍を看讀し、大正十三年に入りては更に河上博士の「貧乏物語」「社會問題管見」「唯物史觀」等を讀了したる所結局現在の社會組織に缺陷あることを發見し單に下宿屋に於て書籍を手にするが如きは無意味なるに依り寧ろ廢學して無産者運動に従事せんと思立ち、同年秋自ら大原社會問題研究所の高野博士を訪ひ意見を求めたるに廢學の要は無しとして同氏より山名義鶴氏へ紹介を受け同氏宅にて偶々京都大學の山崎雄次と知り社會科學研究會の存在することを知り友人を糾合の上自校にも其研究會を設けんと計りたるも許可せられず、依て關西學院の研究會に加入し爾來マルキシズムに就き研究を累ね來りたるが大正十四年春頃より其學說に權威あるを認め其正當なるを信するに至れり。

札幌市北三條四十五丁目一番地

京都帝國大學經濟學部三年

逸 見 重 雄

當二十七歲

【健康状態】 元來體質虛弱肺炎加答兒及腦神經衰弱症

【家庭状況】 兩親兄二人姉二人妹一人あり父は元醫師長兄は北海道大學農藝化學の教授次兄は京大植物病理學教授にして財産は貸家十戸程を有す。

學生治安維持法違反事件身上調査

【思想過程】 大正十年頃河上博士の雜誌社會問題研究に於ける又福田博士の雜誌「改造」に於ける資本主義社會が崩壊するや否やの點に關する論争文を見社會問題研究に興味を有するに至り其の後京都帝國大學に入り河上博士の講義を聞き「マルキシズム」の諸文献を読み又研究会に於て種々研究論議の結果マルキシズムを信するに至れるものにして、之を要するにマルキシズムを信するに至りたるは研究の結果に外ならざるなり。

廣島縣佐伯郡已斐町字國有一二四六番地

京都帝國大學經濟科卒業(十五年三月)

大 橋 積
當二十四歳

【健康状態】 腦神經衰弱症

【家庭状況】 兩親の外妹二人弟一人あり姉は他家に嫁す。父は元小地主なりしも大正六年倒産し其の後東京にて製罐事業經營中震災により家財全部焼失し現に某別荘の番人を勤め資産は無し。

【思想過程】 中學二學年の頃家貧にして具に辛酸を嘗めたる結果早くも其の頃より反抗的氣分を植付けられたり。高等學校二年の頃より「クロボトキン」の「相互扶助論」及「獨逸文」共產黨宣言」其の他を読み社會問題に就て興味を感ずるに至りたるが大正十二年四月京都帝國大學經濟學部入學後同年十月頃淡徳三郎其の他の斡旋にて伍民會へ入會し社會問題研究中其年末頃京大社會科學研究會が成立したるにより之に加盟するに至り種々研究の結果マルキシズムに依つてのみ客觀的眞理に近づき得るものなりと思ひ猶ほ研究の進むに従ひ之を信するに至りたるものなり。

名古屋中區流川町五十三番地

京都帝國大學經濟學部一年

大 田 遼 一 郎
當二十二歳

【健康状態】 脚氣症

【家庭状況】 兩親弟二人妹三人あり。父は支那天津に於て牛輸出業に従事す資本金一、二萬圓。

【思想過程】 中學時代より文藝に親しみ露國の翻譯小説「父と子」「ルージン」「處女地」等を耽讀したるが之に因る感激は無産者階級への同情に燃え第八高等學校時代二年の中頃迄寄寓せる伯母なる人の極めて保守的にして言動に對する干渉常ならず社會主義者なりとの罵言さへ蒙りたるより之に痛く反感を抱き其の嫌忌する社會主義を武器として犬糞的に復讐せんとの念を醸生し雜誌「解放」「社會問題研究」或は所謂プロレタリア文學等を涉獵し漸次社會主義に興味を覺え同二年の終頃校内に社會科學研究を目的とする中堅俱樂部の組織を見るや之に入會し爾來「共產黨宣言」「空想より科學へ」等の書籍により社會主義の理論的理解を得續いて京大に學ぶに及び社會科學研究會に入り益々研鑽を進むるに至りしものなり。

香川縣綾歌郡金山村大字江尻一八七番戸

同志社専門學校高等商業部三年

大 浦 梅 夫
當二十三歳

學生治安維持法違反事1身上調査

【健康状態】 神経衰弱症

【家庭状況】 両親兄一人姉一人妹一人あり、父は農財産は田畑三四町歩を有す。

【思想過程】 高松商業學校を卒へ神戸神港商業專修部に入り大正十二年同志社高等部に入學同志社に入學後經濟原論の講義を聴くに及びてマルキシズムの研究を始め次第に理論を深め行きし結果自己の主義思想が無産者階級運動及社會科學運動の主義と一致せる所より其の正當なることを確信するに至れり。
大正十三年秋政治研究會京都支部の一員となる。

愛媛縣松山市千丹町七十一番地

關西學院文學部社會學科三年

小 崎 正 潔

當二十四歲

【健康状態】 健

【家庭状況】 父姉一人妹二人弟一人父は日本メソヂスト教會の牧師にして財産なし。

【思想過程】 自分は豫てよりキリスト教倫理觀より世界の平和人類平等の境地即所謂天國を期待し居りたるなり。又一面に於て家は財産乏しく母は一年餘挫骨神經痛に悩みて遂に死亡し引續き妹は腹膜炎等にて二年程患ひたるが母に對しても又妹に對しても充分なる手當を施す事能はず心痛に堪へざりし爲若し社會にして今少しく改善せられたらば斯る場合に施すべき途もありしならんと感じたり。大正十三年五月頃日本國際聯盟協會田川大吉郎氏外一名の

關西學院に於て宣傳演説を爲したる際學院に於ても學生支部を設け度しとの希望あるを聞き前記基督倫理觀より世界平和を熱望せるより其の舉に賛成し學友と共に其の設立に奔走せり其の頃同級生に對しても日本國民として世界平和の爲に努めざるべからざる旨を話したる際酒井一雄と世界平和世界戰爭に就て論議せるより同人と知合ふに至りたり。酒井は當時關西學院社會科學研究會員たりしが同人より同年九月か十月頃研究會入會を勧誘され之に入會したり。マルクスの經濟學を研究するに及んで貧富の差を眞に廢絶するの途を明かにするものはマルキシズムを措きて他に無き事を知り之を信奉するに至れるものなり。

秋田縣南秋田郡下井河村北川尻宇海老澤八番地

東京帝國大學文學部哲學科

鷺 谷 武 二

當二十四歲

【健康状態】 肺炎加答兒、胃加答兒

【家庭状況】 養父母及妻と一子あり實家は両親及兄弟三人ありて養家の財産は田畑三四町あり、實家は地方に於ける相當の地主にして田畑二十町歩あり、學資は養家にて支出困難の爲實家より支給を受く。

【思想過程】 家庭の生活に對する不滿より幼時獨りにて考へ込むの性質なりし。高等學校時代は文學に興味を持ち人道的の傾向ある書物を読み又哲學の講義を聞くに及び之に興味を生じ屢々哲學を擔當する教授を訪問して其の話を聞きたる結果厭世的の氣分を生ずるに至りたるを以て一時は宗教に依りて安心を得んと志し基督教々會及寺院に通

學生治安維持法違反事件身の上調査

ひたる事もありたり其の後トルストイの著書及有島武郎の著書等によりて思索したるが結局自己一身が安心を得たればとて是は自己一個人に過ぎず社會多數の無智なる農村其の他の民衆の苦患を救ふに由なきものなりと考へ是を自己の環境に照すに自身は小作人の勞力によりて何不足なき生活を爲し高等教育を受け居れるも翻つて多くの農民其の他民衆を見るに或は生活に苦しむ者あり充分の教育を受け得ざるものあり。之等の民衆を解放し生活の安定を圖り思ふが儘の教育を受けしむる様せざるべからずとの考へを懐くに至れり。高等學校を卒り大學に入りて後も絶えず一般民衆を解放するに付種々考慮し居たるが恰も京大社會科學研究會の宣傳を見て同會に於て社會改造につき研究を爲し居る事を知り入會するに至りたるなり。

福岡縣京都郡泉村大字崎野二五六〇番

豫備役陸軍歩兵軍曹 京都無産教育協會役員

上 村 正 夫

當二十四歳

【健康状態】 健

【家庭状況】 兩親(父は繼父)弟三人姉一人あり。父は小地主にして田地約十町歩を有し生活は裕。

【思想過程】 福岡縣立豊津中學校を卒業の上大正十年四月第三高等學校理科に入學せしも家事の都合により一年休學し其の後引續き通學し居りしが十二年三月退學を命ぜらる。大正九年頃社會問題の研究に志せしが翌十年夏頃英文クロボトキンの「青年に訴ふ」を讀み茲に其の徹底的に研究すべきものなることを感じ同年九月頃よりマルクス主義

の著書を涉獵し十月頃より翌十一年三月學年終迄休學歸郷す。此間は勿論其の四月再び京都に復歸後も登校せずして同主義の著書を耽讀したり。斯くして同年夏頃二三人のグループを作り社會思想研究を始め暫くして之を擴大し同校内に社會問題研究會を組織するに及び問題となり注意を受けること屢々なりしが依然繼續し居りし爲十二年三月迄に退學を命ぜらるゝに至れり。其の頃より思想に變化を來しマルクス主義的理論を信するに至りしなり。其の後同年五六月頃京都市弘文堂印刷工場に印刷職工として被雇日本勞働總同盟京都聯合會に入會し實地に付益々研究せり當時京大内に外數名の者と伍民會を作る。同年十二月初小倉歩兵第四十七聯隊に入營、十四年三月末除隊となりしが此間軍隊内に於けるマルクス主義の著書により研鑽を續くるを得たり。

除隊後同年の五月中旬頃京都地方評議會に入り事實上書記の事務を執り居りしが京都無産者教育協會の成立により同會の委員長となれり。

大阪市西區北堀江上通四丁目十八番屋敷第二號

京都大學院特選給費生

淡 德 三 郎

當二十六歳

【健康状態】 元來體質虛弱、肺炎加多兒症

【家庭状況】 姉一人兄二人弟一人あり、財産としては別に無し。

學生治安維持法違反事件身上調査

【思想過程】尋常小學六年頃より所謂金持の態度に反抗心を抱きたりしが夫れは自己も金持となりて彼等に對抗せんとの考へにしてこの気分は中學四年頃迄續きたり。次で第二高等學校に入學後、大學に於て開催せられたる種々の演說會に出席し居たり。時恰も米騒動の翌年にして社會一般に社會問題社會運動に關する世論喧噪の際ではあり初めて社會問題社會運動等に關する事を知り注意を喚起されたと共に「社會問題十二講」その他通俗的の社會問題に關する書籍を閱讀するに及、從來自己の生活狀態に關し自己嫌忌を起すと併せて金持に對する反抗はその形を變じて社會改造に對する熱意となりて現はれ其の研究に努めしが三學年の頃より理想主義哲學の影響を受け社會問題より自我或は人生てふ抽象的問題に没頭せり。然れどもその後大學に入りてより友人の虛無思想の洗禮を受け理想主義的思索方面より脱却せり。其の當時讀みたるデュルケイムの「社會分業論」はこの道程を助くるに與て效ありたり。經過を辿りて眼を再び抽象的思索より人間及社會に關する現實的研究に向けたり。次で大正十二年十月外數名の學生と共に一般思想問題の研究を目的として伍民會を設け後之を改稱して社會科學研究會とし研究を續けたり。當初伍民會創立當時に在りては社會を改造せざるべからずとの漠然たる思想を有し居たるに過ぎざりしも後、研究會夫れ自身の發展に伴ひ自己の思想も亦現今の如くに至りたるものなり。

兵庫縣出石郡資母村字畑山五十八番屋敷

京都帝國大學經濟學部

永井 哲 二

當二十四歲

【健康狀態】神經衰弱症

【家庭狀況】兩親及六人の兄弟及姉二人(他家に嫁す)あり、農家にして年貢米の取入四五十石に及ぶ。

【思想過程】高等學校卒業迄は社會問題に興味を有せざりしも京大經濟科に入學後不圖社會問題研究の念を生じ第二回生の一學期頃自發的に社會科學研究會に入學したり。

佐賀縣佐賀郡本庄村字袋三七番地

京都帝國大學工學部電氣科

武藤 丸 楠

當二十一歲

【健康狀態】肺尖浸潤、脊髓カリエス脚氣症

【家庭狀況】兩親及妹一人あり。父は元土木技師を勤め現在資産無し。

【思想過程】仙臺第二中學校に在學中同校の教育方針が餘りに詰込主義なりし爲これに反感を抱き學校の授業を嫌らぬものとなし自己の好める書籍に依るを利益なりと思惟し早く高等學校に入學せば愉快に勉強も出來得立派なる知識をも與へらるゝなるべしと考へ居りしが高等學校に入學したる結果は豫想に反し授業は一般に興味をそゝらず、又學生は不面目にして多く飲酒を爲し何等の理想もなき生活を爲せるを以て不満を抱き自然交遊を避け從來特に興味を有せし地質學生物學の外は熱心に講義も聽かずして文學的方面の文獻を耽讀すると同時にブロイド派の心理學を研究し自然科學に立脚せる汎神論的宇宙觀を抱き宇宙には生命力あり單に生物のみに限らず總ての分子にも生命

力は含まれ居り此生命力が絶えず發展し居るものにして下等動物より人類に達し現在の社會を組織し居るものなれば個人といへるが如き問題は重大なるものに非ずして人類全體社會全體或は宇宙全體の生命力こそ重大なる問題といふを得べく個人の努力も全宇宙の爲なりとの觀念を抱くに至れり。然れども單に其の觀念のみにては種々なる社會現象を説明し得ず、少なからず疑問を有し居たるが第三學年の時マルクスの「賃労働と資本」及エンゲルスの「空想より科學へ」其の他唯物史觀に關する書物により初めて自然科學と立脚を同する社會科學なるものゝ存するを知り非常に興味を覺えて社會科學の研究に没頭し種々研究の結果マルキシズムが最も正當なりと信するに至りたるなり。

本籍 鹿兒島市平之町百九番地

東大文學部社會學科三年

村 尾

薩 男

當二十五歲

【健康状態】 健

【家庭狀況】 兩親、祖母第一人、父は某會社常務取締役にして生計は中流。

【思想過程】 中學校二三年頃よりトルストイ及び有島武郎氏等の小説を読み人道主義的傾向を有し居たり。中學校四五年の頃即ち大正七年頃には同盟罷業頻出し労働運動の最も盛んに行はれたる時期なりしを以つて労働者及び一般無産者に對し同情を持ち其の方面の研究を爲さんと志すに至れり。而して高等學校に入學後同様の考を抱ける者と

共に研究會を組織し社會思想を研究しマルキシズムの諸文獻に親み次第にマルキシズムを把握するに至り、其の後研究を深むるに従ひマルキシズム、レーニニズムを正當なりと信するに至りたるものなり。

山口縣都濃郡徳山町千九百七十番屋敷

同志社大學法學部經濟科一年

内 海

洋 一

當二十五歲

【健康状態】 健

【家庭狀況】 祖母兩親、姉三人妹二人あり。父は元福岡縣堀鑛業株式會社に勤務したり。

【思想過程】 福岡縣東筑中學を卒へ同志社大學に入りし頃より社會に於て悲惨なる生活を營む隷屬的地位にある労働者救済の忽諸に付すべからざるを感じ居りしところ經濟學に興味を有せしより山崎覺次郎氏「經濟原論」河田嗣郎氏「經濟學要義」小川郷太郎氏「經濟學講話」河上肇氏「社會問題研究」社會問題管見」近世經濟思想史論」資本主義經濟學の史的發展」唯物史觀研究」猪俣氏「金融資本論」カウツキーの「資本論」ボルハルトの「マルクス經濟學大綱譯」パプロギッチの「帝國主義の經濟的基礎」エンゲルスの「空想より科學へ」マルクスの「ゴータ綱領批評」資本論」經濟學の批判」マルクス、エンゲルスの「共產黨宣言」等を涉獵の結果マルキシズムの正當なることを信じ其の研究に勉め無産者階級運動に貢獻せんと欲するに至れり。

北海道夕張郡長沼村西七線北三號二三〇二番地

慶應義塾大學經濟學部卒業

野 呂 榮 太郎

當二十七歲

【健康狀態】 肺結核症

【家庭狀況】 兩親弟二人姉妹五人あり、父は農場經營、財産耕地二三十町歩を有す。

【思想過程】 社會運動に従事するに至りたるは畢竟其の性格に基くものにして幼少時代より北海道の如き拓殖地特有の生活環境の爲に搾取關係殊に資本の原始蓄積狀態を親しく目撃したると、世界大戰後に於ける急激なる世界的變動の過程に起りし中産階級の没落の影響を自家にありても受けしと、慶應義塾大學豫科時代より古典派經濟學の諸文獻を読みしが何れも自己の眞理探究心を満足せしめざりしが偶々マルキシズムの文獻を読み始めマルキシズムが現實社會の諸現象を最も如實に説明し居ることを發見したるにより興味を感じ研究を深め其の確實性を信するに至れるものなり。

仙臺市北三番町三十四番地

京都帝國大學經濟學部

栗 原 佑

當二十三歲

【健康狀態】 肺腺加答兒

【家庭狀況】 兩親、弟一人妹四人あり、父は第三高等學校教授にして財産は家屋敷のみにして左したる資産なし。

【思想過程】 家庭が基督教信者なる爲幼少の頃より之が感化を受けて宗教に興味を持ち宗教史の研究より延びては藝術一般並哲學の研究に少からず興味をそゝられたるも、之等は結局人類の存在を前提とするものにして而かも人類は社會と分離しては考察するに由なし、故に如上の研究は要するに人間社會の研究を俟つて初めて理解し得べきものなりと思料し、茲に社會科學の研究を志すに至れり。而してこの研究を始めたるは高等學校二年の終頃にして同校に於ける社會思想研究会に加入し、次で京大に移りて後も同大學社會科學研究会に屬し今に至るまで繼續し居れり。

大阪市北區會根崎上三丁目二十一番地

大阪外國語學校獨逸學部三年

黒 川 健 三

當二十三歲

【健康狀態】 胃痛盲腸炎

【家庭狀況】 母と兄二人酒店を營み尙貸家四十戸を有し夫より生ずる月收約六七百圓。

【思想過程】 大正八年頃思想界に於て改造解放唱道せらるるや其の影響を受け自由主義的思想を抱くに至れり。而して一方大阪市に於て當時同盟罷業の頻發したる折柄にて労働者と警察官の衝突を屢々目撃し、又他方に於ては河上博士の「社會問題研究」及賀川豊彦の貧民問題に關する書籍等を閱讀したるによりて刺戟を受け大阪の今宮神戸の新

學生治安維持法違反事件身上調査

川等の貧民窟を視察し漠然ながら資本主義社會の矛盾を認めたり。而して之れが解決を宗教に求めんとし、キリスト教會に通ひし事あり。又淨土宗の宗教團體に加入したる事もありしが宗教的の見解は全く誤りにして科學的研究に依らざれば社會的現象を理解する事能はざるものと思ひたるを以て社會科學の研究を思ひ立つに至れり。其の結果マルキシズムを正當なるものと信ずるに至りたるものにして資本主義社會が共產社會に推移すべきものなる事を認め其の促進を爲めに所謂學生社會科學運動に關係し居りたるものなり。

本籍 兵庫縣カヂ保郡龍野町龍野七百五番屋敷

京都帝國大學經濟學部二年

黒田 久太

當二十二歳

【健康状態】 健

【家庭状況】 兩親及第二人妹四人、父は金物商を營み資産二三萬圓位あり。

【思想過程】 別に動機と云ふものなく社會科學研究會員となり種々研究の結果マルキシズムの正當なるを信ずるに至れり。

鳥取縣氣高郡鹿野町大字鹿野一三二五

京都帝國大學經濟學部二年

熊谷 孝雄

當二十六歳

【健康状態】 健

【家庭状況】 父及兄夫婦弟二人、父は砂糖商を營み約壹萬五千圓位の資産あるも負債約八千圓位ありと云ふ。

【思想過程】 父の信仰により小學校時代僧となりて宗教により衆生を救はんとする志を抱き法華宗に屬する綜合學林に入り次で教師の勧めにより豊山中學京北中學に順次轉學し大正拾年第一高等學校に入學したる後も當初の思想を保持したるが寄宿舎に入りて見聞を廣め又佛教に關する書籍を研究したる結果法華宗に束縛されることを苦痛とし舊師に脱宗の意見を申送りたることあり。第三學年に進みてより宗教は精神的にして少も現實的に非ずとし之に不満を抱くに至れり。當時同校には社會科學研究會あり。同會員なる相良萬吉よりマルクス唯物史觀の説明を受け河上博士著「唯物史觀研究」を読みマルクス主義の精神的に非ずして現實的なるに感じ研究會には入會せざりしも公開講演會に出席し又河上博士の「唯物史觀研究」「近世經濟史論」マルクス、エンゲルスの「共產黨宣言」等を読みマルクス主義に興味を感じるに至れり。次で高等學校を卒業するに及んで宗教家たらんとせば印度哲學科に入學せざるべからず、又自己の興味を抱ける社會問題を研究せんとせば經濟學科に入學せざるべからず、其の何れを選択すべきやの岐路に面して煩悶を重ね父に自己の希望を述べたるに其の反對を買ひたるも強ひて帝國大學經濟學部に入學したるものなり。大學入學當初は社會科學研究會に入會せざりしも其の演說會には時々出席し又其の會員たる石田英一郎逸見重雄等と交際し方々マルクスの「資本論」ブハリンの「共產主義のABC」河上博士著「社會組織と社會革命」「資本主義經濟の史的發展」等を読み益々マルキシズムに興味を覺えたり。一方財界不況の爲實家の家計不境に陥り父は之を憂ひたる結果強度の神經衰弱症に罹り學資を中絶せらるゝに至れり。斯る苦痛を體驗しマルキシズム

の所謂中産階級の没落なる事實を痛感したる爲第二學年に進むに及んで社會科學研究會に入會したり。

一三六

本籍 栃木縣上都賀郡北犬飼村字茂呂八十五番地

京大法學部二年

山崎 雄次

當二十五歲

【健康状態】 神經衰弱症

【家庭狀況】 父及兄弟四人妹七人あり、農家にして山林田畑を有し五六十人の小作人を使用し生計豊なり。

【思想過程】 實家は地方に於ける可成大なる地主にして其の部落に於ては地主たる自分方と其の外に數十戸の小作人とあるのみにして自家の生活状態と其の他の者の生活状態とは大なる懸隔を生じ居たる處より學齡に達したる頃より何故に斯る貧富の懸隔を生ずるやに付疑問を抱きたり。而して祖母より因果應報の佛敎的話を聞かされたるが其の疑問は遂に解き得ざりき。又自分方より七八里隔りて足尾銅山あり明治四十四年頃より坑夫の暴動勃發し騒擾事件の起りし事ありしが何故斯る事件の生ずるやに不審を抱きたり。其の後又足尾銅山の鑛毒事件あり、義人田中正造氏が百姓等の困難を救はんが爲め種々奮闘したる事あり。

自分の思想は是等の事件に刺戟せられ中學時代には將來政治家となりて社會より貧富の懸隔に依り生ずる種々の弊害を一掃せんとの考を有するたり。中學を卒業し其の後國士の道場として憧れるたる一高に入學したるが當時の一高には個人主義的、懷疑的なる思想横溢し居りたるにより希望を裏切られたるの感を抱きたり。然れども遂に自身

も亦其の思潮に捉へられて懷疑的なる「ニヒリスティック」の思想を抱くに至りたるものなり。

然るに其の後一高を卒業せんとする時に當り阿部次郎氏の「人格主義」「地獄の征服」又はリップスの「倫理學の根本問題」等を読み「ニヒリスティック」なる思想を捨て新たなる生々敷理想を持つて社會に立たんと気分を生ずるに至りたり。偶々其の後河上博士の「貧乏物語」「社會問題管見」等を読み初めて幼少の時より抱き居たる疑問の解決せられたる感を生じ深く同博士の學風に私淑し京都帝國大學法學部に入學し諸教授の講義を聞きたるが豫て求めんと欲する所の社會は如何なるものなるか夫は如何にして發展し如何に改造すべきものなるかと云ふ問題に付ては餘りに縁遠きものなるに慊焉たるものありき。而して以前より私淑するたる河上博士の講義を聞くに及んで其の講義に益々敬服し夫れより河上博士の「唯物史觀論」「社會問題研究」其他社會主義的諸文獻を繙讀したる結果社會科學としてはマルキシズムを措きて他になきものと思ひ益々マルキシズムの研究を深めたる結果マルキシズムを信するに至りたるものなり。

廣島縣安佐郡三條町大字楠木九八四番地

東京帝國大學文學部社會學科二年

松本 篤一

當二十四歲

【健康状態】 健

【家庭狀況】 母及兄三人地所約一町歩所有し之を宅地として貸付け不自由なき生活を營む、兄は自作農を營む。

學生治安維持法違反事件身上調査

一三七

【思想過程】 中學校二學年の際米騒動勃發し貧困者の多數なることに氣付き自然社會問題の書籍を繙讀するに至り高等學校一年の時ロシヤ飢饉救済運動ありてロシヤ革命に關し漠然たる觀念を得、同二年の頃クロボトキンの「青年に訴ふ」と題する宣傳文を読み非常に感激せり。而して雜誌「前衛」「社會思想」岩野泡鳴の哲學を讀みて漸次社會問題の研究に興味を有するに至り、東大文學部社會學科に入學後新人會の講演會に際し赤松克麿の智識階級云々と題する演説を聞き感動し新人會に入會したり其の當時は人道主義的立場よりマルキシズムを研究したりしが新人會先輩の思想の影響並自身研究の結果將來の世界はマルクスの言の如く共產主義社會に變革するものなることを信ずるに至れり。

山口縣都濃郡富岡村大字下上一三一〇番地

京都帝國大學經濟學部卒業(大正十四年三月)

藤井 米 三

當二十五歲

【健康狀態】 健

【家庭狀況】 母と兄二人あり、農家にして自作の傍小作せしめ年收百四五十俵あり。

【思想過程】 新聞及雜誌により社會問題に興味を有せしが爲社會科學研究會に入り研究を進むるに至れり。惟ふに世に高等教育を受くる者は多く資本家階級の子弟に屬し之が資本主義の帝國主義時代に於ては學校卒業後直ちに官界又は實業界に就職の途ありたるも今日の如く資本主義の没落期に入りては卒業後著しく就職難を來し稀に就職する

ことあるも資本家の都合上何時失業の憂を見るや計り難く現に實際失職者も増加する傾向あるに鑑み自然學生に於ても社會狀態を注目するに至れるものにして學生が社會問題に參與するも亦必然的に生ずる所以なりと思惟す。

鹿兒島縣鹿兒郡谷山町松崎一四六番戶

東京帝國大學文學部社會學科三年

是 枝 恭 二

當二十三歲

【健康狀態】 健

【家庭狀況】 兩親姉一人兄一人にして父は鐵道管理局建設事務所官吏、兄は銀行員なり。

【思想過程】 何故マルクス主義を信ずるに至りたるかの思想上に於ける發展過程は

第一 學生時代

(い) 中學時代……鹿兒島縣立第一中學校より宮崎中學二學年に轉校當時は眞摯なる學生にして唯教師及學友より轉校生として多少の虐待を受けたる爲之が反抗心を意識するに過ぎざりしも三學年に進級するに及び高等學校入學の受験準備に多大の努力を要すべきことを痛感せり。即ち宮崎中學校は智識的に最も遅れ居たること、同校が前年焼失したる爲爾後バラック式の教室に於て不十分なる授業を甘受せざるべからざる不便あるに鑑み益々勉強心を意識付けらるゝに至れり。従つて三學年より熱心に勉學すると共に折々は思想上の問題にも觸るゝ事ありしがそは一面生理的發展の段階とも觀察し得べく概言すれば中學時代は國家主義者模範學生たりといふことより一

歩も出づることなかりし。現に當時の演説會草稿の如きも「植民論」「愛國論」と云ふが如く幼稚にし一般中學生の多くが常に懐く處の思想に過ぎざりし。假りに社會問題的方面を求むれば四學年の時ルツソの民約論の邦譯を讀みたるも夫れも日本の言志録の思想と一致し居るに過ぎず杯と國粹的に考へるのみに過ぎざりし。

(ろ) 高等學校時代……七月高等學校入學試験に合格し其の年九月に入學するまでの間ビクトルユーゴの「レミゼラブル」の邦譯を讀みジャンバルジャンの「犯罪と社會惡」に付き印象を與へられ高等學校入學最初の演説に於てもジャンバルジャンへの同情を表示せることありき。

而して一學年中は主としてニイチエの哲學を研究し尙入學と同時に購讀せるは「黎明」にして其の英譯本「ツアラツストラ」とシヨベンハウエルの「意思と現識としての世界」第一卷を閲讀したることあり。其の當時は感情的にして強烈なる個人主義者なりき。

二年生時代の思想は混沌たるものにして此頃ベルクソンの「創造的進化」を讀み其の合間々々にトルストイの小説二、三と當時の哲學青年の愛好物なりし岩波叢書西田博士の「思索と體驗」「善の研究」「西洋哲學史」を讀みたるに此頃は極めて神祕的なる觀念論者にして哲學的には全然ベルグソニアンなりき、同年の暑中休暇中にトルストイの「光ある中光の中を歩め」を讀み所謂新ラシイ村を訪問して武者小路氏の思想に不満を抱きたる位なりしが此頃より社會問題と哲學の研究との交叉が開始せられ從て落付く所は必然に文化哲學なりき。カントの研究、リツケルトの研究、コウエンの研究に熱中の結果個人主義が哲學的に美化されて深く胸底に浸潤するに至れり。二學年の中間迄は略右の如き思想時代なりしが丁度其の頃七高を訪問せる土田杏村の文化主義の講演を聞きギルドソシアリ

ズムに興味を抱きコウルの「ギルドソシアリズム」ベンチーの「ギルド、トレドアンドアグリカルチュア」山川均氏の「社會主義研究」を讀み出したるが右の中ベンチーの書物は三學期の春休みに讀み他の書物は夫れ迄に讀みたるりしが其の結果ギルドの倫理思想に共鳴せるも未だ社會主義に就ては理解する程度に至らざりし。然れ共既に此時よりは研究慾を萌せるは事實にして當時三年生の人達と哲學研究の集團を作り其處では右の如き事情より社會主義に關することは時々問題になりしのみにして多くは唯物論唯心論の討論に終始せり。而してザインよりゾルレンは生ぜずといふ立場より唯物論を支持する熱心者でありリツケルト仕込にして彼の歴史哲學に共鳴しつゝありき。

マルクスの名を知りたるは二學年の二學期以後に屬し三學年の暑中休暇迄は個人主義哲學の凝固りにして唯物史觀をも通覽せるが之は史觀として一文の價值なきことを哲學的に新カント派哲學より學べる自分は唯物史觀を否定したり。併し其の頃の研究は益々交叉する道程に在りしが之は今日より見れば主として獨逸西南學派とマールブルヒ派との系統を引ける當時の日本の哲學が世界的哲學の潮流として社會現象への説明に轉向しつゝありし影響に外ならず。

當時日本に於ては或は教育學の研究となり社會學の研究となり兎も角社會問題に對して哲學的根柢と文化的價值とを附與することに轉向しつゝありし時なり。而して此傾向を媒介せるは新人土田杏村なりし。

三學年の一學期は混沌としたる中に神祕思想に懐かし味を抱きウバニシャッド等の印度哲學を繙きこれ迄の思想發展過程を整理すべくベルグソン哲學を書き或は話して同級生と論争せることもありしがそは思想的內容其のもの

のに就てには在らざりし。當時最も深刻に反省せしめられたる一事は第五高等學校との對校野球戦なり。或個人的なる情實より其の應援團長に推舉せられたるが自分は之を最も悲惨なるものとなし此時程自分を世界中にて最も悲惨な男といふ意識を持ちたることはなかりし。而して最も横着なる團長にして殆んど其の準備一切を班長に委せ置きて印度哲學を研究するたるに其の野球戦は幸ひ母校の勝利に歸したるが感傷的なる自分は泣き出すと共に種々矛盾に責められたり。即ち團長としての社會的名譽を蔑視し乍ら受諾し團長としての專制的なる行爲、他の個人の價値を全く無視したる行爲、全體の社會的なる共同等種々の現象に展出する個人主義否定の要素が自分を責めたるなり。其の耻かしさに暑中休暇は蟄居して唯考へ込みるなり。其の結果從來社會と個人とを截然と分離することによつて立ちあつたる是迄の思想の矛盾を明瞭に意識され此反省は又豫て信頼せる西田幾太郎氏の「社會と個人」の論文に盛られざる思想に疑惑を起すに至れり。而して三學年の二學期には此矛盾を脱したしとの強き衝動に駆られて二三の學友と社會問題を研究するに至れるが其の時に於てすらもマルクスの唯物史觀は徹底的に誤りをれること認識的意味に於てカントの哲學が最も正しとの信念を有するなり。併しマルクスを批判する爲にはマルクスの經濟理論を研究すべきものとなし學校の圖書館に於て其の「資本論」を繙きたる處カントの純粹理性批判以上に難解なるに驚きカウツキーの解説書によりて讀了するを得たり。其の結果是までの思想の崩壊を始むるに至れり。

其の當時日本に於けるマルクス主義文獻は極めて貧弱なるものなりしが之を殆んど讀破したるも尙哲學的には依然として唯物史觀の合理性を認むる能はず寧ろカントとマルクスとを折衷すべきものと信じたる經濟論のみはマルクスを否定することを得ざりし。即ち資本主義の崩壊中間階級の没落等何れも之を否定し得べくもあらざりし。之に加へて勞農ロシアの研究及びコンミニュニズムの外國書籍入り來るに及んでコンミニュニストの意識を萌し出すに至りたり。今日より考ふれば自分がコンミニュニストらしき意識に到達せるは三學年の十月頃なりしなるべし。其の後努めてコンミニュニズムの諸文獻を讀むことに終始し今にも資本主義が崩壊するかの幻想を強く抱くに至りたり。自分のマルクス主義に於ける思想的端緒は如斯にして生じたるなり。併し哲學的にカントとマルクスとの折衷説を否定せるは大學に入學後の事に屬し高等學校時代の思想は未だ幼稚にして寧ろマルキシズムに非ずしてコンミニュニストの意識を持ちたる程度なりき。

(は) 大學時代……大學に入學後は坦々たる過程にして唯マルキシズムの研究を深めつゝ過去の誤謬を正しつゝありて現在もそれにして將來も尙それならんと思惟す。

大學に入學の時は共產黨事件及び大震災の年にして日本における労働運動が混亂の中に落ちたる年なり。労働運動は將に方向轉換期に在りたり。従つて翌十三年の半頃迄は凡ゆる方面に於て思想と勢力との再建設行はれんとする狀況に在りしが自分の高等學校時代の薄弱なる理論にては到底此混亂に處し之を解決し得べくもあらざりし。而して大正十三年頃より自分の再建設的研究を初め夫れは又一般社會運動の歩調とも照應し居れり。而して何時も斯かる時期に經驗さるゝ通りに如斯混亂期の處置として斯る再建設に當る人々は先づ全體の體系の究明に眼を向け過去の理論の薄弱なりし理由を究め斯る昏迷期に作り出さるゝ有象無象の一夜漬理論の洪水を泳ぎ切る爲には先づ方法的論理思索に耽るの傾向あるものなるが當時の學聯の空氣も亦かゝる萌芽を生じたり。その年の

秋約二ヶ月間伊豆に保養したるがマルキシズムの方法論に付確信らしきものを得たるは其の時に於てカント的マルクス思想は大正十二年の末には既に捨てたるなり。今にして思へば「アンチヂウリング」の讀書が相當の効果を與へたるものと思惟せられ其の後は社會が少しづつ理論を獲得しては古きを捨て、進み行くに照應しマルクス主義理論を獲得しては古を捨て進み來りしなり。

第二 家庭關係

家庭に於ては特にマルクス主義を信奉し又は夫れに興味を抱かしむる程の事件乃至變化は無くして寧ろ父母の平和なる愛育の中に生活したりしなり。然れ共今より思へば俸給生活者下層中間階級の悲惨なる生活殊に周圍の苦しき經濟難を見せつけられ之が自分に對して社會生活に關する漠然ながら研究慾をそゝりたるものなるべし。而して家庭に對する苦惱は自分がマルクス主義を信するに至りてより以後のことなり。元來亡祖父の代は醸造家にして相當手廣く經營するたにより父は祖父の時代迄の家運を挽回する爲奮闘せるも病弱の爲漸く悲惨なる俸給生活者の地位(現熊本鐵道建設事務所庶務課長)に迄辿りつき得たるに過ぎず。幼少の頃華かなりし生活を味ひたる自分は父に取りては幼少時代以後の悲惨なる没落中にも尙ほ家運を挽回の氣分動きたるなるべく其の爲父は他の兄弟以上に自分を愛し生活豊かならざる中より大學の課程にも通はしめ呉れたり。茲に自分の苦惱は常に父の意志通りに服従するか或は自己の信する眞理の爲に行くか二つの對極に限られるたり。高等學校生活に入りて以來其の華かなる生活に直面したる當初は寧ろ何の苦もなく其の環境に融合しをりしが次第に高等學校生活の享樂的な遊蕩兒的生活に嫌厭の情を催し且平和にして波瀾無き自己の家庭と對照して此間に階級的差異あることを漠然ながら感知し

て以來益々哲學的憂鬱へと誘はれ家庭の環境と自己の思索とが互に條件となり結果となり常に闘ひたり。哲學的思索の結果は哲學者たらんことを期し高等學校二學年の時父と此件に付衝突を來せることありて其の際も父の意志を完うし度き念願と名利の遂に何ものにも値せずと云ふ思索との二つの對極に悶え此對極は當時微溫的なりしも其の後マルクス主義を研究し之を信するに至りてより始めて確然と明白に分離して闘争しつゝあるなり。父母の苦しかりし過去、父の慈愛を懐ひ出づる毎に涙ぐまずにあること能はず。而して父母に歡樂を與へ度しと思ふと雖も併し夫れが果して幾何の効果を齎し得るや。假りに多少の安慰と物質的幸福とを與へ得たりとするもそれは短かき資本主義の末期の最も悲惨なる企圖以外の何物にもあらずして自己の良心を踏み殺して迄それを爲すことは自己として到底堪へ得ざる處なり。考へ見れば家庭生活が貧窮なることは完全なる奴隸か又は最も悲惨なる殉教者かと云ふ二様の結果を生み出すものにして、而かも夫等は全然相背馳する處の二方向なり。貧窮なる階級一般の生活と空氣に對して完全なる奴隸となるか、將又眞理の爲に一切の苦惱悲劇を甘受するか、自分は此の悩みを思索と良心を守る努力とに依り抜き切らんとせるものにして哲學研究よりマルクス主義研究へと没頭するに至りたるなり。

佐賀縣佐賀郡久保田村字久富六七三番地

京都帝國大學法學部

古 賀 二 男

當二十三歲

【健康狀態】 脚氣症

學生治安維持法違反事件身上調査

【家庭状況】 両親及第二人妹二人あり、父は魚商にして資産なく學資は他人より之を仰ぐ。

【思想過程】 以前は相當手廣く肥料商を營めるも大正九年中經濟界恐慌の影響を受けて倒産せる爲これが幾分原因を爲したるやも知れざるが、中學五年の頃より高等學校一年の時迄思想上非常なる煩悶を重ね自身が社會に生活する上に於て確固たる信念を捕捉すること出來ず、キリスト教々會へ通ひたる事もありたり。其の當時人生觀を哲學に見出さんとせるも難解にして果さず其の頃偶々書店にて買求めたる河上博士の「近世經濟思想史論」を讀みて興味を感じ總てのものは個人の問題には非ずして社會の問題たることの信念を得、社會問題研究を志すに至り友人の勧めにより社會思想研究會に入り「共產黨宣言」「唯物論略解」「エンゲルス遺稿」等を読み京大に移りて其の社會科學研究會に入りマルキシズムの正當なることを信じ益々其研究を進めたるものなり。

大分縣直入郡豊岡村大字會會一九九八番地

東京帝國大學法學部政治科

後 藤 壽 夫

當二十四歳

【健康状態】 健

【家庭状況】 母あり資産なし、東京に於て自宅を新人會本部とし會員を寄宿せしめ其の賄費と自己の原稿料によりて生活せり。

【思想過程】 (本人の手記に依れば左の如し)

……社會主義を奉ずるに至つた動機經過……三月十七日

青年が思想的動搖……或は思想の芽生を感じ始める事は十八歳頃から二十歳前後のことと思ふ。私は之の時代を高等學校で暮した。當時……大正十年前後……の日本の空氣は大戦直後の世界各國に通用した無産階級運動の飛躍的勃興に活潑な動きを示して居た。雑誌「改造」「解放」「社會問題研究」「社會主義研究」「批評」等々が争つて世界の思潮の社會主義への動きとロシア革命の實狀成果等を報告して居た。そうした雑誌を讀んでゐるうちに社會主義に對する漠然たる理解と可成強い興味が湧いて來た。此の興味が單なる興味に終らしめず、社會主義への意識的追求にまでもつて行つた有力な動因の一つは私自身の生活環境であつたのであらう。小學時代から工場に働く母に養はれ中學時代を人の家に書生として送り人の金を借りて高等學校に來てゐた私は自分の知らない間に一個の不平兒になつてゐた。周囲のあらゆるものに相手構はずに食つてかゝると云ふ傾向があつた。こうした個人的な反抗氣分が眞の社會主義を理解させる筈はなかつた。果して私が最初に抱いた社會思想は今から考ふれば明かに個人主義的アナキズムに近いものだつた。ニーチェをもつて社會主義者であると考へたり、個人主義と社會主義は兩立するものなどと眞面目に考へたりしてゐた。そうした思想混亂と未熟な當時の私の生活を極めて不規律なものにして級の中でもデカダンなグループの間に伍して平然たるものがあつた。要するに其の當時……高等學校の一年及び二年の頃の自分は世にありふれた世紀末的な文學青年の一人にすぎなかつた。此の傾向を破りて社會主義への眞の道を開いてくれたのは「新人會」の諸兄である。「ナロード」と云ふ小型の雑誌を通じて新人會の存在を知り、又友岡、千葉、來間、新明等の諸氏を知つてゐたが三年生の九月に入つて友岡、黒田、志賀、伊藤、檜崎の諸君が地方巡回の途中熊

本に寄り之等の人々との會談に依り漸く社會主義の何物なるかを理解し始め舊い個人主義的な混亂と生活上の頹廢から脱することが出来るやうになつた。その後の生活は新人會員としてある。志賀、伊藤、杉野の諸君を中堅とした潑刺たる活動と中央の社會主義運動の緊張した空氣に志を固め社會主義者としての生活を始めやうと決心するにいたつた。

マルクス主義に到達した理由は甚だ簡單である。當時の新人會及び學生聯合會の思想傾向が既に種々の階段を経過してマルクス主義にまで到達してゐたし、又いやしくも社會主義を研究するものにして少し偏見を除いたならばマルクス主義の學說こそ最も妥當性を有するものである事を理解するであらうから。その後雜誌「マルクス主義」に寄稿するに至り編輯者たる西雅雄、佐野文夫氏等の眞摯さと造詣の深さとに敬意を拂ふに至つた。未だ淺學自らマルクス主義者と稱するのは甚だ大膽に過ぎる感があるが内心竊かに將來の研學を誓つてゐる次第である。

埼玉縣北足立郡田間宮村字宮前一六〇番地

早稻田第二高等學院經濟科

秋 笹 正 之 輔

當二十四歲

【健康状態】 神經衰弱症

【家庭狀況】 兩親(母は繼母なり)祖母の外六人兄弟。父は酒造業を營み不動産を合せ約二三十萬圓の資産を有す。

【思想過程】 小學校時代より痛く儒教道德の薰習を受け又中學校時代より文藝に興味を感じるに至り恰も日露戰爭前

後に於て盛んに鼓吹されし日本主義思想に共鳴し押川春浪の著書又は乃木式の書物を愛讀したり。然し乍ら其の後自然主義的の文藝の影響を受けるに及んで個性に醒め漸次思想に變化を來たし更に自己内省の進むに連れて人道主義的思想乃至は個性の完成といふが如き思想を抱くに至れり。そは中學四年の頃にして當時武者小路實篤、トルストイ、安部次郎氏等の書物を愛讀せり。又四五年の頃より「改造」等に表はれし諸種の社會思想に接觸して漸次社會に對する個人の關係に留意するに至り思想次第に社會主義に走る。

中學卒業の年一年の間罹病したる爲詩人的の情操培はれ一時詩人たらんと意動きしが當時隣縣群馬縣に共產黨事件等起りし爲再び社會主義的思想の影響を受け翌年早稻田高等學院に入學以來同思想に關する書籍の繙讀に没頭し其の結果マルキシズムの最も理論的に優れ居ることを認識し次第に之に傾けり。最初の一年間は専ら理論的研究に没頭したりしが翌大正十四年になりて文化思潮研究會に如盟し更に研究を進め六月には學聯に入會せり。茲に初めてレーニニズムの研究にも及び秋頃に至るやマルキシズムが次第々々に生活の信條となり來り益々研究を進め今日に至れり。

鳥取縣氣高郡美穗村字下味野六番屋敷

同志社大學經濟科

澤 田 政 雄

當二十四年

【健康状態】 肺結核症

學生治安維持法違反事件身上調査

【家庭状況】 祖母兩親弟三人あり、父は農にして田畑若干を有す。

【思想過程】 小地主の家に生れたる爲小學五六年頃より自己の家庭と周囲の小作人との家庭を比較し差異の甚しきを感ず小作人子弟の繁農期に至れば休學して農事の手傳を爲すに拘はらず自己は其の要なく一般より鄭重に待遇せらるゝ點より何故斯かる懸隔あるものにやとの疑念を起したり。又小作人の一家は營々辛苦しをれるに自分一家殊に自分は何の爲す所もなく然も優りたる生活を營みをるは何とはなしに氣の濟まぬ念に打たれるたるが次第に長ずるに及び此疑念の濟まぬといふ考慮は益々その度を昂むるものありたり。

大正八九年來各所にストライキ頻發し引續き小作爭議水平運動熾烈となり特に小作爭議は自家に直接影響ありしを以て之等は相俟つて疑念を愈々深からしめ不安の感を懐かしめたり。而して漠然ながらも社會を見るに貧富の懸隔餘りに歴然たり。又労働團體等の演說會に赴きては中止解散等當局の警戒振により曩の疑雲と不安は更に強めらるゝものありたり。依つて之を解決せんとの意を生じ之が爲には生來好める文學にのみ没頭すべきに非ずと感ず哲學基督等に觸れたるも以て解決を得る能はず其の後同志社大學に入り社會問題研究會員となり又續いて社會科研究會員となり社會科學を研究するに従ひ徐徐に曩の疑念不安を解決し得ることとなりたり。茲に益々研究を進め會の仕事を進むるに及び明確に社會問題に對する見解を得るに至れり。是迄の疑念と不安即ち階級對立あり階級闘争の行はるゝ所以は資本主義社會の必然に生じたるものにして資本主義社會の續く限り消滅せざるもの又資本主義社會は永久不變の存在には非ず歴史的の一段階としての組織にて一定の發展を遂ぐれば崩壊し新社會に進展するものにしてその崩壊し新社會を生むの條件は次に資本主義社會自身の内に發生しをるものなり其の條件の一は無産者階級

の存在であり此無産者階級の階級闘争によつてのみ資本主義社會を變革してより高度の社會に進め行くことの可能なりといふ見解を有するに至れり。

斯る見解を持し斯る見解の正當なることを深むれば深むるに従ひ自己一人にて思索するも何等の益なく當然階級戦の一兵卒として働かざるべからざるの確信を得社會科學聯合會の仕事をして又研究すると共に益々其確信を強めたるものなり。

本籍 神戸市フキ合小野柄通四丁目七番地

慶大經濟科一年

衣 谷 賀 眞

當二十六年

【健康状態】 健なるも中學を卒業後疾病の爲一ヶ年程休學せしことあり。

【家庭状況】 兩親(繼母)及弟一人父は書畫骨董商を營み市内には約六十戸の家作郷里には多少の土地を有するものにして生計裕なり。

【思想過程】 大正十年の春頃なりしならん、其の當時淺草に下宿し居りたる慶應義塾大學に於て改造社の招聘に係るバートランドラッセル氏の「文明の再建」と題する講演の催さるゝを聞くに及び病氣をも顧みず出席したり。而して現下の行詰れる物質文明の打開は各國隔執の源泉たる生産原料の共産を人間性の向上によつて遂行するにありといふ同氏の所説に共鳴する所あり、次でクロボトキンの書籍を耽讀したるが其の頃室伏高信氏の主筆たる雑誌「批評」の同人なる加田哲二、村松正俊の兩氏等と相知るに及び少なからざる感化を受けラテノウの「靈の王國」を興味を持

つて閱讀したり。當時トルストイ及バルザックを好んで讀みたるがクロボトキンの人道主義的思潮が自分の情想をソ、り一時情熱的に夫れを愛讀したるものなるが理想社會の到來する建設的過程に於ける具體的政策に關しては只「田園と商店と工場」の一書あるのみにして而かも非科學的にして現實社會の諸原理の中より將來社會の諸原理に展開する事なく單に理想案を掲げてこれを現實社會に示したるに止まるの點が自分等の甚だ贊する能はざる所なりし。尙其の當時に於ける思想界の主流をなしたるサンヂカリズムの思潮に基きても亦其の脚下に現實的基礎を喪失し居るものなり。其の前後より河上氏の「社會問題の研究」及「近世經濟史論」等を読みたるが河上氏と慶應義塾大學教授小泉、加田兩氏が雜誌改造誌上に於て價值論に付論戰し又河上、細田兩氏の資本蓄積論に關する論戰に對し慶應義塾大學教授三邊氏がツカンバラノスキの說に贊し細田と同見解の下に講演ありたり等の事實に動かされマルクスの著書を繙くに至り其の後研究を進め社會現象を眞に把握する所のものは正當派經濟學に對する總批判ともいふべき高法論的に卓越せるマルキシズムを措きて他に有り得べきものに非ずと信するに至りたるものなり。

佐賀縣東松浦郡濱崎町大字横田下一四六一

同志社大學經濟科本科一年

宮 崎 菊 次

當二十五歲

【健康狀態】 健

【家庭狀況】 父母第二人妹四人あり、父は大工兼農業にして資産としては田畑各一町歩及山林僅少ありて生活程度は

中以上。

【思想過程】 祖母及母は眞宗に深く歸依し自己も亦其の感化を受けて中學時代より宗教的生活に親しむに至り或時は寺より學校へ通ひ或は數人の名僧に就き教へを受けたることもありたるが同志社大學豫科に入るに及び主として宗教に依りては個人は救はれ得るも反面に於て社會には宗教の教を受入るゝ事の不可能なる境遇にある者が多數に存在し之等は如何なる理由により然る現象を呈するものなるかとの疑問を抱くと同時に斯かる境遇に在る者の境遇の改善を計らざるべからずと思料しこれが爲には社會問題を研究するの要あるを感じ社會問題研究会に入會するに至り。

豊橋新錢町六十番の三、五十三番の三合筆地

京都帝國大學經濟學部一年

白 谷 忠 三

當二十四歲

【健康狀態】 脚氣神經衰弱症

【家庭狀況】 兩親兄一人姉一人弟二人あり、父は小作農資産無く生計豊ならず。

【思想過程】 社會科學の研究に入りしは要するに逆境の然らしめたるものにして父は豊橋市に於て湯屋業を営み居りしが自分の小學卒業前經營困難に陥り濱松市在に赴き小作農に轉じたり。夫れが爲め中學時代より高等學校三年の中頃迄豊橋市運送業夏目七なる者より學資の補助を受け居りしが中學時代夏目方に寄食中目撃せる主従間の差別

學生治安維持法違反事件身上調査

待遇に軽度の反感を抱きたり高等學校に入りし後牧師の感化を受け宗教的思想を萌しトルストイ、ドストイエスキ
 ー、武者小路實篤、倉田百三、石丸梧平等の著作を耽讀宗教的人道主義に傾きしが二學年に進み經濟學の講義を聴
 き雑誌「改造」「解放」等を読むに及んで社會問題に興味を覚え其の後河上博士の「唯物史觀」クロボトキンの「青年に
 訴ふ」堺、山川の「マルクスエンゲルス傳」等を読み社會問題研究に興味を有し之に没頭するに至れり。

滋賀縣東淺井郡湯田村大字三田三九番屋敷

明治學院高等科文科

清水 平九郎

當二十三歳

【健康状態】 健

【家庭状況】 父と姉二人あり、父は護謄品の製造業を営み生活程度は普通にして財産不詳。

【思想過程】 (同人の手記するところ左の如し)

○マルクス主義を信するに到つた動機と経過

(い) 京二商當時、今は死去しましたが濱田と云ふクリスチャンソシアリズムの傾向を持つた先生が居て此の人を
 通じて常に貧民の窮状を聞きその救済の必要である事を漠然と感じて居ました。賀川豊彦(未だ彼の名が世間に
 知られてゐなかつた時分)を知つたのもまた彼の爲しつゝあつた貧民窟セツルメント運動に同情を持ち初めたの
 もこの時分でした。従つてこの時分の感情は極めて宗教的なものであつて救世軍式なものだつたのです。米騒

動も自分には大規模な救済運動の必要であることを意識づけたに止まつてゐます。この時分から自分は露西亞文
 學殊にツルゲネーフの小説に親しみ初めました。最も心を牽かれたのは「人民の中へ」フ・ナロードの運動の有様で
 した。貧民窟のセツルメント運動と「人民の中へ」の運動とは自分には同性質なものであり同意義のものであると
 思へたのでした。が此時分はまだ單なる感激に過ぎなくて自發的に行動に移る事も出來ず其の必要を獨り痛感し
 てゐる程度でありました。この期の特徴はまだ近代的プロレタリアートの存在を認識せず社會發展の動力たる階
 級闘争を視界の外に置いてゐた事です。對象となしたものは生産落伍者としてのルンペン、プロレタリアートの
 群に過ぎなかつたのでした。川崎、三菱の大罷業も當時にあつてはルンペン、プロレタリアートと賃銀プロレタ
 リアートを區別せしめる程の効果を齎らしませんでした。が此事件は後年の思想的發展の上に非常な影響を與へ
 ました、といふのは組合の勢力、組織的運動、罷業の戦術、罷業への壓迫等の事實を如實に印象づけたからでし
 た。

(ろ) 第二期ともいふべき時代は卒業後郵船にゐた時分のことでした。この期の初期はルンペン、プロレタリアー
 トの無氣力と非團結性が可成明瞭となつたこと、自分の生活環境に入り込んで來る人々が皆小ブルジョア的な思
 考様式に慣れた人々であつた事等の理由からして「幻滅」を覚えてゐました。従つて書物なども稍々其の當時の間
 題になり初めてゐた精神分析學の方面のものを耽讀したものでした。が之を可成やつて行くうち矢張以前と同じ
 所に歸着して終ひました。といふのはこの學説は人間の意思が境遇を支配してゐるのではなくて存在が人間の意思
 を決定するのだといふ唯物論の根本問題から出發してゐる心理學だつたからです。だから人間の意識、觀念體の

變革はその前提條件として社會環境の變革を要求するといふ結論が當然これから導き出されてくるのです。(勿論心理學者はこうした結論を與へないのですが) こうして又廻り道をして元の所へ歸りました。宛もこの時郵船では先づ海員の罷業があり次に陸上社員の怠業が起りました。前者の場合は極めて明確にプロレタリアートの團結と組織の威力を感じせしめました。長崎、上海にある船までが電報一つで停船したといふ事實等が強い感激を與へたことを記憶してゐます。後者の場合は左迄とは行きませんでした。自分が自分自身がその渦中にあつた關係上自ら戦術を考へ自ら行動するといふ發意を始めて發揮出來ました。これが次期の階段に到る過程の最大の收穫でした。この問題をきっかけに河上肇氏の「社會問題研究」や市場に古本となつてゐた雑誌「種播く人」「社會主義研究」等を讀み出しました。その中で自分にもつとも深い影響を與へ、もつとも岐路に立つてゐる状態を意識せしめたものは「種播く人」に載つたロマン、ロウランとアンリーバルビュスの論争でした。前者は新理想主義者であり、後者はコンミユニズムを信奉する人であつて共に當時の思潮の二つの流れを代表してゐました。論争の中心點は「暴力と非暴力」とに懸つてゐたのですが當時の自分にはその何れか是であるかを識別し得るに足るだけの素養が無かつたのでした。これは自分にとつて非常に苦痛の種でした。そののみならず幾つかの新しい問題がそれからそれへと出現して來ました。總て斯る心的な矛盾や疑問を解決する爲にはどうしても生活の轉換か不可欠な條件であるといふことを痛感するやうになり東京へ行く決心を定めたのでした。

(は) 東京に來て明治學院に入り同校に研究会のあることを知つて直ちに入會しました。最初この研究会でぶつかつたのは「コンミユニスト、マニフェスト」でしたがむづかし過ぎて理解が出來ずマルクス主義の全構造を知悉す

るといふが如きは遼遠の事だといふ感を抱きました。之に反して當初僕が出席し始めた學聯の會合及びその會合を牛耳つてゐた後藤、志賀、田畑といった連中は直接的な感化を及ぼしました。當時の會合は古い連中(村尾等より以前)の獨舞臺で(上カラノ運動)一點張でありましたが出席した若い連中にはその熱に於て信念に於て襟を正さしめるやうな處がありました。自分の可成久しい間の懸案であつた「暴力と非暴力」の問題に何時とはなしに解決を與へて呉れたのもそうした會合でした。自分はそれ迄はこの問題に就いて一見些少な點……然し思想の發展過程から見れば決定的な點に於て躓いてゐたのでした。それは第一に現社會の維持を目的とする階級がその目的を達する爲に一切の手段機關設備を用ふること何んの躊躇もしないといふ赤裸々な事實、また用ひずに居られないといふ必然性を非常に漠然としか認識してゐなかつたこと、第二は現社會の倒壊を目的とする階級がその目的の達成の爲凡ゆる手段を用ひてはならぬといふ理由は在存しない事又用ふると否とが一つに敵對階級の行爲懸つてゐるといふ蓋然性を意識外に置いてゐたことでした。簡単にいへば小ブルジョアの平和思想、超階級的な理想主義がまだ現實を正當に評價せしめなかつたのでした。こうした一問題丈けに止まらず進んで人には一切の現象と事物の本質が階級的見地よりして初めて把握し得るものであることや一切の既成の概念一の分析と批判が著しいイデオロギーを止揚するために必要である事等を教へると共に信じさせたのでありました。當時に於ても學聯の重立つた人々はマルクス主義の武器に武装してゐる者も切るといつた調子でした従つて自分の持つてゐた小ブルジョア的な思想などは全くそれらに向つては齒が立たないのでした。が過程的に見れば發展は遅々たる程度に止まつてゐたのです。何故なら當時學聯は研究か實行かの二元論に低迷してゐた頃であり次いで

リベツカ時代に踏み迷つてゐたからです。併し總て其の経験に學び運動が新しい階段に展開し始めると學聯現存の關東聯合會の連中は總體に飛躍を遂げました。勿論我々の運動は當時の社會運動全般の狀勢とは切り離し得ない關係の下にあるものです。また當時の全運動は今日の様な明確な分野に分れてはるませんでした。唯醸成されつゝあつた新形勢が我々の運動に微か乍ら反映されてゐたに止まつてゐました。それが總て新しい無産階級の勢力關係の出現に當面するや急劇に轉換しました。志賀君の論文はこの轉換期の一つの記念塔です。自分が稍々過去の小ブルジョアの觀念を脱却し郵船で得た経験をどうにか理解し得たのはこの期の前後でした。人民の中心の氣分がこの頃はつきりとプロレタリアの意識に變りました。學聯の多くの者にとつてそうであつた如くかの無産階級陣營の分裂が過去の一切の経験を綜合化する機縁となり理論と實踐の統一化の第一歩となつたのでした。

千葉縣山武郡千代田村大字山田一六八九番地

日本大學文學部二年

實川清之

當二十四歲

【健康狀態】 健

【家庭狀況】 母一兄あり、資産としては田畑山林合せて約三萬五千圓位を有し中流の生活を營む。

【思想過程】 郷里の地方は小作問題に關する爭議頻々たるものあり、又小作人の生活の悲惨なるを目撃し小作制度の

缺陷に就て人道的立場より同情を寄するに至り大正十三年夏頃日本農民組合關東同盟に交渉し郷里に同組合山武郡支部を設立せり組合入會前より社會科學に關する雜誌書籍等を閲讀したり。其の當時にありては未だ研究といふ程度のものには非ざりき。農民組合に關係したることが機縁となりて其の後意識的に社會科學の研究を開始せり。未だ研究十分ならざるを以て確信を以て言明するを得ざるも大體に於てマルクスズムを是認するに至れり。

福島縣相馬郡小高町南小高字新町四五番地

京都帝國大學經濟學部一年

鈴木安藏

當二十三歲

【健康狀態】 健

【家庭狀況】 兩親亡、祖父、姉夫婦、財産家畑あるのみ。

【思想過程】 (同人の手記するところ左の如し)

何故にマルクス主義を信するに至りしか？

自らかくかくの理由によりかくかくの道程を経て現在に及んだと意識することは必ずしも現實に自からが現在に到達せる眞實の理由過程ではないであらう。

意識は錯誤するものであり我々は一人の人間を彼れが彼自身を如何に意識してゐるかによつては判断し得ず、彼の行動實踐を通じてのみ正確に判断し得るものである。

學生治安維持法違反事件身上調査

此前提の下に此の一文を草する。

中學に入學せし當時及二年三年自分の理想(?)は漠然ながら政治家に存してゐた。學識を具へた政治家そこに至るには高等學校をおへて大學高等文官試験官僚との道程を経ねばならぬ又常に好成绩で進み行かうと考へてゐた様に思ふ。然し當時から自分の心は一途にかかる理想を追ふ心持のみではなかつた。

かく政治家なりになつて何をするか? と言へば自分は母が第一にどんなにか喜ぶであらうとの理由が根本的決定的のものであつた。

自分は出來得る限り努力し學校規定の勉強に努力したのも實に畢竟母が喜ぶとの楽しい期待からである。そして母が若くして自らに残された只一人の男の子を貧窮と屈辱との中に育て來つた母にとつては其の子の未來に期待するものは偉人であり學者であり人格者であつたから。然し母が直接これになつたらよからうなどと言つたことは遂になかつた様に思ふ。又周囲の自分を愛して呉れた人々の誰にも強制的に言はれたことは無かつたと思ふ。

中學三年、此頃自分は高山樗牛に全的の憧憬をさゝけた「文ハ人ナリ」「瀧口入道」「平家雜感」を幾度讀み返しては彼を思ひ偲んだことであつたらう。自分の抱く理想的政治家は極めて樗牛に依つて所謂政治家の型を根本的に覆した體のそれとなつた。否更に自分は樗牛の如く思想家とし批評家として生き様との念に此頃動かされた。自分の天分の貧しさに對する悲しい氣持、自らを嘲ける體の氣持は然し極めて自分の前途に對して悲觀的の氣持を與へずにはなかつた。之に加ふるに母が二十幾歳の時以來父に歿せられ貧窮の中に病弱の身體を働かしつゝ生き續けて自分の爲に苦しんでゐることを思ふ念益々深く幾度か中學を止して郷里へ歸らうかとの思ひに迫られた。然し歸郷して

何になるのか? と反問しては結局かうしてこのまゝ勉強しつゝければならぬと思ふのだつた。社會がその社會に生存する個々人に對して何等生活の保護責任を持たぬこと、馬鹿なものでも財産あれば平然として中學へも來ることが出来るのに優れた自分の小學時代の友は小僧になり丁稚になり小作人になつてしまつたとの反省は此頃から自分は何故斯うなのかとの疑問を持たした。

中學四年、高等學校へ入學しようと決心した何の爲にと考へる程自分は成長してゐなかつた母を喜ばし得る偉人となる爲に過ぎなかつた。

樗牛が嘗て學んだといふのに憧れて來た高等學校の生活は然し大きな幻滅であつた。騒々しい所謂高等學校生活氣分授業のつまらなさと言ふ感じが強く自分を襲ふた。然し一方自分にも斯うした氣分に入つて此の生活を樂しまうとも思ひつゝ夏目漱石氏の「行人」有島武郎氏の「迷路」は高等學校一年の折の忘れ得ない讀書である。人を疑ひ自らも疑はずにゐられなくなる「行人」の主人公、自分の性慾自分の醜さに言ひやうない苦しみを苦しむ「迷路」の主人公は又自分自身の姿だと思ふのだつた。政治家學者にならうと志した過去の自分があはれますにゐられなくなつた。幼い時うけた基督教にも一度歸らうとした。此頃何にならうどころではなく此自分は如何にしたならば此醜くさと此愚かさから救はれるか? どうして自分は同じ自嘲哀愁を抱く人々を慰め得る夏目氏や有島氏の如くなり得るか、それが全關心事となつた。此寂しさに驅られて島崎藤村、武者小路實篤、吉田絃二郎、江馬修の諸氏の作品又ドストイェフスキー、アンドレーエフの諸作品就中ドストイェフスキー武者小路の文等を耽讀したのは此ころから始まる。「罪と罰」は何度涙をこぼしつゝ讀んだか判らない。トルストイの「我等何ヲスベキカ」「我々の時代の奴隷

制度」に恐ろしい迄に考へさせられたのも此意味である。「人間が悪イカラ罪が起ルノデハナイ人間ハ其ノ境遇ノ中ニ罪人トナリ悪人トナル様ニソダテラレルノダ」との反省は痛く自分にせまつた。しかしまだ此反省は徹底的になされなかつた。自分の苦みは依然として個人主義的に自分一個の問題についてのみだつた自分は醜い人間だ自分の天分は貧しい、一體俺はどうなるのか？との重苦しい氣持に憂鬱にされつゝけた。クリスト教に走つても醜い俺はやつぱり醜いのだ、こんな人間が救はれやうなどと思ふことがたゞ利己的のやうに思はれて之もよしてしまつた。善と悪といふ考へにまつはれ出した。高等學校二年の時にリップスの「倫理學の根本問題」を耽讀しこゝに自分の行く道があると信じ出した、然し善を行なはう之が善だと知つても其の蔭から覆へされて行くし自分自身の意志の弱さによつて又自分のどうとも出来ぬ境遇の力に依つて又社會にはもつと不幸な人が澤山存してゐる。トルストイの「何ヲ爲スベキカ？」に書き出した彼の苦しみと思はれた。竊みをする、淫賣をする、人を殺す―その根柢に流れてゐる境遇の力を思ふと人間は何と言ふ弱い愚かしいものだらうと思はせられた。この社會を何とかならぬか？幾百人のラスコリニコフが人を殺しソーニアが淫賣をしなければならぬやうなこの社會！人間が醜くなるのも罪を犯すのも弱い人間のどうとも出来ぬ境遇の力に押し動かされるからではないか、二高三年の頃書き起した「或寂しき夜の想片」はその氣持を書いたのであつた。

永井荷風氏の「歡樂」の主人公が「諸君は金持の子供が竊みをしてないのを見て彼を善人だと尊敬する必要はない一體竊みをしなくとも差支のない程金のあるその幸福さを羨やめばよいのだ」と言つた言葉が自分に強くひいた。又人間同志の情愛煩惱とよばうと愚痴と罵らうと論理的に處理出来ない人間感情の複雑さ―近松や永井荷風氏やを

愛讀したのもその描き出した繁雜な人間の愛情のうちに生々した現實の人間を見出したからだつた。かうしてリップスを通じ更にカントを通じて倫理學を研究しようとした自分は論理的に又個人を主體としてその背景境遇に適切な注意を拂はない倫理學にはもはや心をひかれなかつた。

善とは何であるか？

と結論しても自分の現實に生きる爲に常にそれをそむいてゆく、又一切の人間の罪惡を主として各人の惡意から生れると云ひ各個人の責任に歸する倫理學が貧にせまられて身賣する娘にとつては何になるか、人をだまして人に憎まれても自分さへよければいゝといふ社會的境遇の中に利己的に行動する様な境遇の中に幼少から育つて來た人間にたゞ彼に人を愛せよと解き大切なのはたゞ生活することではなく善を行ふことだと教へる倫理學が何になるか？一日の食事にさへ差支へてる貧しい人々に價値ある人間の生活はたゞ生存することではなく道になつた善を行ふことだと強ひる倫理學は何の意義があるか？人間を神にしようとする倫理學、人間から人間的感情を捨てさせる倫理學！長谷川如是閑氏「現代社會批判」其の他氏の諸論文を貪るやうに讀み出したのもこれに始まる。社會に起る犯罪貧困幾多悲惨事は然し階級對立の現在社會制度の下にあつては必然に起る、生産手段の獨占の下に他の勞働民衆を搾取し一切の政治を經濟を自ら絶ち少數資本家の利害に奉仕せしめやうとする階級の存する限り之等の悲惨事は避け得ない此事實に氣付いた時始めて自分の思想生活には忘れ得ない大きな轉機が起つた。

河上肇氏の「社會問題研究」をその最初から繰り返し讀み續けたことは自分に明い前進を示して呉れた。又自己の友人達が深く自分にこの前途に關し力強い暗示を與へて呉れた。

A
228

秘

思想研究資料

第八輯

司法部刑事局



昭和三年八月

マルクス！ それはユウゴウやドストイエフスキーやトルストイやによつてたゞ矛盾とし悲惨として悲しまれ描き出されたゞけの事實が何故に然るか如何にして生ずるかを明確に示して呉れた最初の人であつた。こゝから社會主義的諸文獻の讀書が始まる。

社會主義こそ否マルクス主義こそ自分を救ひ社會を救ふ！

自分はマルクス主義を歩一步學ぶにつけて此最初の心念の益々明確に證據付けられてゆくのを感ずる。そして振返つて政治家學者藝術家倫理學者といふ種々なる概念を思ひ浮べる。階級對立の社會に於ては萬人に共通して普通妥當的にあてはまる倫理學は斷じてない。政治家とは支配階級の手先となつて被支配民衆に對する支配を確立し維持する働きをするものである。藝術は現代に於て無意識裡に民衆を盲目化し頹廢的化し無氣力化する。抽象的倫理學は偽善者として民衆に盲從隷屬を強ひるにすぎない。宗教は更にさうだ。マルクス主義の立場から現代社會の階級對立性所有關係と矛盾せる生産方法社會に存する貧困罪惡の所以を認識するとき一切の自己の過去の思想觀念理想は徹底的に再批判され否定されねばならぬ事を信ぜずにはゐられなかつた。そして現在に於て一層此念は深い。

228

はしかき

近年、殊に大正十年以降現實の社會生活に對する意識が著るしく鋭敏となり、經濟力と之を中心とする社會的機構の問題が何かにつけて人の心を刺戟し又刺戟しつゝあるのであるが、此の事實は夫れに對する是非善惡の態度如何に拘はらず認めなければならぬところであり、此の問題を中心として生じ又生じつゝある時代の動きといふものも亦何人も認めずにはゐられなくなつて來てゐるのである。勞働、小作、失業、貧困其他幾多の社會問題が人々の心を捕へると共に其の必然の結果として思想上の動搖を招來し、穩健にして合法的なる諸種の思想並運動の行はるる一方に於て過激にして非合法的なる幾多の思想並運動が行はれてゐる。而して斯る事實は私共の眼前不可動の事實であるのみならず靜かに私共の周圍に展開されつゝある社會の客觀的諸情勢を観ると、或る種類の人々の間には益々其の意識の尖鋭化を來たし詭激なる社會主義思想を指導精神とする社會運動が逐年擴大横流する傾向があり其の不可避的結果として思想並其の運動に基く犯罪の益々増加して行くを見るのである。乍併一方に於ては上叙の如き社會情勢は或る種類の人々に對しては知識的よりも感情的に影響し、理論よりも燃ゆるが如き叛逆精神を培ひ鬱積せる不平の爆發する所不敬の言動となり、不敬事犯の漸次増加し行く傾向に在ることも亦看過することの出來ない事實であつて、此等の不敬事犯を通じて其の

犯罪の原因論的觀察を爲し適切なる措置を講ずることは又當今の爲政者、研究家、實務家の急務であると考へる。

本輯は斯の如き立場から、具體的に裁判、檢察に現はれたる不敬事犯に關する報告の儘を収録して社會思想の推移に深き關心を有つ實務家、研究家の方々の参考の一資料たることを企圖したものであつて、不取敢大正十年より昭和二年に至る六ヶ年間の不敬事犯中其の起訴せられたるもの及起訴猶豫處分に附せられたるものを犯罪時を標準として順次編輯したのである。

昭和三年八月

思想部

目次

起訴事件

大正十年	李 鐘 夫 (安濃津).....一	本多忠成 (神戶).....二六
	宮澤政次郎 (前橋).....三	上月岩太郎 (同).....三〇
	脇 貞 邦 外三名(松山).....五	宇治木一郎 (同).....三三
大正十一年	山口與曾八 (東京).....二	田畑松治 (廣島).....三四
	青山年見 (札幌).....二五	向 喜 好 (神戸).....三六
	石田英一郎 (京都).....二八	露本美代治 (同).....三六
	長井尙夫 (名古屋).....二〇	大正十三年
大正十二年	仲原壽治 (岡山).....三	古市熊三 (浦和).....四〇
	高野松次外一名(長崎).....二五	五藤正慶 (高知).....四二
		松岡又藏 (大分).....四四
		野口市郎 (大阪).....四七
		河本新太郎 (同).....五〇

起訴猶豫事件

堀田昇(東京).....	三
金子巽(廣島).....	五
田代匡(東京).....	五
富田善造(神戸).....	六
米光甫(熊本).....	六
三枝金助(甲府).....	七
南條増次郎(同).....	七
桑田鹿三郎(大阪).....	七
三島末太郎(廣島).....	七
野口市郎(大阪).....	七
今津盛馬(神戸).....	九
大正十四年	
小林政五郎(浦和).....	三
藤江俊夫(京都).....	五
山口毅(樺太).....	七

吉森信治(神戸).....	七
大正十五年	
昭和元年	
笹岡榮(長野).....	三
小松尙榮(高知).....	六
丹羽末吉郎(長崎).....	六
菊池春芳(松山).....	八
村松時雄(札幌).....	一〇
村松竹雄(外一名同).....	一〇
小西益喜(神戸).....	一〇
海野高衛(長野).....	一〇
昭和二年	
西條彌市(外二名旭川).....	一三
外村貞爾(富山).....	一八

大正十年

井上キミ(札幌).....	一三
龜井英太郎(外一名高知).....	一七

大正十一年

淺尾忠義(東京).....	一三
荒井武治郎(長野).....	一三
若林眞祥(松山).....	一七
石橋廣吉(東京).....	一七
藤本源三郎(仙臺).....	一四

大正十二年

加藤友彌(釧路).....	一四
日野熊太郎(廣島).....	一七
大月清一(福岡).....	一四
正木遼治(名古屋).....	一五

目次

泉隆(金澤).....	一四
-------------	----

赤尾敏(名古屋).....	一五
---------------	----

森田理喜藏(札幌).....	一六
----------------	----

西川房次郎(大阪).....	一三
----------------	----

岩川勇作(福岡).....	一五
---------------	----

岩淵廉次郎(東京).....	一六
----------------	----

大正十三年

須藤新太郎(札幌).....	一六
----------------	----

花輪松巖(旭川).....	一七
---------------	----

北村重三(神戸).....	一七
---------------	----

權藤定雄(福岡).....	一六
---------------	----

廉屋信之(廣島).....	一六
---------------	----

井上三郎(神戸).....	一八
---------------	----

吉永峰藏(山口).....	一八
---------------	----

高桑外男 (神戸)	二九
小畑彌一郎 (新潟)	二九
武田 清 (函館)	二九
大立目 信 (京都)	二九
大和久雄 (名古屋)	二九
廣瀬直一 (大阪)	二九
日野謙夫 (仙臺)	二九
岡部忠治 (福島)	二九
泉 稠次郎 (高松)	二九

大正十四年

石崎謙三郎 (新潟)	三〇
板野五郎 (廣島)	三三
平島忠實 (同)	三五
前田新助 (鹿兒島)	三七
鶴岡藤三郎 (千葉)	三九
阿部順太郎 (新潟)	三一

寺尾直竹 (大阪)	三三
梅川文男 (安濃津)	三六
安樂吉雄 外二名 (大阪)	三六
川畑駿吉 (東京)	三八
稻田 謹 (大阪)	四一
柴田信吉 (水戸)	四四
吉田貞雄 (大分)	四六
堀越留八 (東京)	四八
谷村義一 (水戸)	五一
池田銀造 (松山)	五一
鈴木勇吉 (千葉)	五五
齋藤藤吉 (静岡)	五七
中島啓三郎 (神戸)	五九
高田現一 (松山)	六一

大正十五年

昭和元年

野崎角右衛門 (佐賀)	三三
宮下宗一 (福井)	三六
勝本四郎 (大阪)	三八
山口正範 (福岡)	三〇
内田正治 (山口)	三三
中野喜次郎 (福岡)	三五
河野直三郎 (廣島)	三九
貞宗圓作 (同)	三八
山下留吉 (水戸)	三三
横川四郎 (新潟)	三七
村越二郎 (東京)	三九
喜多元明 (高知)	三九
榎本桃太郎 (浦和)	三五
阪口經雄 (大阪)	三七
水野利三郎 (静岡)	三九
石井龜吉 (千葉)	三〇

沖本和知 (廣島)	四四
隅田輝吉 (同)	四六
安藤千代松 (千葉)	四八

昭和二年

岩田友一 (東京)	三〇
白井安二郎 (札幌)	三一
川井順志 (鹿兒島)	三四
畑地彦志 (神戸)	三八
松谷健治 (同)	三二
赤阪武雄 外一名 (和歌山)	三四
瀧本利一郎 (函館)	三九
藤上勇作 (安濃津)	三二
三谷楠男 (大阪)	三四
進藤小彌太 (秋田)	三七
前田仙太郎 (安津濃)	三九
小川芳藏 (富山)	四二

附 録

出口王仁三郎、淺野和三郎に對する天皇不敬事件 三四五

朴準植、金子文子に對する天皇、皇太子危害事件犯罪事實 三五四

難波大助に對する皇太子危害事件犯罪事實 三五五

自大正十年
至昭和二年 不敬事件^{起訴及起訴猶豫}件數及人員表 三六一

同 不敬事件確定科刑表 三六三

同 不敬罪により^{起訴せられたる者及起訴猶豫に付せられたる者}の年齢別表 三六五

同 上の教育程度表 三六七

起
訴
事
件

起訴事件

津濃安		客體別		第 一 審	第 二 審	上 告 審	職 業	名	年 齡
皇天	后皇	意 檢 見 事	年 結 月 日 了						
懲一年	一〇、三、四	懲一年	棄却	一〇、四、二	棄却		商人 蔭行	李 鐘 大 三	三

一 犯罪事實概要

大正十年三月八日午後二時頃、宇治山田市宮詣町旅人宿打田岩松方二階八疊間の鴨居に掲げありたる、天皇皇后兩陛下御肖像額面を揺り動かし、尙陛下の御面部其他を指先にて突破り、又は搔傷を付し以て天皇皇后兩陛下に對し、不敬の行爲を敢てしたるものなり。

二 家庭的事情

郷里朝鮮には實父、繼母、實弟一人、異弟二人及妻あり、實母は十三歳のとき死亡す。一家は農を業とし、父は鑛山賣買仲立を兼業とするも至つて貧困なり。

三 本人の經歷及性行

小學校卒業後、京城中央學校に三年間在學したるも、家庭の都合にて退學し、大正九年四月苦學の目的を以て東京

大正十年

に出で、正則英語學校に二ヶ月、研修英語學校に一ヶ月在學したるも學資缺乏の爲退學し、専ら人蔭行商に従事し居たるものなるが、今回地方行商を思立ち、同宿人朴春燮の日本大學在學證明書を借受け、之を携帶して同人なりと偽名し各地を行商したる末、宇治山田市に來りたるものにして、在京中容疑の言動を認めざりしと云ふ。

四 本人の精神的身體的缺陷
何等缺陷なし。

五 本人の思想及交友並耽讀したる書籍

行商先、宇治山田警察署及不動銀行宇治山田支店に於て、朝鮮獨立の必要を熱心に談論したることありて、密に過激なる思想を抱懐するものゝ如きも、其實行を企畫したることなく、又連類者なし。交友は同郷出身にして同宿人たりし、日本大學生朴春燮及在京同國人姜夢求、辛在昇等なり。耽讀の書籍不明。

六 犯行の直接動機

酒酔に乗じて爲したる惡戯なりと云ふも、行商先に於ける本人の言動に徴し、單純なる惡戯と認むる能はず。

七 其他社會的原因等参考と爲るべき事情

不明。

八 處分當時に於ける該犯罪周知の程度

被害者方家族並同宿人二名、其他本件關係者の程度に過ぎず。

九 刑事上の處分を受けたることの有無
なし。

前橋		第一		第二		審上		告		審				
客體別	第	前	橋	地	方	第	二	審	上	告	審			
皇太子	憲三年	二、三、三	憲二年	憲三年	二、三、三	憲三年	二、三、三	憲三年	二、六、九	取下	職製 工糸	職業 宮澤 政次郎	名 氏	犯時 年齢
	憲三年	二、三、三	憲二年	憲三年	二、三、三	憲三年	二、三、三	憲三年	二、六、九	取下	職製 工糸	職業 宮澤 政次郎	名 氏	犯時 年齢

一 犯罪事實概要

大正十年九月三日前橋市に於て、皇太子殿下御歸朝奉祝の提灯行列を舉行したる處、同月十四日自宅に於て「第一警察のする仕事が入らぬ、何だ東宮位が洋行したのにあのさわぎが、あの青二才が——青二才」なる文詞を記載せる文書を作成し、之を前橋警察署に郵送して署員に閲讀せしめ、以て皇太子に對し不敬の行爲を爲したり。
(註恐喝罪と共に處刑せられたるものなり)

二 家庭的事情

養母ふくは實父忠六の妾にして、實父は時々ふく方に入出し居り、其間四名の私生女子あり、家庭は圓滿なり。

三 本人の經歷及性行

家政の都合上、中學校二學年を半途にして退學し、其後製糸場の職工に雇はれ家庭より通勤す。性陰險にして動も